

八重山諸島の

# イネ科

## 検索ハンドブック

石垣島・西表島編

南嶋自然誌研究会

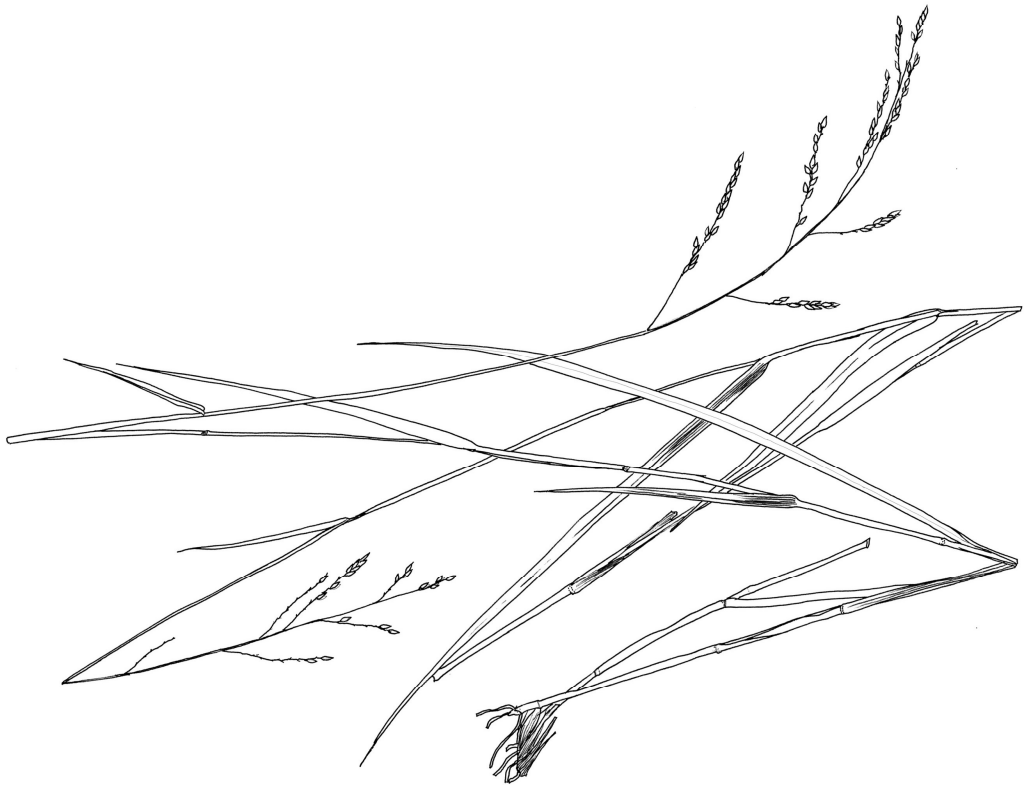


鹿児島大学総合研究博物館

八重山諸島の  
**イネ科**  
検索ハンドブック

石垣島・西表島編

Illustrated Guide to the Poaceae of  
the Yaeyama Islands: Ishigaki and Iriomote



南嶋自然誌研究会 Nanto Natural History Research Group  
鹿児島大学総合研究博物館 Kagoshima University Museum

八重山諸島のイネ科検索ハンドブック  
石垣島・西表島編  
ーもくじー

はじめに	3
用語解説	6
本書の使い方	8
八重山諸島のイネ科 属検索ガイド	9

<b>Ehrhartoideae</b>	19	<b>Centothecoideae</b>	53	<i>Melinis</i>	96
<i>Chikusichloa</i>	19	<i>Lophatherum</i>	53	<i>Microstegium</i>	96
<i>Leersia</i>	20	<b>Panicoideae</b>	54	( <i>Leptatherum</i> )	96)
<i>Zizania</i>	20	<i>Apluda</i>	54	<i>Miscanthus</i>	98
<b>Pooideae</b>	21	<i>Arthraxon</i>	55	<i>Mnesithea</i>	100
<i>Avena</i>	21	<i>Axonopus</i>	55	<i>Moorochloa</i>	101
<i>Poa</i>	22	<i>Bothriochloa</i>	57	<i>Oplismenus</i>	102
<i>Polypogon</i>	23	<i>Capillipedium</i>	60	<i>Panicum</i>	104
<b>Chloridoideae</b>	24	<i>Cenchrus</i>	62	( <i>Megathyrsus</i> )	104)
<i>Chloris</i>	24	<i>Chrysopogon</i>	63	<i>Paspalum</i>	109
<i>Cynodon</i>	27	<i>Coix</i>	65	<i>Pennisetum</i>	116
<i>Dactyloctenium</i>	28	<i>Cymbopogon</i>	66	<i>Phacelurus</i>	118
<i>Eleusine</i>	28	<i>Cyrtococcum</i>	67	<i>Pogonatherum</i>	119
<i>Enteropogon</i>	30	<i>Dichanthium</i>	68	<i>Rottboellia</i>	119
<i>Eragrostis</i>	31	<i>Digitaria</i>	70	<i>Saccharum</i>	120
<i>Eustachys</i>	37	<i>Echinochloa</i>	78	<i>Sacciolepis</i>	122
<i>Leptochloa</i>	38	<i>Eremochloa</i>	81	<i>Schizachyrium</i>	123
( <i>Diplachne</i> )	38)	<i>Eriochloa</i>	82	<i>Setaria</i>	124
<i>Lepturus</i>	41	<i>Eulalia</i>	84	<i>Sorghum</i>	130
<i>Sporobolus</i>	42	<i>Garnotia</i>	85	<i>Spinifex</i>	133
<i>Zoysia</i>	45	<i>Hackelochloa</i>	86	<i>Spodiopogon</i>	134
<b>Arundinoideae</b>	47	<i>Hemarthria</i>	87	( <i>Eccoilopus</i> )	134)
<i>Arundo</i>	47	<i>Hyparrhenia</i>	88	<i>Stenotaphrum</i>	135
<i>Phragmites</i>	48	<i>Ichnanthus</i>	88	<i>Thuarea</i>	135
<b>Micrairoideae</b>	50	<i>Imperata</i>	89	<i>Urochloa</i>	136
<i>Isachne</i>	50	<i>Ischaemum</i>	90		

コラム：落穂ひろい

①消失するイネ，テフ	33
② <i>Sporobolus</i> は牛も食わない	42
③穴が空いた謎のイネ	58
④放牧地の植生を巡る過去と今	63
⑤ヒメオニの群れの中に	68
⑥トランスバーラ	72
⑦幻のメヒシバ	74
⑧沖縄本島のヨシススキ	120
⑨消えゆく八重山の在来雑穀	127
⑩八重山諸島のタケ亜科	130
⑪琉球列島のニクキビモドキ属	139
⑫シグナルグラスの実態	142

巻末資料

活動写真	145
線画の作成にあたり	
参考にした標本または文献	147
引用文献	151
学名索引	153
和名索引	157
奥付	160

## はじめに

本書は、南西諸島の最南西端に位置する八重山諸島(図1)の石垣島および西表島に産するイネ科植物に焦点を当てた識別ハンドブックである。国内有数のリゾート地である石垣島、国内最大のマングローブと広大な常緑樹の自然林を残した西表島は、その温暖湿潤な気候と地史を反映した特異な生物相を有しており、過去から現在に至るまで、多くの研究者や自然愛好家たちを惹きつけてきた。両島の植物相については、古いもので1960年代から琉球列島の植物誌の一部としてまとめられており(例えば初島1975, Walker1976, 初島・天野1967, 1994, 島袋1997)、また近年になると、アクセスが困難な西表島の最深部まで踏査が行われ、その全容は解明されつつある(山本ほか2023)。一方でそれらの知見は、木本類を除き手軽に使えるような図鑑として整理されていないのが現状である(大川・林2016)。このことは、南方のエキゾチックな植物たちを見慣れぬ本土からの生物調査員や初学者にとってたいへん大きなハードルとなっており、当該地域における調査研究に支障をきたしていることは想像に難くない。

冒頭で述べた通り、石垣島や西表島は美しい海や自然林を想起させる一方で、中世から水稻栽培や畜産が盛んな地域でもある。今なお水田畦畔や、肉牛飼育のための放牧地といった二次草地在比較的大面積で維持されているのはその名残といえる。しかしこれまで、そのような二次草地に生育する植物についてどれだけの人々が注目していたのだろうか?少なくとも草地を含んだ両島の包括的な植物相の調査は約半世紀の間行われていない。こうした背景から、著者らは2024年より公益財団法人自然保護助成基金のプロジェクト・ナトゥーラ・ファンド助成を受け、八重山諸島を対象に、人間活動によって維持管理されている二次草地の生物多様性保全に向けた植物相の基礎調査プロジェクトを立ち上げた。

約2年間の調査で得られた標本は約16000点、このうち最も多くの種数を占めたのが本書の主

役、イネ科である。イネ科は一見すると地味なその草姿や野外での識別の難しさから、植物愛好家からも敬遠されがちな分類群である。しかし、八重山諸島の草地には本土在住者からは想像できないほど多種多様で個性豊かなイネ科が生育しており、中にはコモロコシガヤやヤエガヤといった局所的に残存する希少種も存在する。著者らの調査で確認されたイネ科の種数は未同定のものも含めるとおよそ130種。これは確認された草原生植物種の約18%にもおよぶ。中には既存の図鑑に図版が掲載されていないようなマイナーな種や、近年定着したと考えられる帰化種も含まれており、その成果の整理と集約が必要と考えられた。

調査は自然度が高く伝統的な管理がなされている水田畦畔や放牧地を優先しつつ、より多くの種を見出せるよう、多地点での実施を心掛けた(図2)。したがって本書における草地は、比較的自然度が高い二次草地だけでなく、海浜や風衝地に見られる自然草原や、路傍や畑地などおおよそ観察対象となり得ないような二次的環境、市街地や用水路のコンクリート間隙に見られる草むら、牧場と森林の境界部の林縁環境などありとあらゆる草地を含んでいる(図3)。本書では、著者らの調査で標本が採られた種、既存の文献や標本で当該地域に記録がある種、両島

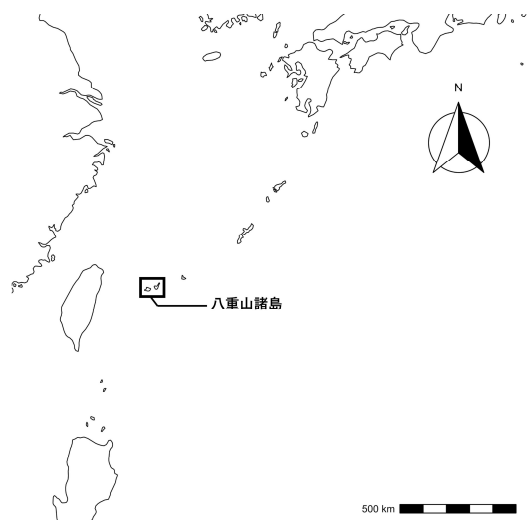


図1 八重山諸島の位置

に出現する、あるいは出現する可能性がある種は、タケ亜科を除いて在来・帰化、普通・希少を問わず、できる限りとりあげた。併せて、同定の手がかりになる形質をとらえた線画と、当該地域に特化させた検索表を合わせて作成し、手軽に使用できるハンドブックを目指した。過去に採取された標本の検証も含め植物相の解明に不十分な点は残っており、また未同定種の一部は掲載を見送ったものの、当プロジェクトで得られた成果に森林内に限って見られる一部の種（ヒナヨシ、アオシバ、ササクサ等）を加えたことで、石垣島と西表島に分布する大半のイネ科植物を掲載することができたと考えている。著者らの調査は小浜島、黒島、与那国島など他の八重山諸島の島々を対象として現在も継続しており、毎月の様に追加される膨大な数の標本を分類し続けている。これらの地域における成果のとりまとめは、今回掲載を見送った種と共に、次巻以降の宿題としたい。

当プロジェクトで採取した標本は、固有の採

取番号に頭文字“Y”を付して整理している。本書に掲載した線画は基本的にこの“Y”ナンバーの標本に準拠したものであるが、“Y”ナンバーの標本だけで不十分であった場合は、各ハーバリウムの収蔵標本や、GBIF, iNaturalist, Seed Identification Guide などのデータポータル、専門書籍の画像も参考にした。この場合、同定の真偽性についてはもちろんのこと、地理的な変異を考慮して可能な限り石垣島、西表島産のものや、地理的に近い他の産地のものを用いるよう慎重に選定した。線画の参照元については巻末にまとめている。

数ある専門書と比較してもマニアックな仕上がりと化した本書ではあるが、その存在が八重山諸島のイネ科植物の同定に取り組む読者にとっての礎となれば幸いである。

(南嶋自然誌研究会)

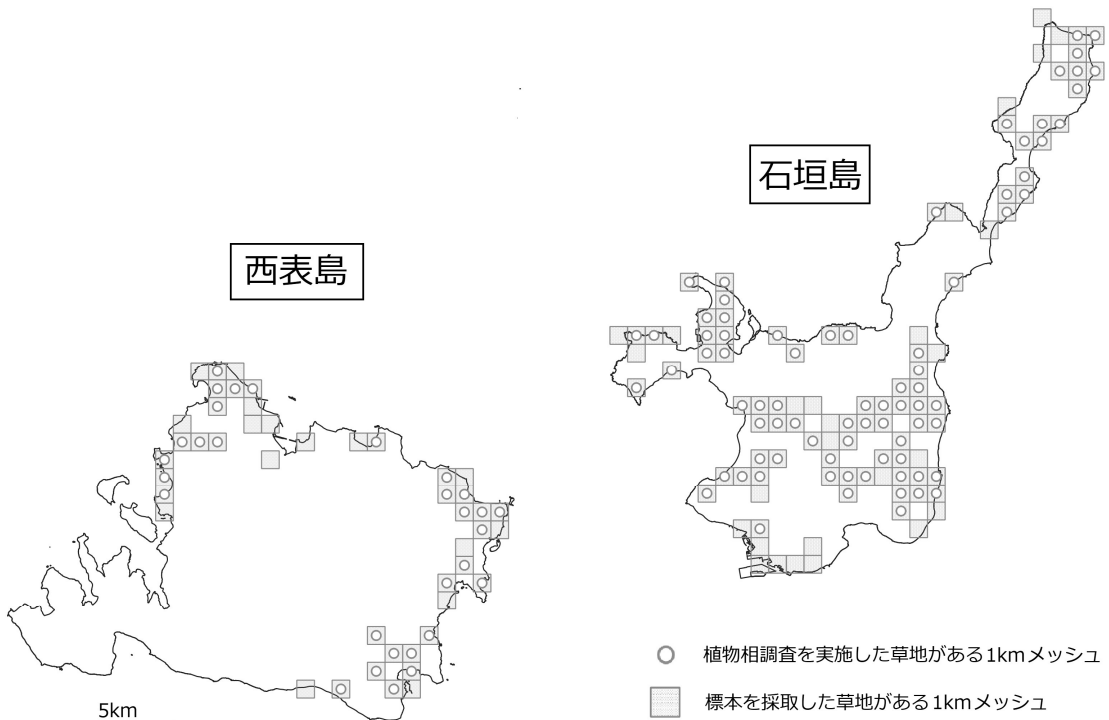


図 2 植物相調査を実施した草地と標本を採取した草地の位置(1km メッシュベース)

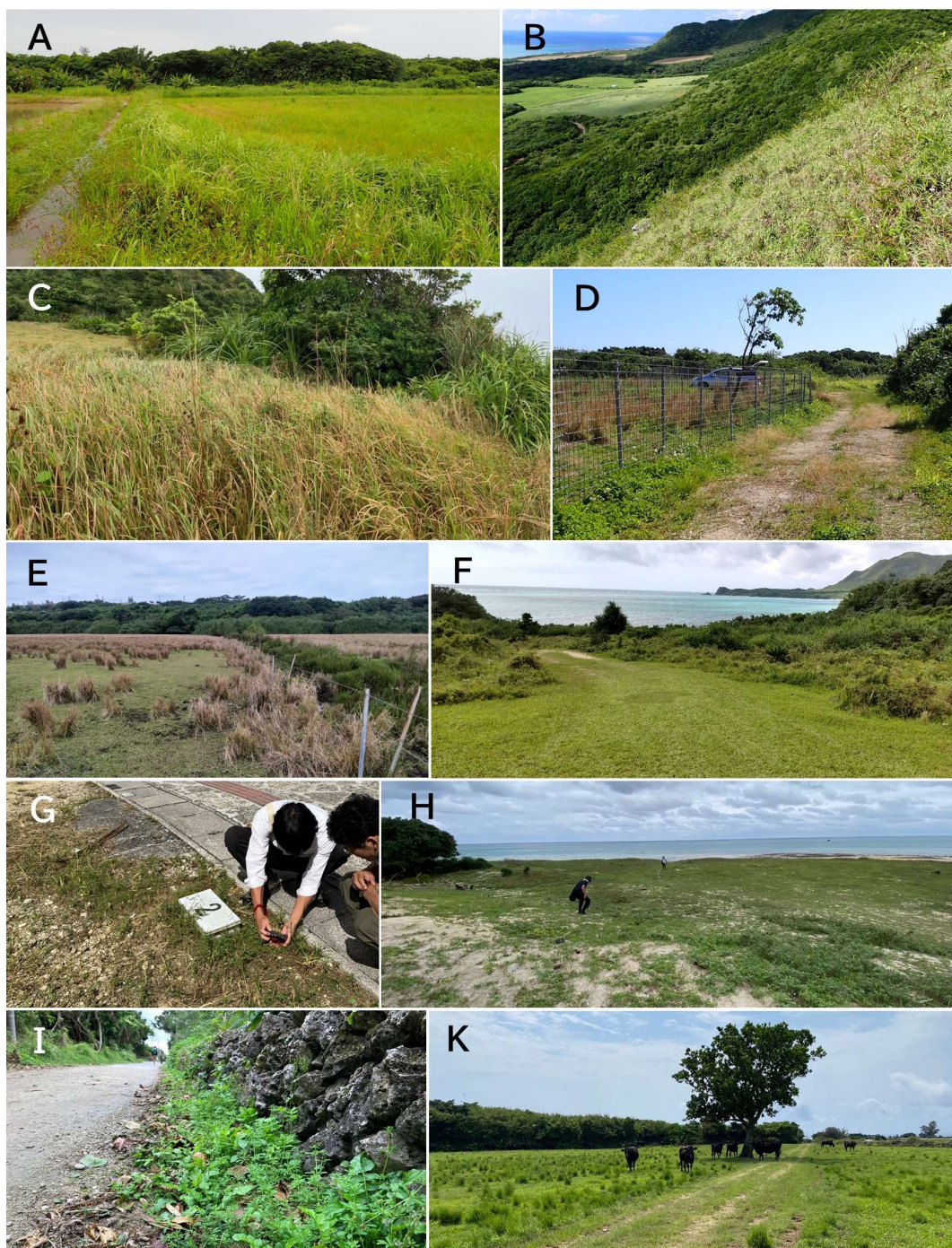


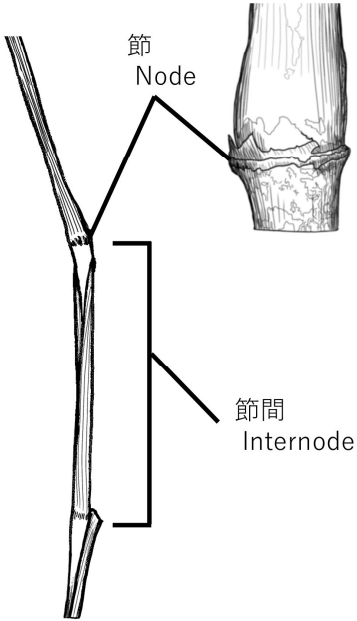
図 3 調査を実施した草地の例

- A: 水田畔畔, B: 海岸に面した岩山の山頂部に成立した風衝草原, C: チガヤが優占する草刈り型の採草地,  
 D: 放牧地に隣接した農道とわだち, E: 水田を転換した湿性の放牧地, F: 海浜に連続する放牧地,  
 G: 駐車場, H: 海浜の自然草原, I: 路肩の雑草群落, K: 大規模な内陸部の放牧地

# 用語解説

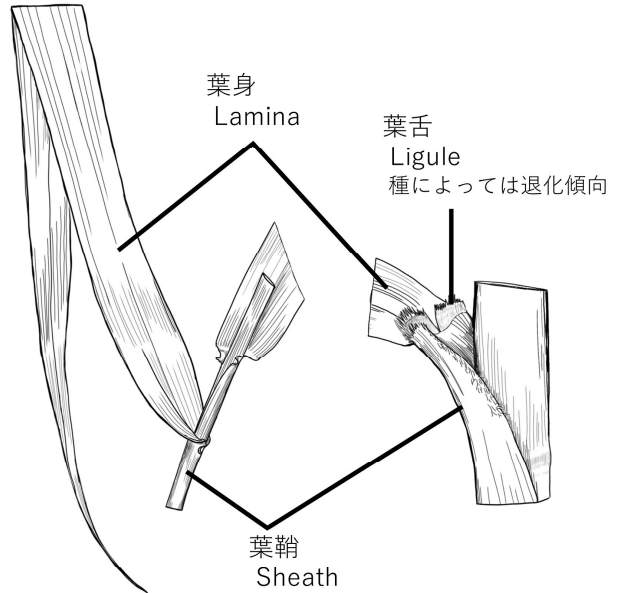
## 稈 Culm

イネ科植物の茎を指す。  
節と節間からなる。



## 葉 Leaf

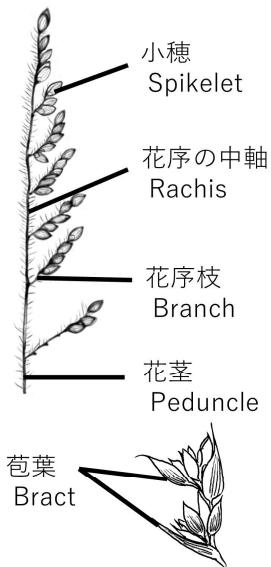
葉鞘, 葉身, 葉舌からなる。



## 花序 Inflorescence

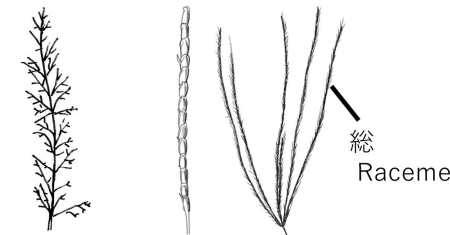
花茎, 花序枝, 花序の中軸, 総, 小穂などからなる。  
分類において重要な識別形質。

### 花序の部位



### 花序の形態

円錐花序は花序枝が分岐し, 全体が先細り型. 総状花序は花序枝が分岐せず, 花序の中軸や花序枝上に有柄小穂が並ぶ総 Raceme からなる. 分岐しない花序枝上に無柄小穂が並ぶものは穂 Spike と呼び, 花茎先端から複数の総や穂が出る形態を掌状と呼ぶ.

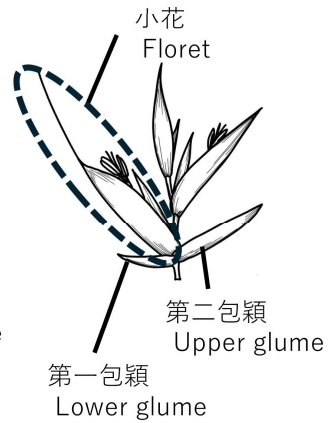


円錐花序  
Panicle

総状花序 Raceme  
掌状に総が付くものもある

### 小穂 Spikelet

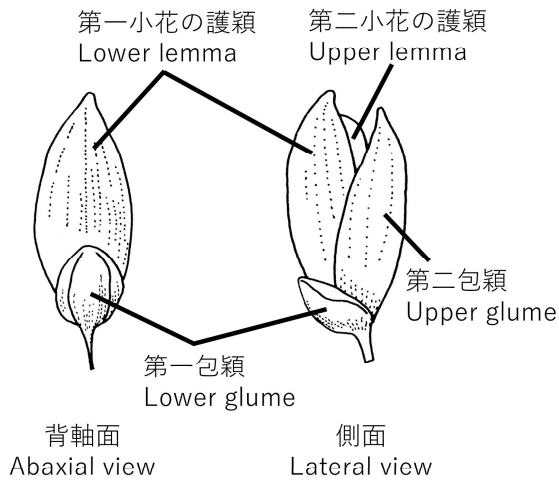
包穎と小花からなる。



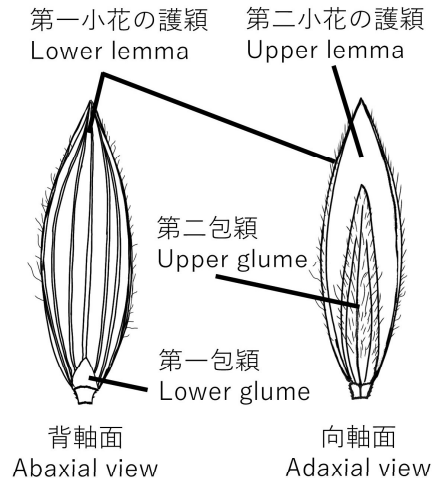
第一包穎  
Lower glume

第二包穎  
Upper glume

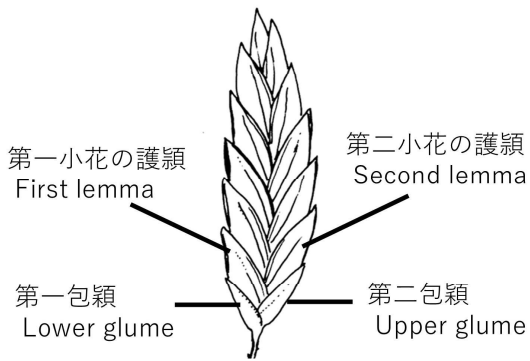
様々な小穂の形態



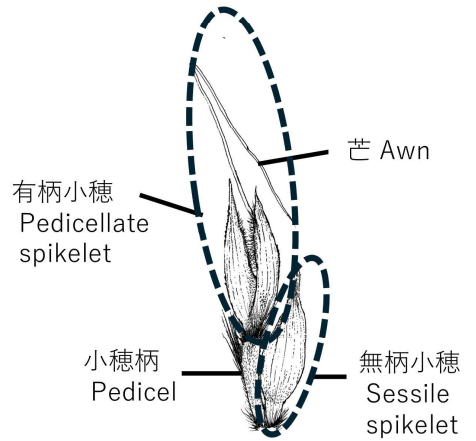
キビ属 *Panicum*



メヒシバ属 *Digitaria*

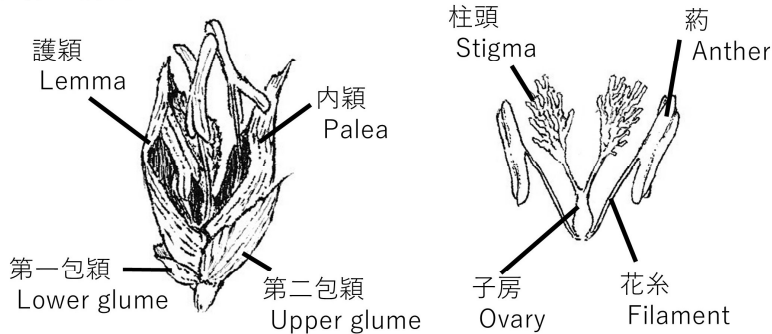


スズメガヤ属 *Eragrostis*



カモノハシ属 *Ischaemum*

小花の構造



ネズミノオ属 *Sporobolus*

穎果  
Caryopsis



スズメノヒエ属  
*Paspalum*

# 本書のつかいかた

- ②
- ① — 【8】 *Cynodon* Rich. ギョウギシバ属 Figs. 9–10
- ④ — A. 地上匍匐枝と半地下茎がある。稈の太さは 1mm 以下、花序枝の長さは 2.5–5cm  
 . . . . . 1. ギョウギシバ  
*C. dactylon* var. *dactylon*
- A. 地上匍匐枝のみがあり、稈の太さは 3mm 以下、花序枝の長さは 4.5–8cm  
 . . . . . 2. オニギョウギシバ  
*C. nlemfuensis*
- ⑤ — ⑥
- ⑧ — 1. *Cynodon dactylon* (L.) Pers var. *dactylon* ギョウギシバ
- ⑨ — 生育地 : 畑地周辺の路傍、放牧地.
- ⑩ — 生育状況 : 低茎の草地で両島とも普通に見られ、所により優占する.
- ⑪ — 近縁種 : 変種でオオギョウギシバ var. *nipponicus* が知られる.
- ⑫ — 識別点 : オオギョウギシバは花序の枝が長く、小穂がやや疎につき、大型のものであるが形態は連続的である (大井 1941).
- 備考 : 石垣島の水田畦畔 1ヶ所でオオギョウギシバに該当する個体が採取された.



Fig. 9 a–e *Cynodon dactylon* var. *dactylon*; a. habit, b. shoot, c. base of lamina, d. digitate raceme, e. spikelet.

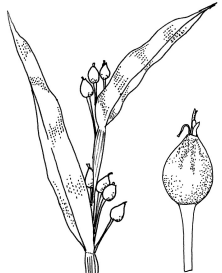

- ①本書における属の通し番号：亜科のなかはアルファベット順とした
- ②属学名, ③属和名：茨木ほか (2016) を基準とし、必要に応じてPOWO (2026) を参考にした
- ④検索表：茨木ほか (2016) を基準とし、著者らの採取した標本から得られた情報をもとに作成した
- ⑤属内の種の通し番号：属のなかは任意の検索表順とした
- ⑥種学名：米倉・梶田 (2003) およびPOWO (2026) を参考にした
- ⑦種和名：米倉・梶田 (2003) を基準とし、掲載がないものは英名のカタカナ表記を記載した
- ⑧生育地：著者らの調査において確認された環境を記載した。ただし、著者らの調査は草地以外の環境や森林域を対象としていないため、当該種全ての生育地やその環境を示しているわけではない。採取されなかった種については文献の情報を引用するか、不記載とした
- ⑨生育状況：著者らの調査における当該種の確認状況を示す。未確認の種は琉球の植物研究グループ (2018), S-netの標本情報, その他文献の情報を引用して記載した
- ⑩近縁種：検索表に記載されていない種や変種, 本土部に生育する近縁種について情報を記載した
- ⑪識別点：検索表に記載されていない種との相違点や, 識別に役立つ形態的な情報を記載した
- ⑫備考：その他参考になる情報を記載した
- ⑬図, ⑭図番号と図のキャプション：図の引用元は巻末に記載した

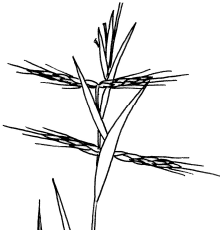

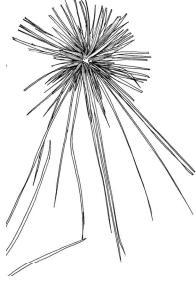

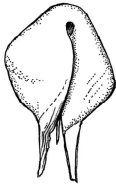
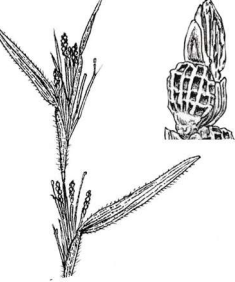

## 八重山諸島のイネ科 属検索ガイド

- A. 花序の基部に茎葉と異形の苞葉をもつ・・・・・・・・・・・・・・・・グループ 1
- A. 茎葉と異形の苞葉はない
  - B. 花序は穂状または総状、またはそれらの花序が2個以上集まってできた花序を持つ
    - C. 花序の中軸は小穂より太く、小穂は中軸の溝やくぼみにはまり込んでつく・・・・・・・・グループ 2
    - C. 花序の中軸は小穂より細く、小穂は中軸にはまり込んでつかない
      - D. 総は稈長に1本・・・・・・・・・・・・・・・・グループ 3
      - D. 総は稈長または葉腋に複数つく
        - E. 総は稈の先端に掌状または放射状につく・・・・・・・・・・・・・・・・グループ 4
        - E. 総は稈の上部に羽状または半輪生状に多段になってつく・・・・・・・・・・・・・・・・グループ 5
  - B. 花序は円錐状
    - C. 円錐花序の枝は短く、小穂は密集して花序全体が円錐形や円筒形のかたまりになる
      - D. 花序には長い芒や剛毛、絹毛はない・・・・・・・・・・・・・・・・グループ 6
      - D. 花序には目立って長い芒や剛毛、または絹毛がある・・・・・・・・・・・・・・・・グループ 7
    - C. 円錐花序の枝は長く、小穂はまばらで花序全体が明らかな円錐形になる
      - D. 小穂は1小花からなる・・・・・・・・・・・・・・・・グループ 8
      - D. 小穂は2小花以上からなる
        - E. 第二小花以上は護穎だけに退化し、小穂は見かけ上1小花となる・・・・・・・・グループ 9
        - E. 小穂はあきらかに2小花以上からなる
          - F. 包穎が他の小花を包み、外から小花数がわかりにくい・・・・・・・・グループ 10
          - F. 包穎は最下小花と同長またはより短いため、外から小花数がわかる
            - G. 小穂は無芒・・・・・・・・・・・・・・・・グループ 11
            - G. 小穂は有芒・・・・・・・・・・・・・・・・グループ 12

### グループ 1

花序の基部に茎葉と異形の苞葉をもつ。

	<p>苞葉はつぼ型で硬化。水辺に見られるが八重山諸島では稀。</p> <p style="text-align: center;">ジュズダマ <i>Coix lacryma-jobi</i></p>		<p>苞葉は刺のあるつぼ型。刺は鋭利で触れると痛い。服などにくっついて小穂ごと散布される。市街地を中心とした荒れ地に見られることが多い。</p> <p style="text-align: center;">クリノイガ属 <i>Cenchrus</i></p>
---	--	---	--

	<p>基部にさや状の苞葉がある枝の先に、2個の小穂群がほぼ水平にひらいて付く。自然度の高い二次草地に見られるが稀。</p> <p>オガルカヤ <i>Cymbopogon tortilis</i></p>		<p>総は糸状に細く、基部にさや状の苞葉がつく。繊細な小型の草本。石垣島、西表島共に記録があるが稀。</p> <p>ウシクサ <i>Schizachyrium brevifolium</i></p>
	<p>苞葉は先が鋭い刺となる。大型で、海浜に見られ、大きな群落をつくる。</p> <p>ツキイゲ <i>Spinifex littoreus</i></p>		<p>総はポート型の苞葉に包まれる。やや湿性の草地に生える。半つる性。</p> <p>オキナワカルカヤ <i>Apluda mutica</i></p>
	<p>花序の背軸面を覆うようなポート型の苞葉をもつ。熟すと中軸が小穂を覆うようカプセル状に湾曲する。海浜に生え、匍匐して広がる。</p> <p>クロイワザサ <i>Thuarea involuta</i></p>		<p>花序は葉腋にも生じる。基部にさや状の苞葉がある枝の先に、総を複数つける。第一包穎は半球状で格子状の模様がある。第二小花は退化していない。石垣島の草刈りによって維持されている草地に生える希少種。</p> <p>ヤエガヤ <i>Hackelochloa granularis</i></p>
	<p>花序は葉腋にも生じる。基部にさや状の苞葉がある枝の先に、2個の小穂群が付く。小穂は有柄小穂と無柄小穂が対になってつき、無柄小穂の多くは長い芒がある。石垣島に見られるが稀。</p> <p>ヒッパリガヤ属 <i>Hyparrhenia</i></p>		

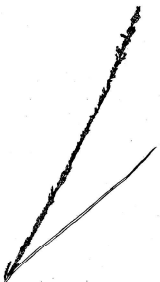



## グループ 2

花序の中軸が太く、小穂が軸の溝やくぼみにはまり込んでつく。

	<p>小穂は中軸の左右に互生、包穎は外側の1つのみが発達。海浜草原に生え、熟すと中軸ごとばらばらになって海流散布される。</p> <p>ハイシバ <i>Lepturus repens</i></p>		<p>無柄小穂の第一包穎の縁に櫛状の突起がある。草丈の低い牧草。</p> <p>チャボウシノシツペイ <i>Eremochloa ophiuroides</i></p>
	<p>花序は葉腋にも生じる。無柄小穂の第一包穎の縁に櫛状の突起はない。熟しても中軸からばらばらにならない。近年の生育に関する確実な情報はない。</p> <p>コバノウシノシツペイ <i>Hemarthria compressa</i></p>		<p>総は2本で平面の面を互いにぴったりあわせてつく。有柄小穂と無柄小穂が対になる。</p> <p>カモノハシ属 <i>Ischaemum</i></p>
	<p>無柄小穂の第一包穎の縁に櫛状の突起はない。小穂の柄は中軸に合着。有柄小穂は存在しない。近年、生育に関する確実な情報はない。</p> <p>ヒメウシノシツペイ <i>Mnesithea laevis</i></p>		<p>花序は葉腋にも生じる。無柄小穂の第一包穎の縁に櫛状の突起はない。総は複数に分岐する。有柄小穂と無柄小穂が対になる。鳩間島の塩湿地に生える。</p> <p>アイアシ <i>Phacelurus latifolius</i></p>
	<p>無柄小穂の第一包穎の縁に櫛状の突起はない。熟すと中軸からばらばらになる。植物体全体が鋭利で、触れると痛い。農地周辺に生育し、石垣島ではごく普通に見られる。</p> <p>ツノアイアシ <i>Rotboellia cochinchinensis</i></p>		<p>総は肉厚で太く、小穂はその中に埋もれる。匍匐してひろがる。草丈の低い草地や駐車場に見られる。</p> <p>イヌシバ <i>Stenotaphrum secundatum</i></p>





### グループ 3


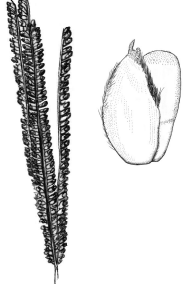
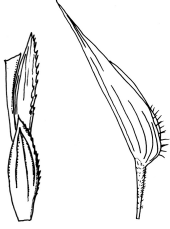
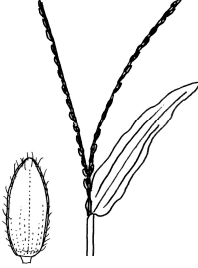

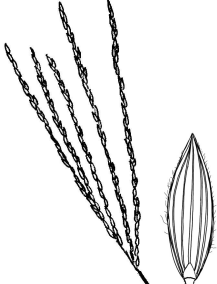
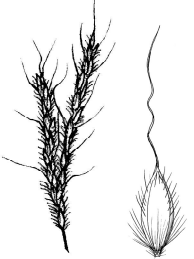



花序は穂状で稈頂に1本つき、枝を分けない。

	<p>花序は細長い穂状になる。小穂は小さく無数。花序の枝が開出し、円錐状となる種（個体）もある。</p> <p>ネズミノオ属 <i>Sporobolus</i></p>		<p>第一包穎は退化。第二包穎は革質で光沢がある。小穂は無芒。長い地下茎や匍匐茎をもつ。草丈の低い放牧地や海浜域を中心に見られる。</p> <p>シバ属 <i>Zoysia</i></p>
	<p>無柄小穂と有柄小穂が対になってつく。無柄小穂は有芒、有柄小穂は無芒で雄性または不稔。ふつう総は複数あるが、生育環境によって総が1本になる場合がある。</p> <p>オニササガヤ属 <i>Dichanthium</i></p>		<p>黄金色の長い芒と細毛におおわれる。植物体は小さく繊細。貧栄養地に多く、山地の溪流沿いにも見られる。</p> <p>イタチガヤ <i>Pogonatherum crinitum</i></p>

### グループ 4


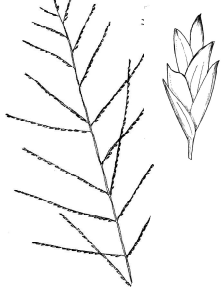
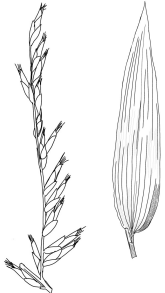
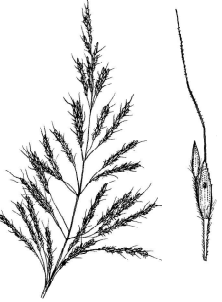




総は稈の先端に掌状または放射状に複数つく。

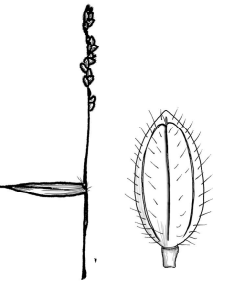
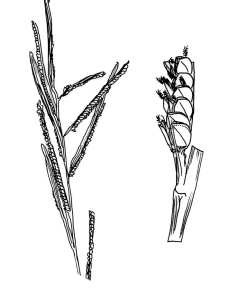




	<p>総は稈の先端に掌状につく。小花は2小花からなるものと3-4小花からなるものがある。芒は長い。すべて帰化植物で、路傍から放牧地まで、あらゆる草地環境に出現する。</p> <p>ヒゲシバ属 <i>Chloris</i></p>		<p>総は稈の先端に掌状につく。小穂は1小花。包穎は先端が鋭くとがり、無芒。葉鞘口部に長毛が目立つ。</p> <p>ギョウギシバ属 <i>Cynodon</i></p>
	<p>総は稈の先端に掌状につく。小穂は数個の小花からなる。包穎、護穎ともごく短い芒がある。</p> <p>タツノツメガヤ <i>Dactyloctenium aegyptium</i></p>		<p>総は稈の先端に掌状につくが、下方の総はやや離れて突くことがある。小穂は複数の小花からなり、扁平で無芒。</p> <p>オヒシバ <i>Eleusine indica</i></p>

	<p>総は稈の先端に掌状につく。小花は2小花からなる。西表島、黒島に記録がある帰化種であるが、極めて稀だと考えられる。</p> <p>ムラサキオヒゲシバ <i>Enteropogon dolichostachys</i></p>		<p>総は稈の先端に掌状につく。小穂は櫛状に配列。熟すと暗褐色になる。小花は1小花を残して退化。包穎は同大異形で小花を覆うように組み合わせる。西表島で見られる帰化植物。</p> <p>スイショウガヤ <i>Eustachys petraea</i></p>
	<p>総は複数が先端に集まってつく。無柄小穂と有柄小穂が対になってつくが、有柄小穂はしばしば退化する。葉は披針形でへりが波うち、基部が稈を抱く。やや貧栄養の草地から水田畦畔まで広く見られる。</p> <p>コブナグサ <i>Arthraxon hispidus</i></p>		<p>総は稈の先端に2本または3本のことが多く、3本目の総はやや離れてつく。小穂は楕円形で、第一包穎は退化してまったくない。低茎の草地を中心に広く見られる。</p> <p>ツルメヒシバ属 <i>Axonopus</i></p>
	<p>稈の先端に数本の総が垂掌状につく。総は有柄。小穂は有柄小穂と無柄小穂が対になり、第二小花の護穎に膝折れする長い芒を有す。ヒメオニササガヤがあらゆる草地に見られる。</p> <p>オニササガヤ属 <i>Dichanthium</i></p>		<p>総は稈の先端に集まる傾向があるが、下方の総はしばしば離れてつく。小穂は披針形～長楕円形。第一包穎は退化してまったくないか、ごく小さい。</p> <p>メヒシバ属 <i>Digitaria</i></p>
	<p>大型の多年草。有柄小穂と無柄小穂が対になってつく。ススキに似ているが、総の中軸に関節があり、熟すとそこから折れる。小穂基部の毛はススキほど長くない。近年の生育に関する確実な情報はない。</p> <p>ウンヌケモドキ <i>Eulalia quadrinervis</i></p>		<p>有柄小穂と無柄小穂が対になってつく。稈は細く、葉はやわらかい。多くは森林生。</p> <p>アシボソ属、ササガヤ属 <i>Microstegium, Leptatherum</i></p>
	<p>総は稈の先端に2本、時に3本。3本目の総はやや離れてつく。小穂は円形～楕円形で、第一包穎は退化してまったくない。小穂の背軸面は平たく中央脈が目立つ。</p> <p>スズメノヒエ属 <i>Paspalum</i></p>		<p>基本的にはグループ5だが、カモノハシガヤおよび貧弱なアイダガヤでは数本の総が先端部にあつまってつき、<i>Dichanthium</i> のようになる場合がある。</p> <p>カモノハシガヤ属 <i>Bothriochloa</i></p>

## グループ 5


総は多数が稈の上部に羽状または半輪生状に多段になってつく。

	<p>小穂は1小花からなり扁平で包穎はなく、護穎が二つ折れになる。全草が著しくざらつく。放棄水田で群生する。</p> <p>台湾アシカキ <i>Leersia hexandra</i></p>		<p>微小な小穂が細い総に規則正しく配列する。小穂は数個の小花からなる。芒はない。水田畦畔でアゼガヤが普通に見られる。</p> <p>アゼガヤ属、ハマガヤ属 <i>Leptochloa, Diplachne</i></p>
	<p>小穂は柄はなく、枝に直接つく。熟すと護穎の先端の刺が引っ掛かり動物に散布される。葉は披針形で幅が広い。森林内に見られ、個体数は多い。</p> <p>ササクサ <i>Lophatherum gracile</i></p>		<p>有柄小穂と無柄小穂が対になってつく。無柄小穂の包穎にはしばしば針で突いたようなくぼみが生じる。第二小花の護穎に芒がある。小穂は中軸ごとばらばらに散る。アイダガヤが普通に見られる。</p> <p>カモノハシガヤ属 <i>Bothriochloa</i></p>
	<p>小穂は1小花を残して退化。第一包穎は環状で、小穂の基部に付属する。ムラサキノキビの名前は、この環状の包穎が紫色に着色し目立つことにちなむ。ムラサキノキビは普通に見られる一方で、ナルコビエは稀。</p> <p>ナルコビエ属 <i>Eriochloa</i></p>		<p>小穂は扁平ではない。第一包穎は小穂の長さの1/3以上ある。護穎は鋭頭で、時にイヌビエやノゲタイヌビエには長い芒があるが、ワセビエでは無芒。葉舌がまったくないのが属の特徴。</p> <p>イヌビエ属 <i>Echinochloa</i></p>
	<p>大形の多年草。小穂は長い毛でおおわれる。中軸は小穂が落ちた後も宿存する。</p> <p>ススキ属 <i>Miscanthus</i></p>		<p>稈は節から発根し、倒伏してひろがる。葉は披針形で葉縁は波打つ。包穎は有芒、オオバチヂミザサは護穎にも芒があり、粘液が出て動物にくっつく。多くは森林生だが、エダウチヂミザサは林縁やちょっとした木陰でも見られる。</p> <p>チヂミザサ属 <i>Oplismenus</i></p>

	<p>小穂は卵形で長さ約 2mm と小さい。第一包穎は小穂の 1/5 ほどの長さまで退化。稈は膝折れしながら立ち上がる。石垣島で見られるがごく稀。</p> <p>ヒメスズメノヒエ <i>Moolochloa eruciformis</i></p>		<p>多くはグループ 4 だが、ナガバズメノヒエ、タチスズメノヒエなどいくつかの種はグループ 5 に該当するため再掲。小穂は円形～楕円形で、第一包穎は退化してまったくない。小穂の背軸面は平たく中央脈が目立つ。</p> <p>スズメノヒエ属 <i>Paspalum</i></p>
	<p>小穂は長い白色長毛に覆われる。中軸に節があり、熟すと小穂と共にばらばらに散る。中軸は総よりはるかに長い。石垣島ではほとんど見ることができない。</p> <p>ナンゴクワセオバナ <i>Saccharum spontaneum</i> var. <i>spontaneum</i></p>		<p>有柄小穂と無柄小穂が対になって総の先端にあつまってつく。<i>Capillipedium</i> に似るが、下方の葉身に柄がある。西表島で記録があるが、現存しているかは不明。</p> <p>ダンチアブラススキ <i>Spodiopogon cotulifer</i> var. <i>densiflorus</i></p>
	<p>小穂は見かけ上は 1 小花からなり、扁平ではなく、幅の広い楕円形。護穎、包穎とも無芒。ニクキビモドキと帰化種のパラグラスが比較的普通に見られる。</p> <p>ニクキビモドキ属 <i>Urochloa</i></p>		<p>有柄小穂と無柄小穂が対になってつく。包穎は質が硬くて光沢がある。無柄小穂の護穎にはふつう長い芒がある。石垣島の草刈りによって維持されている(いた)草地に限って見られる希少種。</p> <p>コモロコシガヤ <i>Sorghum nitidum</i> var. <i>nitidum</i></p>


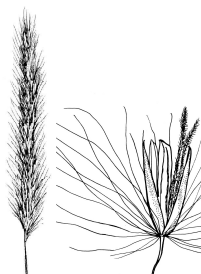
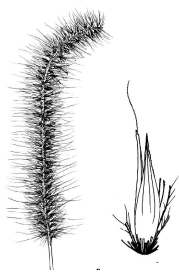

## グループ 6

花序は円錐状だが枝は短く円錐形や円筒形のかたまりとなり、長い剛毛や絹毛、芒はない。

	<p>繊細な草本。見かけ上 1 小花からなる。第一包穎は小穂をとりまくようにつく。小穂は中軸に密につく。水田畦畔で普通に見られる。</p> <p>ハイヌメリ <i>Sacciolepis spicata</i> var. <i>spicata</i></p>
---	---

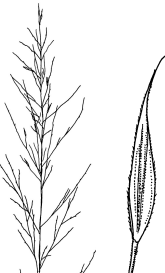



## グループ 7

グループ 6 と同様だが、目立って長い剛毛や絹毛、芒がある。

	<p>小花は1つで、包穎より小さく外から見えない。包穎は第一、二包穎とも同形で、有芒。春から初夏にかけての短い期間に出現し、消える。</p> <p>ヒエガエリ属 <i>Polypogon</i></p>		<p>小穂の基部につく白色の長い毛でおおわれ、花序全体が白銀色となる。小穂は小さく、風により散布される。二次草地を代表する種類。</p> <p>チガヤ <i>Imperata cylindrica</i></p>
	<p>小穂は披針形で無芒。小穂の基部に長い剛毛 (bristle) が輪生し、花序を覆う。高さ 2m を超えるナピアグラスが農地周辺で普通に見られる。</p> <p>チカラシバ属 <i>Pennisetum</i></p>		<p>小穂は楕円形で無芒。小穂の基部に長い剛毛が輪生し花序を覆う。草丈は高さ数 10cm のコツブキンエノコロから、高さ 1m を超すアフリカキンエノコロまで様々だが花序の構造は変わらない。</p> <p>アワ属 <i>Setaria</i></p>

## グループ 8

円錐花序の枝は長く小穂はまばらで花序全体が明らかな円錐形になり、小穂は 1 小花からなる。

	<p>マコモに似ているが小穂には柄がある。包穎は見かけ上まったくなく、護穎の先が伸びて芒になる。小穂は柄と共に脱落する。西表島の泥地に見られる固有種。</p> <p>イリオモテガヤ <i>Chikusichloa brachyanthera</i></p>		<p>小穂は無柄。上方の小穂は雌性で有芒、下方の小穂は雄性で無芒。包穎はない。水田周辺に稀に見られる。植物体は大型。</p> <p>マコモ <i>Zizania latifolia</i></p>
	<p>包穎、護穎とも半透明で球状の穎果が透ける。花序枝はやや中軸に沿いながら開出するが、生育環境によっては閉じる。</p> <p>ネズミノオ属 <i>Sporobolus</i></p>		<p>花序はまばら。包穎は先端が芒状、護穎の芒は長い。西表島の溪流沿いの岩場に生える小型の草本。</p> <p>アオシバ <i>Garnotia acutigluma</i></p>

## グループ 9

グループ 8 と同様だが、小穂の第二小花以上は護穎だけに退化し、見かけ上 1 小花となる。

	<p>花序枝は複数回分岐して、多数の総をつける。有柄小穂と無柄小穂が対になり、無柄小穂に長い芒がある。ヒメアブラススキが普通に見られる。</p> <p>ヒメアブラススキ属 <i>Capillipedium</i></p>		<p>花序全体が褐色を帯びる。総は短縮し、無柄小穂 1 つと有柄小穂 2 つの組合わせになってつく。無柄小穂の基部には金褐色の毛があり、動物にくつつく。</p> <p>オキナワミチシバ属 <i>Chrysopogon</i></p>
	<p>小穂は長楕円形で鋭頭。第 1 包穎は小穂よりはるかに短く、小穂をとりまくようにつく。ハイキビとギネアキビの 2 種は多産するが、他の 2 種は稀。</p> <p>キビ属 <i>Panicum</i></p>		<p>有柄小穂と無柄小穂が対になってつく。包穎は質が硬くて光沢がある。無柄小穂の護穎にはふつう長い芒がある。葉は幅が広く、モザイクウイルスに感染してまだら模様を呈することが多い。石垣島では多いが西表島では少ない。</p> <p>セイバンモロコシ <i>Sorghum halepense</i></p>
	<p>葉は広線形で幅が広い。小穂は見かけ上 1 小花からなる。小穂の基部に 1~2 本の剛毛がある。個体数は少ない。</p> <p>ササキビ <i>Setaria palmifolia</i></p>		<p>小穂は卵形で赤褐色の長い毛におおわれる。帰化種で、造成後の裸地や路傍、岩場に生えるが多くはない。</p> <p>ルビーガヤ <i>Melinis repens</i></p>

## グループ 10

グループ 9 と同様だが、小穂は包穎が大きく、他の小花を包み、外から小花数がわかりにくい。

	<p>小穂は下向きに垂れ下がってつく。包穎が大きく小花は外からほとんど見えない。芒は護穎の背面から数本出て、膝折れする。八重山諸島では極めて稀。</p> <p>カラスムギ <i>Avena fatua</i></p>		<p>小穂は円形～楕円形。第一、二包穎とも同形同大で背軸面がふくれ、同大の 2 小花をおおう。主に湿地や泥地に生え、稈は倒伏して節から発根する。オオチゴザサ以外の種は森林生。</p> <p>チゴザサ属 <i>Isachne</i></p>
---	--	---	---



葉は広披針形。第一、二包穎とも先端は鋭先形。森林生。花序がない状態だとチヂミザサ類に酷似する。

タイワンササキビ  
*Ichnanthus pallens* var. *major*

## グループ 11

花序は円錐状、包穎は最下小花と同長またはより短いため、外から小花数がわかる。小穂は無芒。



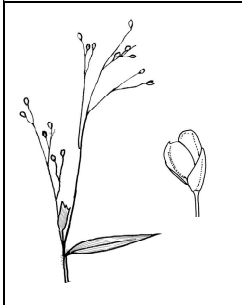
小穂はおおむね3小花以上からなる。護穎は先がとがらず、背面は竜骨状になる。植物体はやわらかい。八重山諸島では2種記録されているが、いずれも稀。

イチゴツナギ属  
*Poa*



小穂は多くの小花が交互に配列したもので、扁平。護穎には3脈あり無芒。小穂が熟して脱落したあとも、花序に小軸が宿存する。ヌカカゼクサとアキコスズメガヤの2種は見かける機会が多い。

カゼクサ属  
*Eragrostis*



稈は節から発根して広がり、花序だけ立ち上がる。小穂は卵形で長さ約1.5mm、花序枝の先にまばらにつく。放牧地の中のちょっとした木陰に見られる。

ヒメチゴザサ  
*Cyrtococcum patens* var. *patens*

## グループ 12

グループ 11 と同様だが、小穂は有芒。



包穎、護穎とも同質同長で膜質。護穎の背面に長い毛があり、中脈が芒となる。八重山諸島ではヒナヨシが西表島の山地の溪流沿いで見られる。ダンチクの記録はあるが、その詳細は不明。

ダンチク属  
*Arundo*



大型種。小花に長い毛があり、小穂をおおう。護穎の先はねじれながら伸長し、芒状となる。八重山諸島には3種分布しているが、うちセイタカヨシ以外の2種の実情についてはあまりよく分からない。

ヨシ属  
*Phragmites*

このガイドは長田(2002)をもとに作成した。

【1】 *Chikusichloa* Koidz. ツクシガヤ属 Fig. 1

1. *Chikusichloa brachyanthera* Ohwi イリオモテガヤ

生育地 : 林内溪流畔の泥地, 湿地.

生育状況 : 西表島の牧場内にある泥地で生育が確認された.

備考 : 絶滅危惧II類 (VU) に指定されている (環境省 2025, 沖縄県 2018). 西表島の固有種.



Fig. 1

a-c *Chikusichloa brachyanthera*; a. habit, b. lamina, c. spikelet.

【2】 *Leersia* Sol. ex Sw. サヤヌカグサ属 Fig. 2

1. *Leersia hexandra* Sw. タイワンアシカキ

生育地 : 水田周辺の水路, 放棄水田.

生育状況 : 環境省 RL で準絶滅危惧種 (NT) に指定されているが (環境省 2025), 放棄水田ではテツホシダなどと群生しており, 個体数は多い.

近縁種 : 沖縄本島以北に分布するアシカキ *L. japonica* とは花序枝が開出すること, 小穂長が 3–4 mm と小さいこと (アシカキは 4.5–6mm), 護穎の側脈に刺状突起があることで区別される.

【3】 *Zizania* L. マコモ属 Fig. 2

1. *Zizania latifolia* (Griseb.) Hance ex F.Muell. マコモ

生育地 : 水田内や水路周辺.

生育状況 : 栽培品由来と思われる個体が水田周辺で稀に見られる.

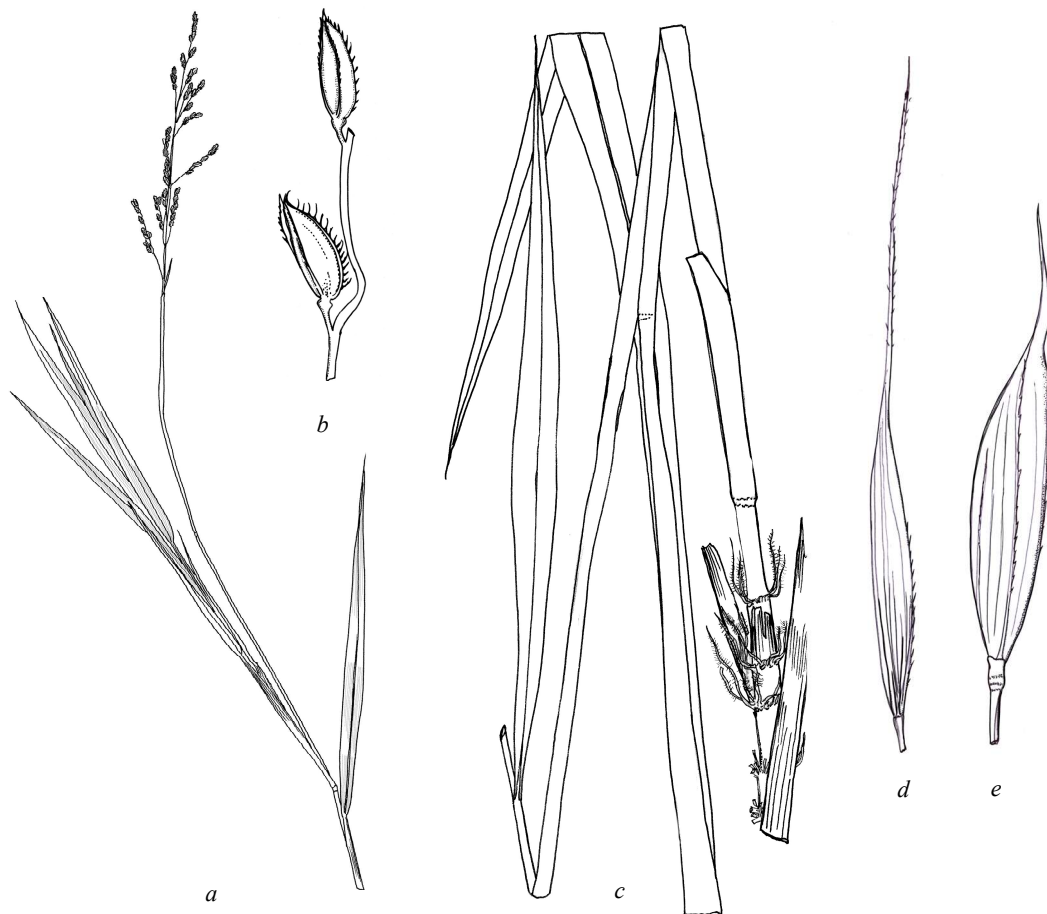


Fig. 2 **a–b** *Leersia hexandra*; **a**, habit, **b**, spikelets. **c–e**, *Zizania latifolia*; **c**, stem and lamina, **d**, female spikelet, **e**, male spikelet.

【4】 *Avena* L. カラスムギ属 Fig. 3

1. *Avena fatua* L. カラスムギ

生育地 : 路傍.

生育状況 : 石垣島の路傍草地 1 か所にて採取された.

備考 : ヨーロッパ原産. 本土部ではごく普通の種であるが, この地域ではほとんど記録がない.



Fig. 3

a-d *Avena fatua*; a. inflorescence, b. part of shoot, c. ligule, d. spikelet.

【5】 *Poa* L. イチゴツナギ属 Fig. 4

- A. 第二包穎はひし形で護穎脈状の毛は少ない・・・・・・・・・・1. スズメノカタビラ  
*P. annua*
- A. 第二包穎は楕円形で護穎脈状の毛は多い・・・・・・・・・・2. ツクシスズメノカタビラ  
*P. crassinervis*

1. *Poa annua* L. スズメノカタビラ

生育状況：西表島で2020年に採取された記録がある。

備考：本土部ではごく普通の種であるが、この地域ではほとんど記録がない。

2. *Poa crassinervis* Honda ツクシスズメノカタビラ

生育状況：石垣島で2000年に採取された記録がある。

識別点：上記スズメノカタビラに比べて護穎の脈が太く、花序の枝が斜上する（館岡1987）。



Fig. 4 a *Poa annua*; a. spikelet. b-c *P. crassinervis*; b. habit, c. spikelet.

【6】 *Polypogon* Desf. ヒエガエリ属 Fig. 5

- A. 包穎にはそれと同長か、またはそれより短い長さの芒がある・・・・・・・・・・1. ヒエガエリ  
*P. fugax*
- A. 包穎は2浅裂し、長さがその数倍になる長い芒がある・・・・・・・・・・2. ハマヒエガエリ  
*P. monspeliensis*

1. *Polypogon fugax* Nees ex Steud. ヒエガエリ

生育地 : 水田畦畔, 水田周辺の土手や路傍.

生育状況 : ハマヒエガエリと同様に主に圃場整備された水田畦畔や土手に見られた.

備考 : 出穂時期が3-5月と短いためか、次種のハマヒエガエリと共に、これまで当該地域で採取された標本点数はあまり多くない.

2. *Polypogon monspeliensis* (L.) Desf. ハマヒエガエリ

生育地 : 水田畦畔, 水田周辺の土手や路傍.

生育状況 : 前種ヒエガエリに比べて確認された地点数は少なかった.

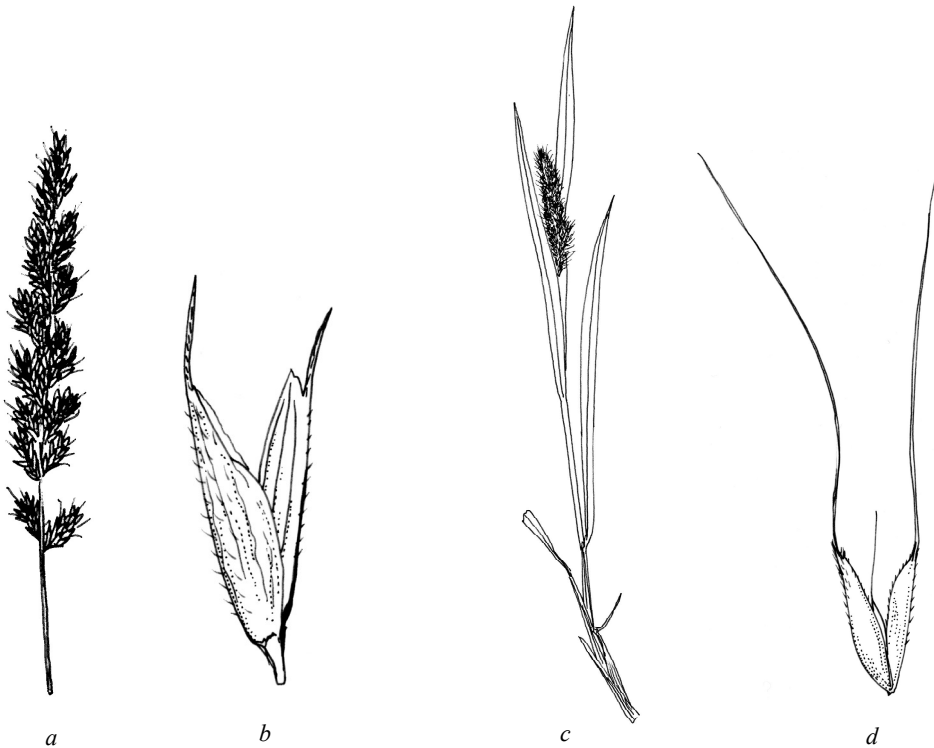


Fig. 5 *a-b* *Polypogon fugax*; *a*. panicle, *b*. spikelet. *c-d* *P. monspeliensis*; *c*. habit, *d*. spikelet.



2. *Chloris divaricata* R.Br. ヒメヒゲシバ

生育地 : 畑地, 水田周辺の路傍.

生育状況 : ナガヒゲシバとほぼ同様の環境に見られるが, 個体数は比較して少ない.

近縁種 : 外見はムラサキオヒゲシバに酷似する.

識別点 : 本種の護穎の中軸は山折れになるが, ムラサキオヒゲシバの護穎の中軸は平盤状になる.

備考 : オーストラリア原産の帰化種.

3. *Chloris radiata* (L.) Sw. コウセンガヤ (カセンガヤ)

生育地 : 採草地, 畑地周辺の路傍など.

生育状況 : 両島で確認されたが, 本属の中では最も少なかった.

備考 : アメリカ大陸原産の帰化種.

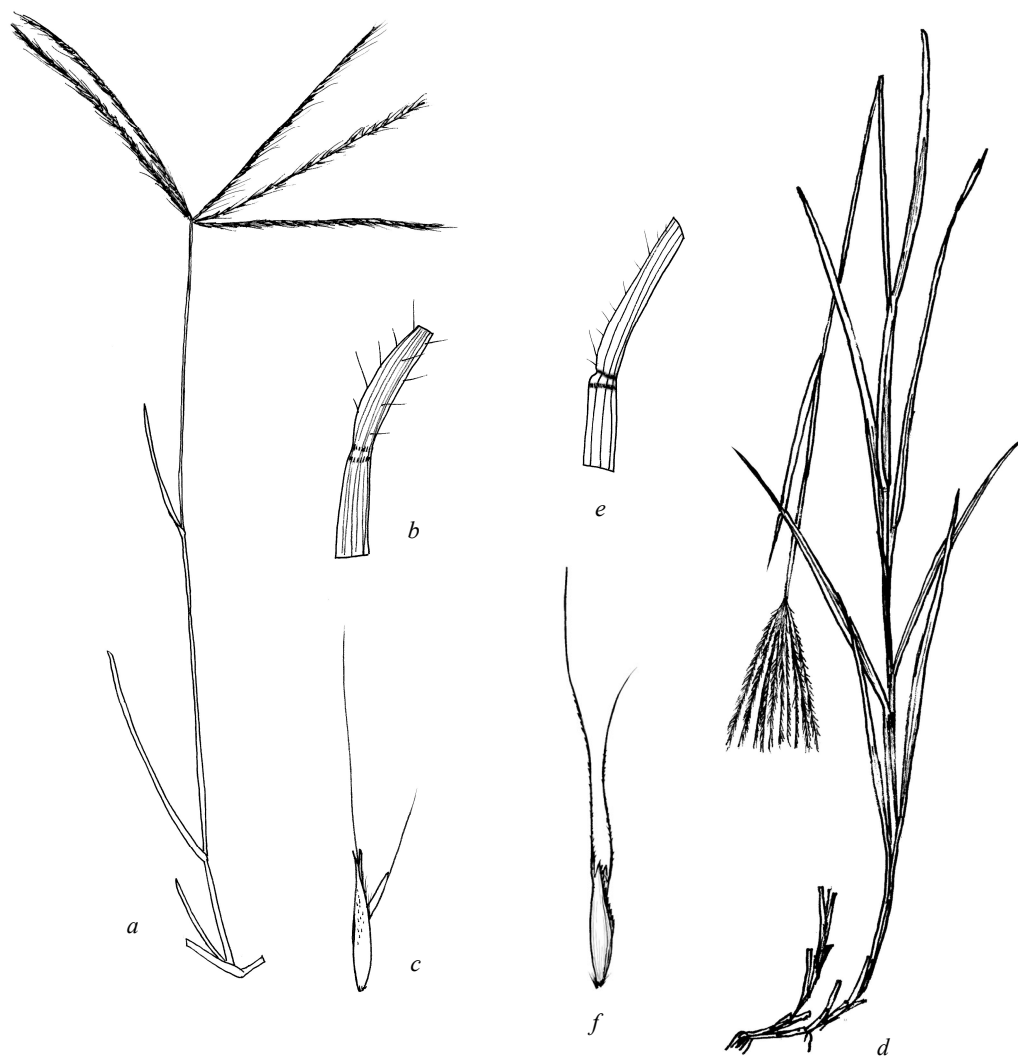


Fig. 7

**a-c** *Chloris divaricata*; **a**, habit, **b**, base of lamina, **c**, florets. **d-f** *C. radiata*; **d**, habit, **e**, base of lamina, **f**, florets.

4. *Chloris barbata* Sw. シマヒゲシバ (ムラサキヒゲシバ)

生育地 : 路傍, 水田畦畔, 放牧地を含むあらゆる草地環境.

生育状況 : 当該地域で最も普通に見られるイネ科の1つであり, 市街地の路傍でも多産する.

備考 : 旧熱帯原産の帰化種.

5. *Chloris gayana* Kunth アフリカヒゲシバ

生育地 : 路傍, 水田畦畔, 放牧地を含むあらゆる草地環境.

生育状況 : 前種シマヒゲシバと並んで最も普通に見られる大型のイネ科である. 牧草として播種されたものが逸出している. ただし, 西表島では石垣島と比較して少ない.

備考 : アフリカ大陸原産. ローズグラスの名前で牧草として流通しており, 極めて多型. 走出枝を盛んに出す型が牧草としてよく利用されている.

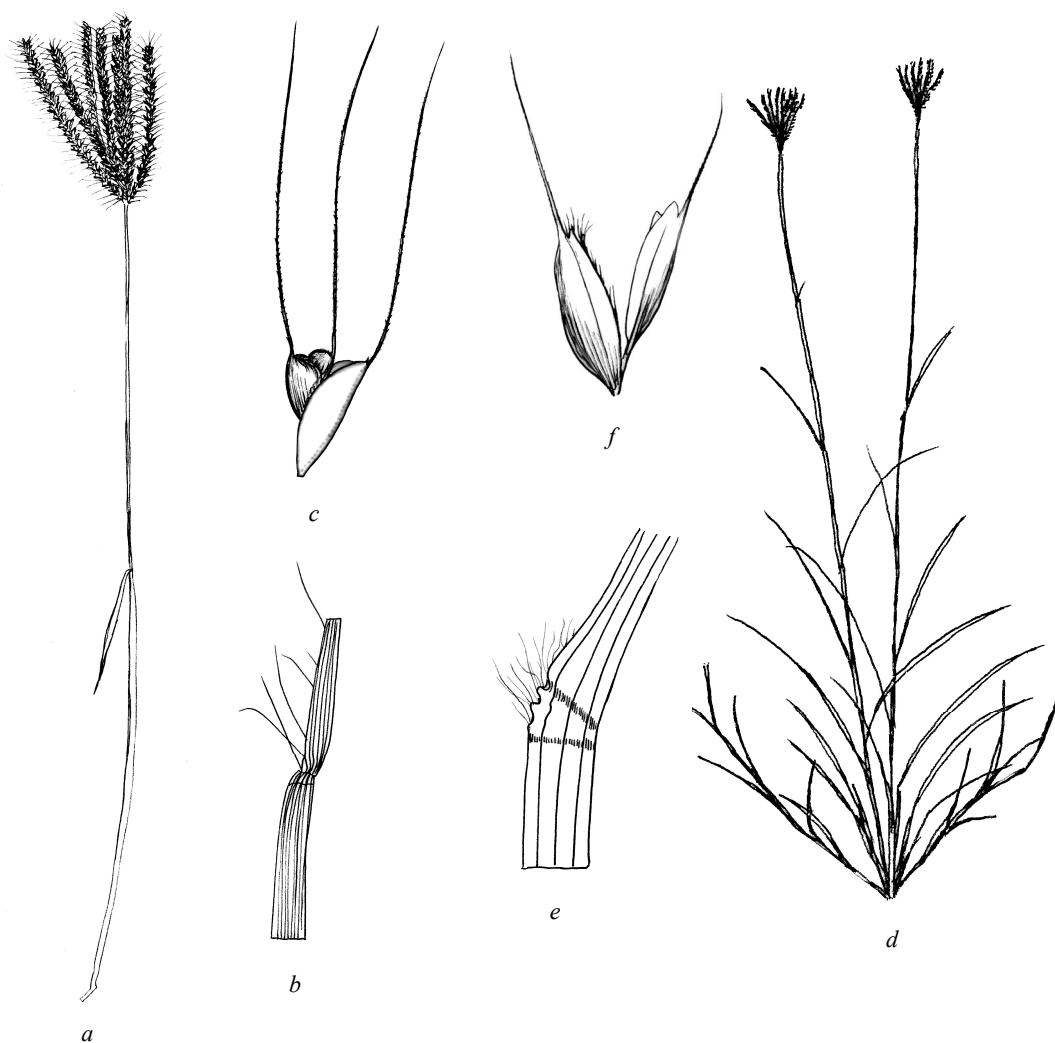


Fig. 8 a-c *Chloris barbata*; a. habit, b. base of lamina, c. florets. d-f *C. gayana*; d. habit, e. base of lamina, f. florets.

【8】 *Cynodon* Rich. ギョウギシバ属 Figs. 9-10

A. 地上匍匐枝と半地下茎がある。稈の太さは 1mm 以下、花序枝の長さは 2.5-5cm

..... 1. ギョウギシバ  
*C. dactylon* var. *dactylon*

A. 地上匍匐枝のみがあり、稈の太さは 3mm 以下、花序枝の長さは 4.5-8cm

..... 2. オニギョウギシバ  
*C. nlemfuensis*

1. *Cynodon dactylon* (L.) Pers var. *dactylon* ギョウギシバ

生育地 : 畑地周辺の路傍, 放牧地.

生育状況 : 低茎の草地で両島とも普通に見られ, 所により優占する.

近縁種 : 変種でオオギョウギシバ var. *nipponicus* が知られる.

識別点 : オオギョウギシバは花序の枝が長く, 小穂がやや疎につき, 大型のものであるが形態は連続的である (大井 1941).

備考 : 石垣島の水田畦畔 1ヶ所でオオギョウギシバに該当する個体が採取された.

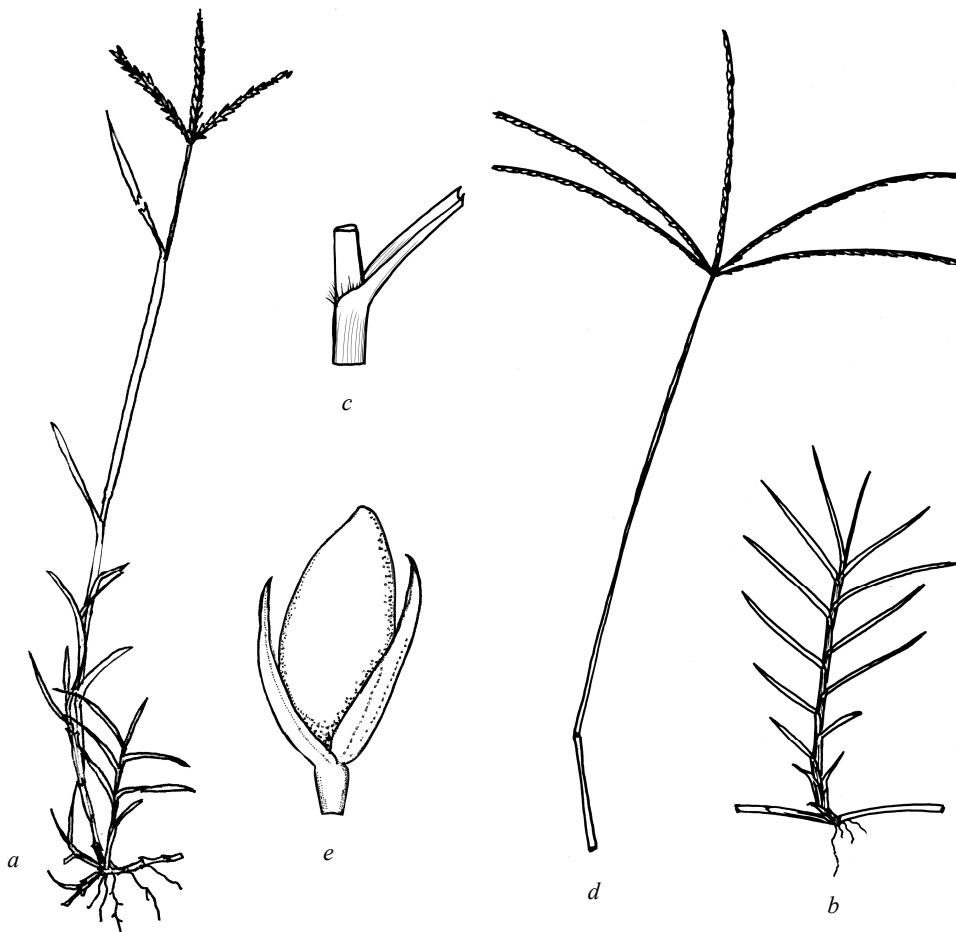


Fig. 9 a-e *Cynodon dactylon* var. *dactylon*; a. habit, b. shoot, c. base of lamina, d. digitate raceme, e. spikelet.

## 2. *Cynodon nlemfuensis* Vanderyst オニギョウギシバ

生育地 : 放牧地.

生育状況 : 当該地域で最もよく播種されている牧草の1種で、放棄された放牧地では一面に群生しているところもある.

備考 : アフリカ原産. 流通名はジャイアントスターグラス. 自然分布しているギョウギシバ類と雑種形成するリスクもあり、様々な点で懸念すべき種類であると考えられるが、その実情は不明である.



Fig. 10

**a-c** *Cynodon dactylon* var. *nipponicus*; a. habit, b. spikelet, c. leaf sheath.

**d-e** *C. nlemfuensis*; d. habit, e. spikelet.

【9】 *Dactyloctenium* Willd. タツノツメガヤ属 Fig. 11

1. *Dactyloctenium aegyptium* (L.) Willd. タツノツメガヤ

生育地 : 畑地周辺の路傍, 水田畦畔.

生育状況 : 除草剤や造成の影響を受けた草地でも普通に見られる.

備考 : 広域分布種であるが, 梶田ほか (2022) では帰化種とされる.

【10】 *Eleusine* Gaertn. オヒシバ属 Fig. 11

1. *Eleusine indica* (L.) Gaertn オヒシバ

生育地 : 放牧地, 水田畦畔, 路傍を含むあらゆる草地環境.

生育状況 : 本土部と同様に当該地域でも普通に見られ、個体数は多い.



Fig. 11 a–b *Dactyloctenium aegyptium*; a. habit, b. floret. c–d *Eleusine indica*; c. habit, d. floret.

【11】 *Enteropogon* Nees ムラサキオヒゲシバ属 Fig. 12

1. *Enteropogon dolichostachyus* (Lag.) Keng ex Lazarides ムラサキオヒゲシバ

生育状況：黒島から記録されている（山崎ほか 2016）ほか、2018年に西表島で採取された標本もあるが、著者らの調査では未確認である。



Fig. 12

*a–e* *Enteropogon dolichostachyus*; *a*. digitate raceme, *b*. lamina, *c*. culm, *d*. spikelet, *e*. abaxial view of lemma.

【12】 *Eragrostis* Wolf カゼクサ属 Figs. 13-17

- A. 小穂は長さ 2mm 以下 . . . . . 1. ヌカカゼクサ  
*E. tenella*
- A. 小穂は長さ 2mm 以上
- B. 植物体全体に腺点がある . . . . . 2. コスズメガヤ  
*E. minor*
- B. 腺点はふつうない
- C. 稈の高さは 1m 内外で花序は弓なり，稈は束生して大きな株になる  
. . . . . 3. シナダレスズメガヤ  
*E. curvula*
- C. 稈の高さは高くても 50 cm 程度
- D. 第二包穎の先端が第二小花の護穎の基部によやく届く . . . . . 4. アキコスズメガヤ  
*E. tenuifolia*
- D. 第二包穎の先端は第二小花の護穎の長さの 1/3 以上に及ぶ
- E. 一年草，小穂は長さ 3-6mm . . . . . 5. ニワホコリ  
*E. multicaulis*
- E. 多年草，小穂は長さ 5-13mm
- F. 葯は紫色，包穎は熟しても脱落せず宿存 . . . . . 6. イトスズメガヤ  
*E. brownii*
- F. 葯は黄色，包穎は早落 . . . . . 7. クロカゼクサ  
*E. atrovirens*

1. *Eragrostis tenella* (L.) P.Beauv. ex Roem. et Schult. ヌカカゼクサ

生育地 : 乾燥した裸地，路傍.

生育状況 : 両島で確認された. 石垣市街地の路傍や植え込みでも普通に見られる.

識別点 : 小穂が小さいことのほか，葉鞘開口部に白色長毛があるのが特徴である.

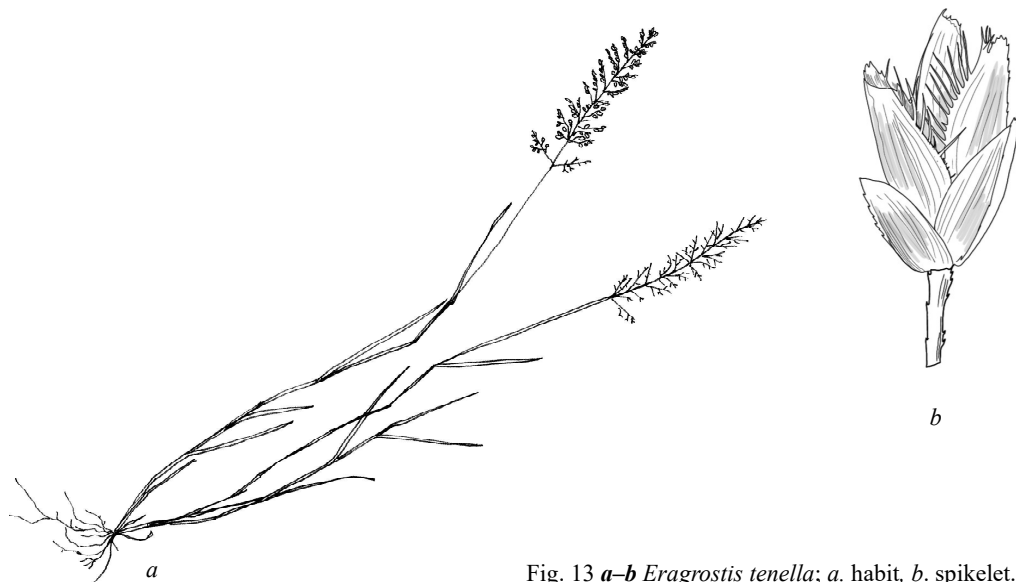


Fig. 13 a-b *Eragrostis tenella*; a. habit, b. spikelet.

2. *Eragrostis minor* Host コスズメガヤ

生育地 : 路傍, 水田畦畔.

生育状況 : 西表島の水田周辺の路傍でのみ確認された.

識別点 : 全草に腺があるのが特徴である.

近縁種 : 石垣島の放牧地において, 本種に似て腺は多いが小穂の幅が本種より広いズメガヤ *E. cilianensis* と思われる個体が採取された.

備考 : 本土部では普通に見られるが, 西表島への帰化については, 梶田ほか (2022) により初めて報告された.

3. *Eragrostis curvula* (Schrad.) Nees シナダレスズメガヤ

生育状況 : 西表島で採取された記録がある.

識別点 : 植物体の色合いはクロカゼクサに似ているが, 株は大きくなり叢生する.

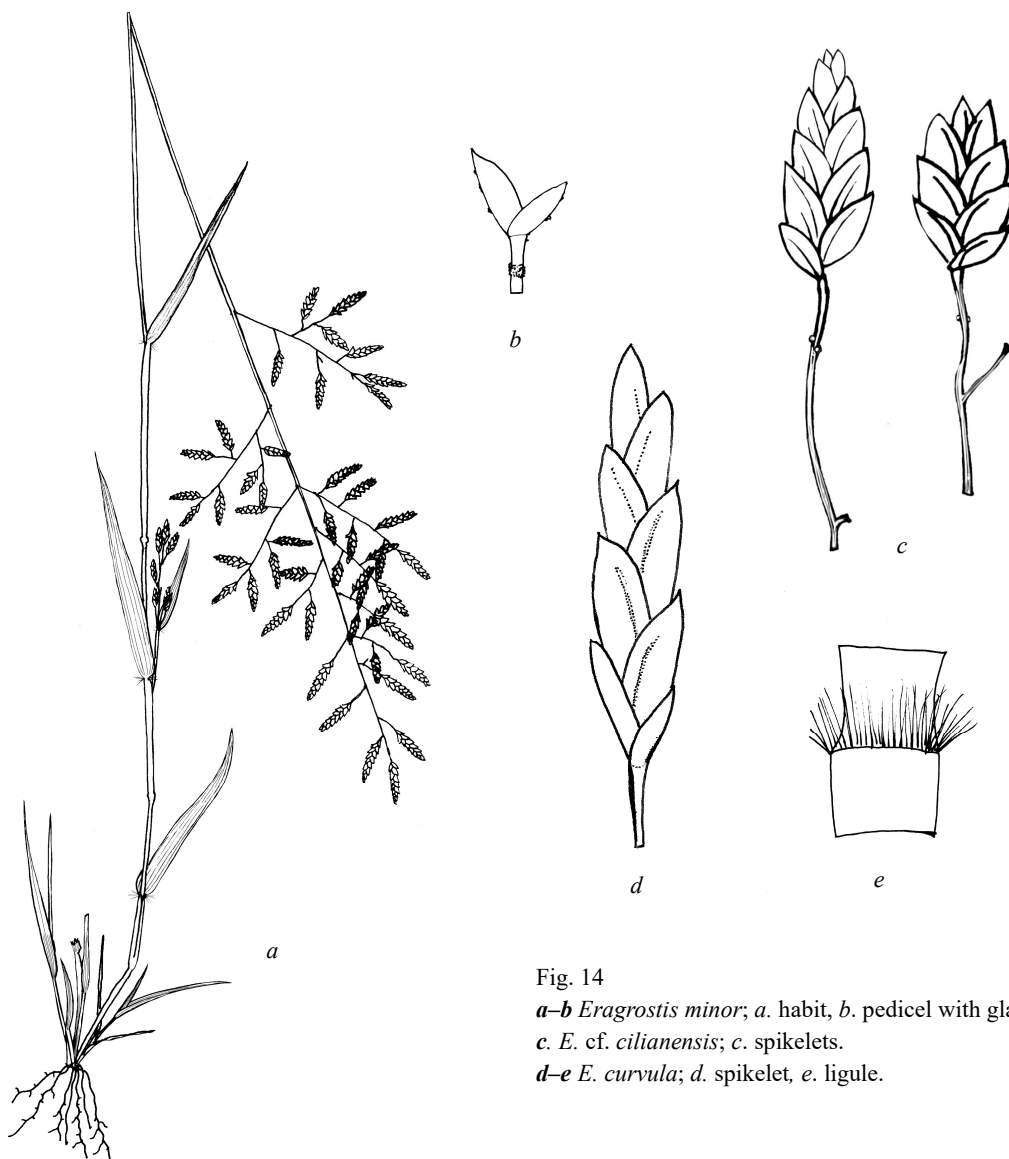


Fig. 14

**a–b** *Eragrostis minor*; a. habit, b. pedicel with gland.

**c** *E. cf. cilianensis*; c. spikelets.

**d–e** *E. curvula*; d. spikelet, e. ligule.

#### 4. *Eragrostis tenuifolia* (A.Rich.) Hochst. ex Steud. アキコスズメガヤ

生育地 : 採草地, 畑地や水田周辺の路傍.

生育状況 : 両島の農地周辺, とくに農道のわだちなどでごく普通に見られる. 西表島からは梶田ほか(2022)により初めて報告された.

備考 : アフリカ, 東南アジア原産の帰化種とされる. 個体数は多く, 報告されるかなり以前より帰化していたものと考えられる.

#### 5. *Eragrostis multicaulis* Steud. ニワホコリ

生育地 : 路傍.

生育状況 : 本土部では都市部を中心に普通に見られるが, 両島とも水田周辺の路傍や裸地などわずかな地点で確認されただけで, 稀であった.

#### 6. *Eragrostis brownii* (Kunth) Nees イトスズメガヤ

生育地 : 採草地, 放牧地.

生育状況 : 土地改変が及んでいないような, 貧栄養の草地を中心に広く見られる.

識別点 : 次種クロカゼクサに似ているが, 小穂が大きく, 小花数も多い傾向がある. 花序の枝は開出し, しなだれない.

備考 : 施肥や土地改変等が行われていない, 貧栄養な草地の指標種といえる. 葉の幅が広いものから糸状に細いものまで変化に富む.

#### コラム：落穂ひろい① 消失するイネ、テフ

テフ *Eragrostis tef* (Zuccagni) Trotter はエチオピア原産のカゼクサ属植物で, 同国で最も重要な主食作物であり (Vavilov 1951), その紀元はB.C.5000年頃まで遡ると言われている (Belete 2020). 本種の西表島での記録は池原・多和田 (1989) によるものであるが, おそらく試験的に栽培されたものが一時的に逸出したものと考えられ, インターネットにおける情報を含めて近年の記録や標本は認められない (梶田ほか2022). 種小名の“tef” (テフ) は現地言葉で“消失する”を意味し, その名が示す通り, 西表島からは消失してしまったようである.

本種は栽培されてきたその歴史の長さを反映し, 極めて多型である (Mengistu et al. 2025). 西表島に帰化したものがどの系統に該当するか, もはや確認するすべはない. したがって, 本書でテフは検索表には含めず, 欄外に掲載することしかできなかった.



テフ  
ある一型の小穂



Fig. 15

*a–b Eragrostis tenuifolia*; *a*. habit, *b*. spikelet. *c–e E. multicaulis*; *c*. habit, *d*. spikelet, *e*. floret.



Fig. 16  
*a-c Eragrostis brownii*; *a*. habit, *b*. node of culm, *c*. spikelet.

7. *Eragrostis atrovirens* (Desf.) Trin. ex Steud. クロカゼクサ

生育地 : 水田畦畔.

生育状況 : 西表島で確認されたが少なかった.

識別点 : イトスズメガヤに比べて植物体の色が灰緑色であり, 小穂の最大サイズは小さい.

備考 : 旧熱帯地域原産の帰化種とされる.



Fig. 17

*a-b* *Eragrostis atrovirens*; *a*. habit, *b*. spikelet.

【13】 *Eustachys* Desv. スイショウガヤ属 Fig. 18

1. *Eustachys petraea* (Sw.) Desv. スイショウガヤ

生育地 : 路傍.

生育状況 : 西表島で少数個体が確認され, 国内新産種として報告された (Komada et al. 2026).

備考 : アメリカ大陸原産の帰化種.



Fig. 18 *a-d* *Eustachys petraea*; *a*. habit, *b*. lower and upper glumes, *c*. floret, *d*. caryopsis.

【14】 *Leptochloa* P.Beauv. アゼガヤ属 Fig. 19, *Diplachne* P.Beauv. ハマガヤ属 Fig. 20

- A. 小穂は長さ 3.5mm 以下, 護穎の先端は全縁  
B. 葉鞘は無毛, 小穂は 4-7 小花 . . . . . 1. アゼガヤ  
*L. chinensis*  
B. 葉鞘は有毛, 小穂は 2-3 小花 . . . . . 2. イトアゼガヤ  
*L. panicea*
- A. 小穂は長さ 4mm 以上, 護穎の先端は 3 裂以上切れ込む  
B. 護穎は長さ 3-6mm, 先端は芒状 . . . . . 3. ハマガヤ  
*D. fusca* ssp. *fusca*  
B. 護穎は長さ 2-3mm, 先端は歯牙状 . . . . . 4. ニセアゼガヤ  
*D. fusca* ssp. *uninervia*

1. *Leptochloa chinensis* (L.) Nees アゼガヤ

生育地 : 水田畦畔.

生育状況 : 除草剤の影響の有無にかかわらず当該地域の水田周辺で普通に見られる.

備考 : 出穂時期は夏季に限られ, 冬から春季に認識することは難しい.

2. *Leptochloa panicea* (Retz.) Ohwi イトアゼガヤ

生育地 : 畑地周辺, 路傍.

生育状況 : 両島で確認された. アゼガヤとは異なり, 乾燥地に限って見られた.

備考 : アメリカおよびアジアの熱帯域原産の帰化種. アゼガヤと共に, 属を *Dinebra* とする説もある.

3. *Diplachne fusca* (L.) P.Beauv. ex Roem. & Schult. ssp. *fusca* ハマガヤ

生育状況 : 八重山諸島に生育する確実な記録は見当たらない.

識別点 : 小穂が大きいことだけでなく, 鉛色となるためアゼガヤからは識別しやすい.

備考 : 形態的にアゼガヤ属に近いことから, 同じ検索表に含めた.

4. *Diplachne fusca* ssp. *uninervia* (J.Presl) P.M.Peterson & N.Snow ニセアゼガヤ

生育地 : 畑地, 水田畦畔.

生育状況 : アゼガヤに比べてやや乾燥した環境にも生えるが, 確認された地点数は少なかった.

識別点 : 護穎先端は切れ込むが, ハマガヤほど芒状にならない.

備考 : アメリカ大陸原産の帰化種.



Fig. 19

*a-b* *Leptochloa chinensis*; *a*. habit, *b*. spikelet. *c* *L. panicea*; *c*. spikelet.



Fig. 20  
*a* *Diplachne fusca* ssp. *fusca*; *a*. spikelet.  
*b-c* *D. fusca* ssp. *uninervia*; *b*. habit, *c*. apex of lemma.

【15】 *Lepturus* R.Br. ハイシバ属 Fig. 21

1. *Lepturus repens* (G. Forst.) R.Br. ハイシバ

生育地 : 海浜, 海岸の石灰岩上.

生育状況 : 放牧地などの二次草地では確認されなかったが, 海浜の自然草原ではよく見られる.



Fig. 21

*a-d* *Lepturus repens*; *a*. habit, *b*. part of inflorescence, *c*. raceme internode and spikelet, *d*. disarticulated node of raceme.

【16】 *Sporobolus* R.Br. ネズミノオ属 Figs. 22–23

- A. 第二包穎は護穎よりも短い。葉身は通常、長さ 15–55cm
- B. 雄蕊は 2 個、包穎と護穎は半透明で内部が透ける . . . . . 1. フタシベネズミノオ  
*S. diandrus*
- B. 雄蕊は 3 個、包穎と護穎は膜質だが内部は透けない
- C. 小穂は淡黄色 . . . . . 2. リュウキュウネズミノオ  
*S. indicus* var. *major*
- C. 小穂は紫色を帯びる . . . . . 3. ムラサキネズミノオ  
*S. indicus* var. *purpureosuffusus*
- A. 第二包穎は護穎とほぼ同長か長い。葉身は長さ 3–15cm . . . . . 4. ソナレシバ  
*S. virginicus*

1. *Sporobolus diandrus* (Retz.) P.Beauv. フタシベネズミノオ

生育地 : 採草地, 放牧地, 畑地周辺の路傍.

生育状況 : 両島で確認されたが, リュウキュウネズミノオと比較して低頻度であった.

2. *Sporobolus indicus* (L.) R.Br. var. *major* (Büse) Baaijens リュウキュウネズミノオ

生育地 : 採草地, 放牧地, 畑地周辺の路傍. 特に放牧地では優占する.

生育状況 : 両島で多く確認された. フタシベネズミノオとの棲み分けについては検討を要す.

近縁種 : 小穂が紫色を帯びる変種ムラサキネズミノオ var. *purpureosuffusus* (検索表 3) の典型的な個体は確認されなかった. 花序が密で枝が開かないものはムラサキネズミノオの品種ネズミノオ f. *spiciformis* に該当し, 本土部では普通に見られる.

4. *Sporobolus virginicus* (L.) Kunth ソナレシバ

生育地 : 海浜草原, 海岸周辺の塩湿地.

生育状況 : 両島の海浜では所により群落がある.

コラム : 落穂ひろい② *Sporobolus*は牛も食わない

*Sporobolus*は放牧地の優占種の一つであり, 著者らが両島で採取した標本数は100点余りになる. これらを当初, 雄蕊の数, 包穎や護穎が透けるかどうか, 小穂の色といった検索点に基づいて分類しようと試みた. しかし, 雄蕊の数に関わらず包穎と護穎は透け, 小穂が紫色になる個体は確認できなかった. 結果として, 雄蕊の数と小穂の色を基に大半がリュウキュウネズミノオに分類された.

八重山において, フタシベネズミノオはどうやら少数派らしい. 著者らが採取したフタシベはリュウキュウに比べ顕著に丈が低く, 花序枝が短くて中軸に沿い, 小穂がやや暗色になる傾向があった. 海外でフタシベとされているものの中には花序枝が開くタイプもあるが, 八重山での一般的な形質は沿う型ようだ. GBIFでフタシベのホロタイプを確認すると, 1枚の台紙に花序枝が長くやや開いているものと, 短く中軸に沿うものの2点が, オランダの著名なイネ科分類学者 Veldkamp の“どちらも雄蕊は2本”という殴り書きと共に貼られていた (Holotype: BM000959534; BM000959535). 今回の調査で得られたものは後者と概ね合致していたことから, 晴れてフタシベネズミノオとして扱うことにした. 困ったときはタイプを当たろう. ありがとう Veldkamp.

放牧地の植生高は基盤土壌や牛の採食圧によって変動する. 小型のフタシベと, 大型になるリュウキュウとではハビタットが異なるのかもしれない. 加えて, フタシベの中には花期が他と異なる個体も確認されており, 八重山の *Sporobolus* の謎は想像以上に深い.



Fig. 22 *a-d* *Sporobolus diandrus*; *a*, habit, *b*, part of panicle, *c*, spikelet, *d*, part of floret.



Fig. 23  
*a-d* *Sporobolus indicus* var. *major*; *a*. habit, *b*. spikelet, *c*. spikelet showing floret, *d*. part of floret.  
*e-f* *S. virginicus*; *e*. habit, *f*. spikelet.

【17】 *Zoysia* Willd. シバ属 Fig. 24

- A. 小穂は卵形で長さは幅の2-2.5倍程度 . . . . . 1. シバ  
*Z. japonica*
- A. 小穂は楕円状披針形で長さは幅の3-4倍  
B. 小穂は長さ4-5mmで根茎は深くもぐる . . . . . 2. コオニシバ  
*Z. sinica* var. *sinica*
- B. 小穂は長さ4mm以下, 根茎は深くもぐらない  
C. 葉身は幅1mm以下で強く内巻して毛状 . . . . . 3. コウライシバ  
*Z. pacifica*
- C. 葉身は幅1mm以上で縁がやや内巻きになるか二つ折れする . . . . . 4. コウシュンシバ  
*Z. matrella*

1. *Zoysia japonica* Steud. シバ

生育地 : 路傍, 駐車場.

生育状況 : 当該地域では非常に稀で, 播種されたものや客土由来のものと思われる個体が半野生状態で生育しているに過ぎないと考えられる.

備考 : 西表島では梶田ほか (2022) により初めて報告された.

2. *Zoysia sinica* Hance var. *sinica* コオニシバ

生育地 : 海浜.

生育状況 : 西表島でわずかに確認された.

近縁種 : 本土部にナガミノオニシバ var. *nipponica* が分布する.

識別点 : コオニシバの小穂は長さ4-5mmなのに対し, ナガミノオニシバでは4.4-7.3mmであることで区別される.

備考 : 沖縄本島から飛んで西表島に分布している.

3. *Zoysia pacifica* (Goudswaard) M.Hotta et Kuroki コウライシバ

生育地 : 海岸近くの低茎草地, 放牧地.

生育状況 : 当該地域の海岸近くの低茎草地を代表する種類である.

識別点 : 葉が内巻し, 毛髪状になるのが特徴である.

4. *Zoysia matrella* (L.) Merr. コウシュンシバ

生育地 : 海岸近くの低茎草地.

生育状況 : 土地改変がなされていないような低茎の放牧地や路傍で確認されたが, コウライシバに比べて少なかった.

識別点 : 葉が二つ折れまたは内巻になるが, コウライシバと異なり多少とも広げることが可能.



Fig. 24

*a* *Zoysia japonica*; *a*. habit.

*b-c* *Z. sinica* var. *sinica*; *b*. habit, *c*. spikelet.

*d-g* *Z. pacifica*; *d*. habit, *e*. lamina, *f*. cross section of lamina, *g*. panicle.

*h-i* *Z. matrella*; *h*. habit, *i*. panicle.

【18】 *Arundo* L. ダンチク属 Fig. 25

1. *Arundo donax* L. ダンチク

生育状況：両島で記録があるが、近況は不明。

近縁種：西表島溪流部の断崖には同属のヒナヨシ *A. formosana* が見られる。

識別点：ヒナヨシは下垂して生え、護穎は長さ 6mm 以下とダンチクの 8mm に比べ小さい。

備考：RYU にダンチクとして収蔵されていた西表島産の標本は、ヨシ属 *Phragmites* だった。



Fig. 25 a-d *Arundo donax*; a. habit, b. part of shoot, c. spikelet, d. floret. e. *A. formosana*; e. habit.

【19】 *Phragmites* Adans. ヨシ属 Figs. 26-27

A. 地上匍匐枝はなく、第1包穎は長さが最下の護穎の半分より短い

B. 小穂は長さ 12-17mm、花序は長さ 15-40cm . . . . . 1. ヨシ  
*P. australis*

B. 小穂は長さ 10mm 以内、花序は長さ 30-70cm . . . . . 2. セイタカヨシ  
*P. karka*

A. 長い地上匍匐枝がある。第1包穎は長さが最下の護穎の半分か少し長い . . . . . 3. ツルヨシ  
*P. japonicus*

1. *Phragmites australis* (Cav.) Trin. ex Steud. ヨシ

生育地 : 水田周辺の水路沿い。

生育状況 : 西表島で確認された。

備考 : *Phragmites* 3種およびダンチクが両島のどこにどれぐらい存在するのか（またはしないのか）を明らかにするためには、これまでに採取された標本を徹底的に精査し、検討をする必要があると考えられる。

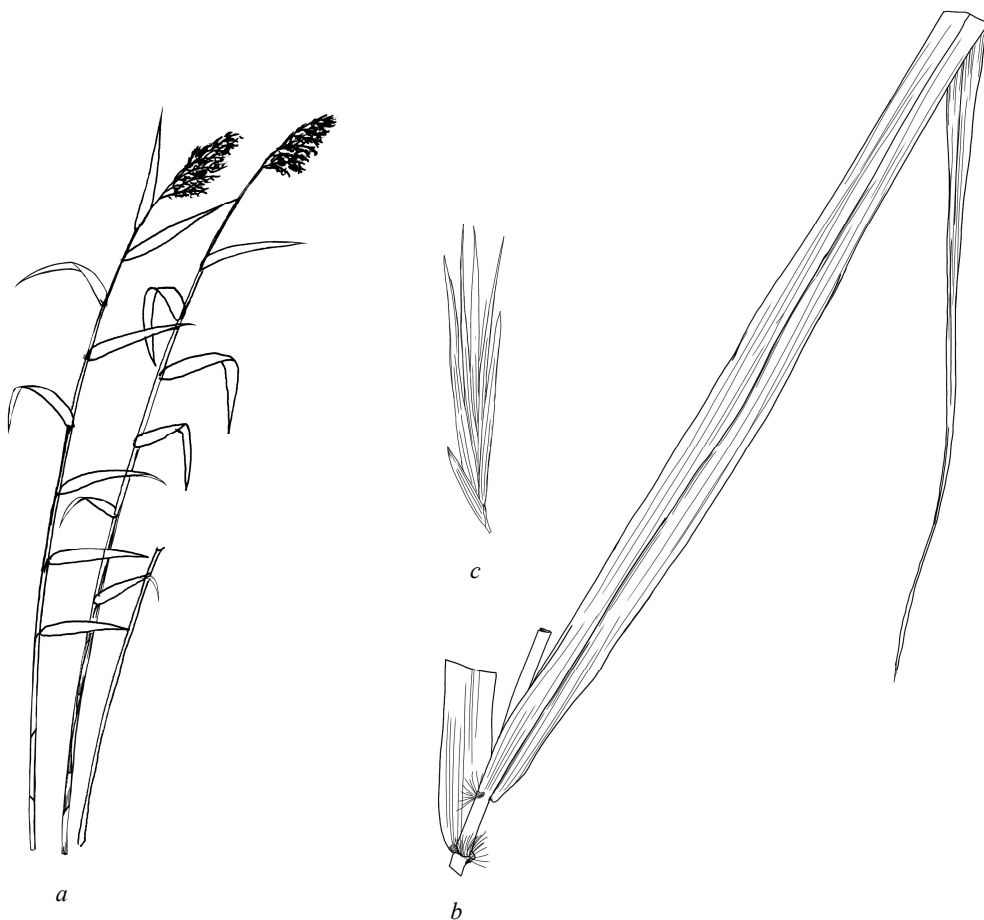


Fig. 26 a-c *Phragmites australis*; a. habit, b. leaf sheath and lamina, c. spikelet.

2. *Phragmites karka* (Retz.) Trin. ex Steud. セイタカヨシ (セイコノヨシ)

生育地 : 水路周辺や河岸周辺の湿地.

生育状況 : 群生しており景観的にもよく目立つ. 当該地域に分布するとされる *Phragmites* 3 種のなかでは最も個体数が多いと考えられる.

3. *Phragmites japonicus* Steud. ツルヨシ

生育状況 : 西表島において過去に採取された記録があるが, 近況は不明.

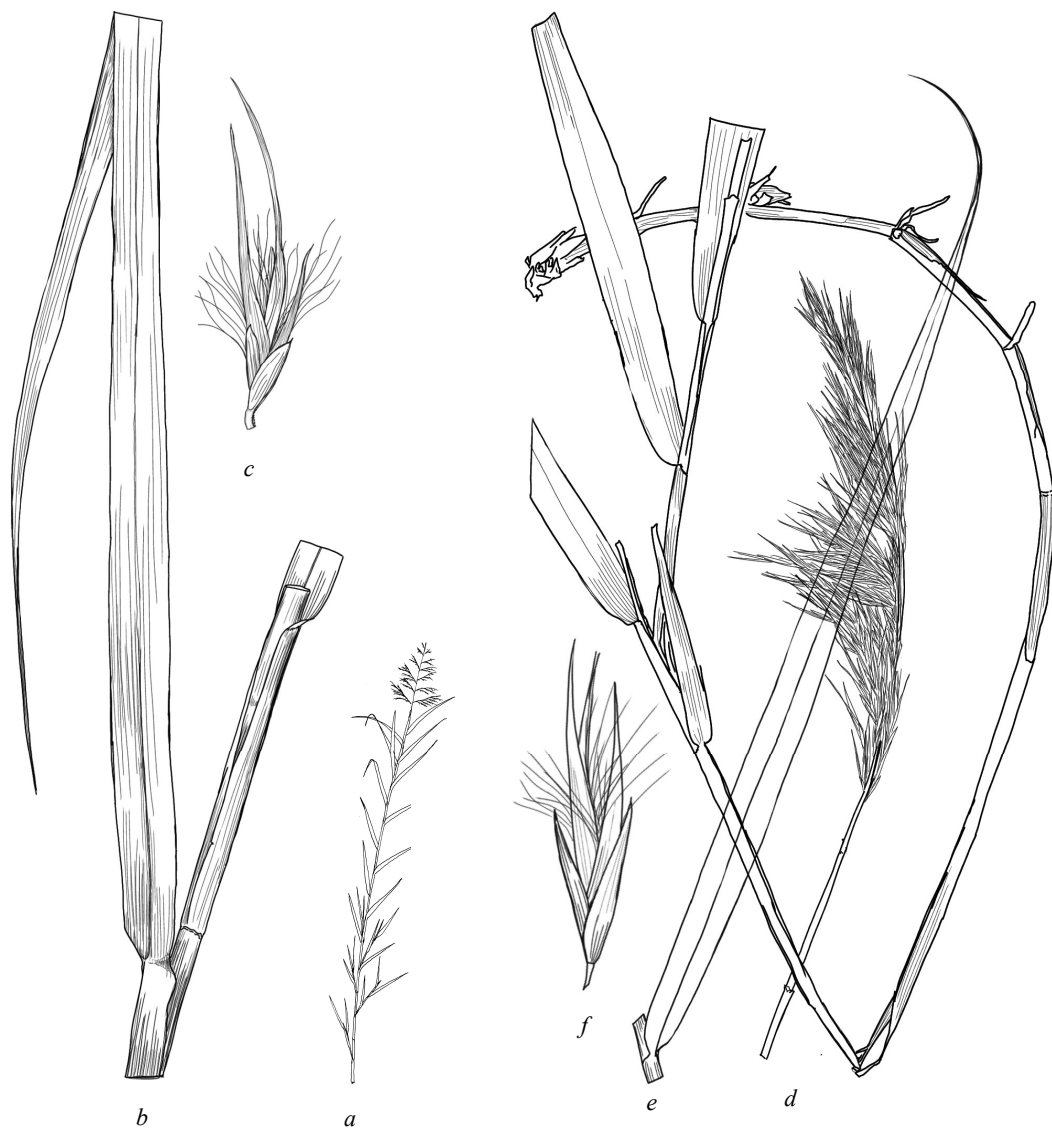


Fig. 27

**a–c** *Phragmites karka*; **a**, habit, **b**, lamina, **c**, spikelet.

**d–f** *P. japonicus*; **d**, habit, **e**, abaxial surface of lamina, **f**, spikelet.

【20】 *Isachne* R.Br. チゴザサ属 Figs. 28–29

- A. 稈の高さは 20 cm 以上で斜上後に立ち上がる，ふたつの小花は異形
- B. 葉身に縁毛がない，小穂は長さ 1.5–2.2mm . . . . . 1. チゴザサ  
*I. globosa*
- B. 葉身に縁毛がある，小穂は長さ 2.5–3.5mm . . . . . 2. オオチゴザサ  
*I. subglobosa*
- A. 稈は高さ 20 cm 以下で細く這う，ふたつの小花は同形
- B. 小穂は長さ 2.2–3mm，葉身の質は厚く長さ 3cm 以上 . . . . . 3. アツパハイチゴザサ  
*I. kunthiana* auct. non
- B. 小穂は長さ 1.5mm，葉身の質は薄く長さ 3cm 未満
- C. 葉身は無毛，小穂は花序の枝の基部付近にはつかない . . . . . 4. ケナシハイチゴザサ  
*I. lutchuensis*
- C. 葉身は両面とも密に毛があり，小穂は花序の枝の基部からつく . . . . . 5. ダイトンチゴザサ  
*I. myosotis*

1. *Isachne globosa* (Thunb.) Kuntze チゴザサ

生育地 : 水田畦畔，放棄水田.

生育状況 : タイワンアシカキ，テツホシダなどと共に，放棄水田で群生する.

近縁種 : 小穂の長さが 1.5mm 内外のものは変種コツブチゴザサ var. *brevispicula* といい，西表島の固有変種. 環境省および沖縄県の RL では情報不足 (DD) とされる (沖縄県 2018, 環境省 2025).

備考 : 著者らが採取したチゴザサの多くは小穂の長さが 2mm 未満であったが，一部に 1.5mm 程度でコツブチゴザサの範囲内と考えられる個体も認められた. コツブチゴザサの実態については，今後検討が必要である.

2. *Isachne subglobosa* Hatus. & T.Koyama オオチゴザサ

生育地 : 水田畦畔，放棄水田.

生育状況 : 西表島の 1ヶ所で採取された. チゴザサと同様の環境に生えると考えられる.

備考 : 葉身の縁毛および小穂がやや大きいことを元に南西諸島の固有種として記載された種類であるが，現在オオチゴザサはチゴザサのシノニムとしてまとめられており，区別されていない (Ibaragi et al. 2022).

3. *Isachne kunthiana* auct. non (Wight et Arn. ex Steud.) Miq. アツバハイチゴザサ

生育地 : 林内や木陰の泥地や湿地.

生育状況 : 西表島の牧場にある木陰の泥地でわずかに確認された. 森林生の種であり, 二次草地に出現するのは稀であると考えられる.

備考 : 次種ケナシハイチゴザサやダイトンチゴザサに比べると目にする機会はあるものの, それでも決して多い種類ではない.

4. *Isachne lutchuensis* Hatus. & T.Koyama ケナシハイチゴザサ

生育地 : 山地林内の泥地.

生育状況 : 沖縄本島北部と西表島にのみ分布する (沖縄県 2018).

近縁種 : 本州から沖縄本島にはハイチゴザサ *I. nipponensis* が分布し, 西表島でも記録があるものの, 沖縄県 (2018) では現状不明とされ, その詳細は不明である.

識別点 : ハイチゴザサは葉身, 葉鞘, 稈の節は有毛だが, ケナシハイチゴザサは全草無毛であることで識別可能である.

備考 : 南西諸島の固有種. 西表島では山地林の比較的高標高のエリアで見つかることがある.

5. *Isachne myosotis* Nees ダイトンチゴザサ (ヒメハイチゴザサ)

生育状況 : 奄美大島に分布するほか, 石垣島に記録がある.

備考 : 環境省 RL では絶滅危惧IA 類 (CR) に指定されているが (環境省 2025), 沖縄県の RL ではランク外とされる.



Fig. 28 a *Isachne globosa*; a. habit.



Fig. 29

*a-c* *Isachne kunthiana*; *a*. habit, *b*. node, *c*. spikelet.

*d-g* *I. lutchuensis*; *d*. habit, *e*. base of lamina, *f*. apex of lamina, *g*. spikelet.

*h-j*. *I. myosotis*; *h*. habit, *i*. fertile shoot, *j*. spikelet.

【21】 *Lophatherum* Brongn. ササクサ属 Fig. 30

1. *Lophatherum gracile* Brongn. ササクサ

生育状況：当該地域の森林の林床では普通に見られる種であるが，草地では確認されなかった。



Fig. 30 a-c *Lophatherum gracile*; a. habit, b. adaxial view of lamina, c. raceme.

【22】 *Apluda* L. オキナワカルカヤ属 Fig. 31

1. *Apluda mutica* L. オキナワカルカヤ

生育地 : 水田周辺に残存するかつての刈敷や土手, やや湿性の採草地.

生育状況 : 両島で確認されたが, 西表島では稀. 石垣島では比較的多いが, 土地改変や除草剤の使用, 外来種の侵入によって劣化した草地では確認されなかった.

備考 : 当該地域を代表する草原生植物のひとつと考えられる.



Fig. 31

*a-d* *Apluda mutica*; *a*. inflorescence, *b*. part of shoot, *c*. base of lamina, *d*. part of inflorescence, *e*. spikelet.

【23】 *Arthraxon* P.Beauv. コブナグサ属 Fig. 32

1. *Arthraxon hispidus* (Thunb.) Makino コブナグサ

生育地 : 水田畦畔, 採草地.

生育状況 : 自然度の高い乾燥した草地にも見られ, 本土部のものよりも多様な環境に生育する.

【24】 *Axonopus* P.Beauv. ツルメヒシバ属 Fig. 33

1. *Axonopus compressus* (Sw.) P.Beauv. ツルメヒシバ

生育地 : 放牧地, 水田周辺の低茎草地.

生育状況 : アメリカ大陸原産であるが, 当該地域の低茎型草地を代表する種類となっている.

近縁種 : ホソバツルメヒシバ *A. fissifolius* は第二小穂の護穎が小穂のと等長(ツルメヒシバでは 4/5 長), 稈の節がふつう無毛(ツルメヒシバでは有毛)である点で識別できる.

備考 : 花がないものはオガサワラスズメノヒエやオキナワミチシバに酷似している.

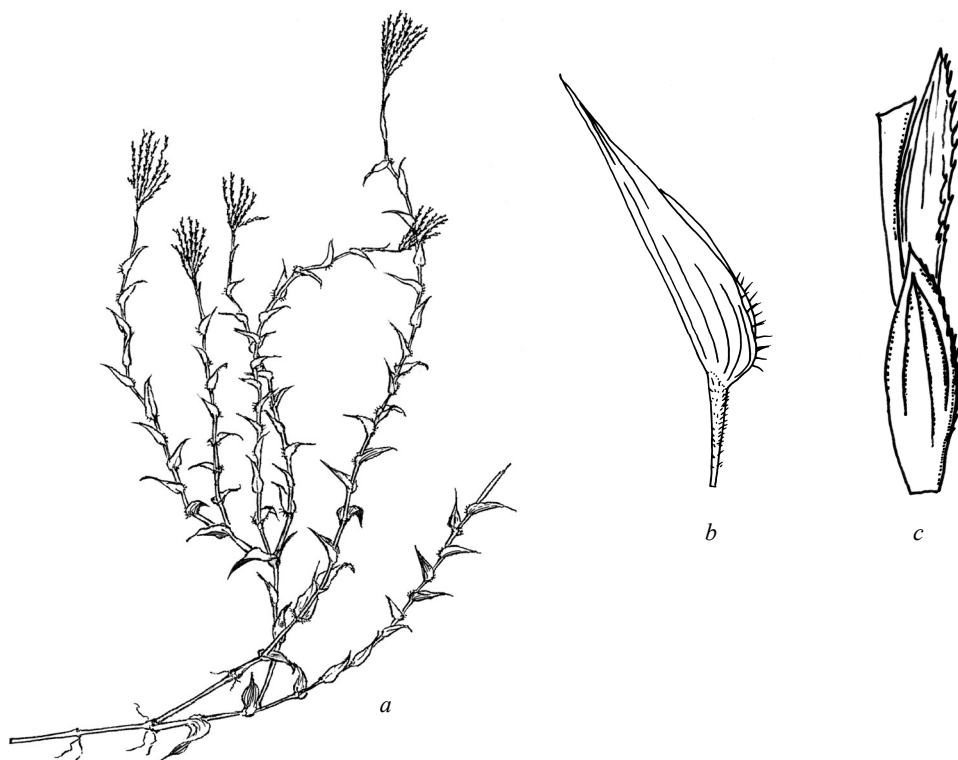


Fig. 32 a–c *Arthraxon hispidus*; a. habit, b. side view of lamina, c. spikelets.

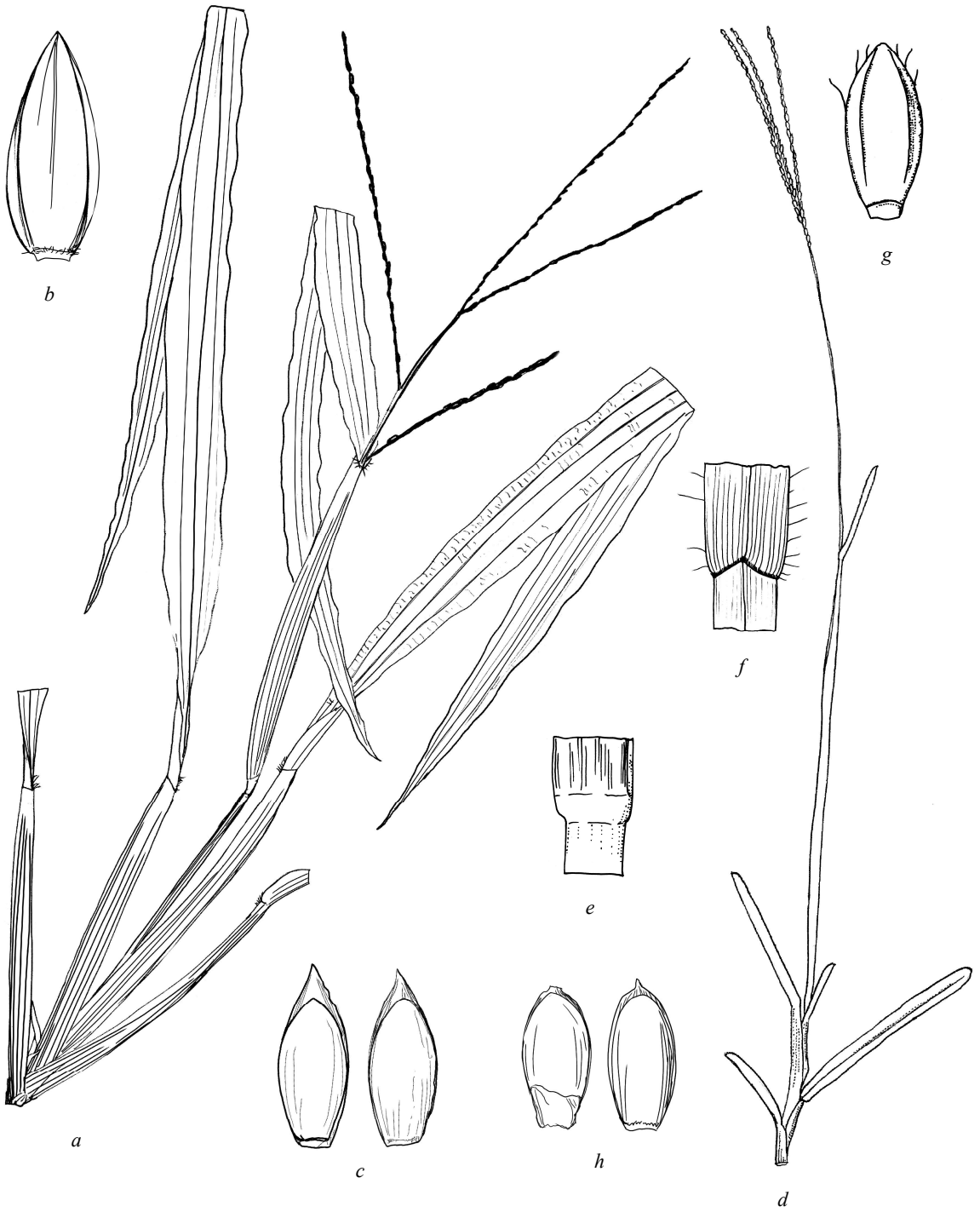


Fig. 33

**a–c** *Axonopus compressus*; **a**. habit, **b**. abaxial view of spikelet, **c**. spikelets showing lemma.

**d–h** *A. fissifolius*; **d**. habit, **e**. node of culm, **f**. ligule, **g**. abaxial view of spikelet, **h**. spikelets showing lemma.

【25】 *Bothriochloa* Kuntze カモノハシガヤ属 Figs. 34-35

- A. 花序は中軸が短く、総は掌状になる・・・・・・・・・・・・・・・・・・1. カモノハシガヤ  
*B. ischaemum*
- A. 花序は中軸が伸び、総は総状に多数がつく
- B. 小穂の第一包穎に針で突いたようなくぼみがない・・・・・・・・・・2. アイダガヤ  
*B. bladhii* var. *bladhii*
- B. 小穂の第一包穎に針で突いたようなくぼみが生じる・・・・・・・・・・3. モンツキガヤ  
*B. bladhii* var. *punctata*

1. *Bothriochloa ischaemum* (L.) Keng カモノハシガヤ

生育状況：両島では確認されなかった。

備考：花序の形状から、一見するとヒメオニササガヤにやや似ている。実際にUROやKYOに収蔵されていた石垣島、西表島産カモノハシガヤの標本は、アイダガヤやヒメオニササガヤ等の誤同定であった。沖縄本島での記録は比較的多いため、今後当該地域でも記録される可能性がある。



Fig. 34 a-b *Bothriochloa ischaemum*; a. panicle, b. spikelets.

## 2. *Bothriochloa bladonii* (Retz.) S.T.Blake var. *bladonii* アイダガヤ

生育地 : 放牧地, 採草地, 畑地周辺の路傍. 土地改変がなされていない草地にも生育する.

生育状況 : 当該地域では広域に見られる. ただし出穂時期が夏季以降に偏るため, 特に春季の踏査ではほとんど認識することができない.

識別点 : カモノハシガヤは散房状花序をもち, 中軸が最下の総よりも短い.

備考 : 変種のモンツキガヤと共に旧熱帯地域原産の帰化種とされることもあるが(梶田ほか2022), 勝山(2023)は大井(1942)を引用し, 南西諸島には古くから記録があることに言及したうえで, 在来である可能性を指摘している.

## 3. *Bothriochloa bladonii* var. *punctata* (Roxb.) R.R.Stewart モンツキガヤ

生育地 : 放牧地, 採草地, 畑地周辺の路傍.

生育状況 : アイダガヤとほぼ同様の環境に見られると考えられるが, 確認地点数はアイダガヤに比べて非常に少なかった. 両者の棲み分けに関しては不明.

近縁種 : 石垣島や黒島の放牧地において2-5本の総が掌状につき, 第一包穎にくぼみがあるが, 花序は枝分かれせず散房状になる本種によく似た別種(*Bothriochloa* sp.)が確認された. 当該種の同定には検討を要す.

備考 : アイダガヤとは区別しない見解もある(POWO 2026).

### コラム：落穂ひろい③ 穴が空いた謎のイネ

*Bothriochloa*はラテン語で“穴が空いたイネ”を意味し, その名の通り第一包穎にまるで覗き穴のようなくぼみが生じるという奇怪な特徴をもつ. 著者らの調査によって採取された不明種にも第一包穎に1~2個のくぼみがあり, 明らかに*Bothriochloa*であったが, 草丈が20cm程度と低く, 花序が散房状で, 無柄小穂基部の白色毛が長いなど, これまで当該地域で記録があった同属のアイダガヤ, カモノハシガヤとは似て非なり, 外見はむしろ *Dichanthium* のヒメオニササガヤに近いものであった. 自生地は大規模な土地改変が行われていないであろう低茎の放牧地で, 非常に長い期間, その場所で牛の採食圧に晒されてきた様子が伺えた.

八重山のアイダガヤについては前述の通り, 在来か外来かの決着はついていない(梶田ほか2022, 勝山2023). 不明種もまた, 播種された牧草類と共に石垣島に侵入した可能性は捨てきれないが, その範囲が極めて限定的であったこと, 自生地が土地改変の及んでいない草地であることなどを踏まえると, 在来であってもまったく不思議ではない. 種同定と共に, その起源も併せての解明が求められる.



Fig. 35

*a* *Bothriochloa bladhii* var. *bladhii*; *a*. habit. *b* *B. bladhii* var. *punctata*; *b*. spikelets. *c-d* *B. sp.*; *c*. habit, *d*. raceme.

【26】 *Capillipedium* Stapf ヒメアブラススキ属 Figs. 36-37

- A. 花序の下方の枝は単生か、2次分岐を生じる・・・・・・・・・・1. カシヨウアブラススキ  
*C. kwashotense*
- A. 花序の下方の枝は、2-3次分岐を生じる
- B. 総は3-8節があり、7-17小穂を有する・・・・・・・・・・2. リュウキュウヒメアブラススキ  
*C. spicigerum*
- B. 総は1-3節があり、3-7小穂を有する・・・・・・・・・・3. ヒメアブラススキ  
*C. parviflorum*

1. *Capillipedium kwashotense* (Hayata) C.C.Hsu カシヨウアブラススキ

生育地 : 海岸近くの風衝草原.

生育状況 : 石垣島では数か所で確認され、単一の群落を形成していた。西表島でも過去に記録はあるが、近年の記録はなく、詳細は不明.



Fig. 36 a-c *Capillipedium kwashotense*; a. habit, b. node of culm, c. spikelet.

2. *Capillipedium spicigerum* (Benth.) S.T.Blake リュウキュウヒメアブラススキ

生育地 : 放牧地, 採草地.

生育状況 : ヒメアブラススキとほぼ同様の環境に見られるが, 比較して少なかった.

備考 : ヒメアブラススキとの形態変異は連続的で, 分類学的な検討が必要である.

3. *Capillipedium parviflorum* (R.Br.) Stapf ヒメアブラススキ

生育地 : 放牧地, 採草地.

生育状況 : 当該地域のやや乾燥した草地環境で普遍的に見られる.



Fig. 37

a-c *Capillipedium spicigerum*; a. habit, b. node of culm, c. raceme  
d-f *C. parviflorum*; d. base of lamina, e. raceme, f. caryopsis.

【27】 *Cenchrus* L. クリノイガ属 Fig. 38

1. *Cenchrus echinatus* L. シンクリノイガ

生育地 : 路傍, 植え込み.

生育状況 : 市街地では散見されるが, 放牧地や水田畦畔などの二次草地ではほとんど確認されず, 個体数は多くないと考えられる.

近縁種 : 黒島でクリノイガ *C. brownii* が記録されているほか (山崎ほか 2016), 本土部ではヒメクリノイガ *C. longispinus* の帰化が知られている. いずれの種も両島に分布する記録はない.

識別点 : ヒメクリノイガと異なり総苞の刺が2形ある. クリノイガに比べて小穂が疎につく.

備考 : アメリカ大陸原産の帰化種.



Fig. 38

*a-b* *Cenchrus echinatus*; *a*. habit, *b*. spikelet.

【28】 *Chrysopogon* Trin. オキナワミチシバ属 Fig. 39

- A. 稈の高さは0.7m未満、小穂に鈎状毛はない・・・・・・1. オキナワミチシバ  
*C. aciculatus*
- A. 稈の高さは1-2m内外、小穂に鈎状毛がある・・・・・・2. ベチベルソウ  
*C. zizanioides*

1. *Chrysopogon aciculatus* (Retz.) Trin. オキナワミチシバ

生育地 : 放牧地, 芝地.

生育状況 : 低茎の放牧地, 芝地ではツルメヒシバと並んで優占する当該地域を代表する種だが, それとは異なり牧草の播種や重機による耕作, 土地改変を行った牧場ではほとんど見られなくなる.

近縁種 : 花序がない状態では葉身の脈の様子や, 辺縁が縮れてしわができ, まばらに長毛が生える点など, ツルメヒシバと極めてよく似ている.

識別点 : 掘り上げたときに枯れた古い葉鞘がいくつも残っている様子はツルメヒシバと明確に異なる. またツルメヒシバのような節の長い匍匐枝は形成しない.

2. *Chrysopogon zizanioides* (L.) Roberty ベチベルソウ

生育地 : 採草地や農道沿いの路傍.

生育状況 : 沖縄本島では比較的普通に見られるが, 当該地域では稀で, 石垣島でわずかに確認された.

備考 : 熱帯アジア原産の帰化種. 香水の原料や土留めなどに利用され, 流通している.

コラム : 落穂ひろい④ 放牧地の植生を巡る過去と今

隆起石灰岩に土壌が薄く堆積した放牧地に成立するオキナワミチシバの優占群落は, 古くからハイキングジカーオキナワミチシバ群落として認識されている(宮脇ほか1979, 鈴木1979). この群落は, キツネノヒマゴ, アサガオガラクサ, ヤリテンツキなどの低茎在来草本を構成要素とし, 当該地域を代表する二次草地の植生であった. しかしながら, 表土の直下が隆起石灰岩の基盤に覆われ, その風化土である島尻マージの暗赤色土が薄く堆積した立地は(渡嘉敷1993), 放牧地や採草地の条件としては劣悪である(細川2014). そこで当該地域では1980年以降, 表土直下30cmまでの石灰岩基盤を破碎・攪拌し, 新たな土壌を創生するという, スタビライザ工法と呼ばれる草地整備が行われるようになった(農用地整備公団沖縄総合事務所1993). この工法の普及により, これまで放置されるか放牧地としての低位な利用価値しかなかった草地が, 牧草生産のための採草地や導入牧草を主体とする放牧地として次々に改良され, 肉牛肥育の生産性は大幅に向上した(細川2014).

現在の石垣島の放牧地は, 導入されたオニギョウギシバやアフリカヒゲシバを主体とする牧草群落, ネズミノオヤキングジカなど牛の不嗜好性種で構成される群落, センダングサが優占する畑地雑草群落がスタビライザ後の植生として成立し, ハイキングジカーオキナワミチシバ群落に該当する植生は僅かに残るだけで, ほとんど見出すことができなかった.

沖縄総合事務局は生産性の面で低位の草地は今後も整備, 改変していく方針である. 営農方法の近代化の中で失われていくかつての草地植生. 生産面の観点から保全していくのは不可能であり, 絶滅に瀕した植生といっても過言ではない.



Fig. 39

*a-b* *Chrysopogon aciculatus*; *a*. habit, *b*. spikelets.

*c-e* *C. zizanioides*; *c*. habit, *d*. abaxial view of sessile spikelet, *e*. abaxial view of pedicellate spikelet.

【29】 *Coix* L. ジュズダマ属 Fig. 40

1. *Coix lacryma-jobi* L. ジュズダマ

生育地 : 水田周辺の水路, 川岸.

生育状況 : 両島で確認されたが, 当該地域では比較的稀で個体数も少ない.

備考 : 東南アジア原産の帰化種とされる.



Fig. 40 *a* *Coix lacryma-jobi*; *a*. habit.

【30】 *Cymbopogon* Spreng. オガルカヤ属 Fig. 41

1. *Cymbopogon tortilis* (J.Presl) A.Camus var. *tortilis* シマオガルカヤ

生育地 : 土地改変の及んでいない採草地, 放牧地.

生育状況 : 両島において確認されたが, 個体数は少なく, 危機的な状況であると考えられる.

近縁種 : 本土部のオガルカヤ var. *goeringii* も同様に二次草地の代表的な種類である.

識別点 : 無柄小穂は 3.5–4.5mm で (Cheng et al. 2006), 著者らの採取品もその範囲であったことからシマオガルカヤとして掲載した (オガルカヤの無柄小穂は 5mm を超える). また, オガルカヤの小穂はやや粉を吹いたように白色を帯びるのに対し, 八重山のシマオガルカヤではそのような特徴は見られない.



Fig. 41 *a-b* *Cymbopogon tortilis* var. *tortilis*; *a*, habit, *b*, raceme.

【31】 *Cyrtococcum* Stapf ヒメチゴザサ属 Fig. 42

1. *Cyrtococcum patens* (L.) A. Camus var. *patens* ヒメチゴザサ

生育地 : 放牧地, 採草地の林縁, 木陰など.

生育状況 : 放牧地にある牛の休み場として作られた木陰や林縁部などでは比較的よく見られるが, それ以外の環境ではほとんど確認されない.

近縁種 : 葉の幅が 6mm 以上と広いものはヒロハヒメチゴザサ var. *latifolium* と呼ばれる.



Fig. 42 a-b *Cyrtococcum patens* var. *patens*; a. habit, b. part of panicle.

【32】 *Dichanthium* P.Willemet オニササガヤ属 Fig. 43

- A. 花序の中軸は無毛・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1. ヒメオニササガヤ  
*D. annulatum*
- A. 花序の中軸に軟毛が生える・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2. オニササガヤ  
*D. aristatum*

1. *Dichanthium annulatum* (Forssk.) Stapf ヒメオニササガヤ

生育地：路傍，放牧地，採草地など乾燥または貧栄養の草地環境。

生育状況：当該地域では個体数が非常に多い。土地整備後を含む貧栄養な裸地，草地環境にいち早く侵入し，おう盛に生育するため，同様の環境に生育している草原生希少種にとって脅威の存在といつてよい。

近縁種：沖縄県ではシラゲオニササガヤ *D. sericeum* の記録はないが，本種とは無柄小穂の第一包穎の先端よりやや下に長い毛の列があることで識別される。

備考：旧熱帯地域原産の帰化種。1970年代に牧草に混ざって侵入し，分布を拡大させたとされる（勝山 2023）。

2. *Dichanthium aristatum* (Poir.) C.E.Hubb. オニササガヤ

生育状況：沖縄本島では中部から南部を中心に見られるが，八重山諸島では記録がない。

コラム：落穂ひろい⑤ ヒメオニの群れの中に

*Dichanthium*属のヒメオニササガヤは南西諸島を代表するイネ科植物の一種で，石垣島・西表島においても空港到着直後に出会えるほど多く，市街地の路傍から自然度の高い二次草地に至るまで現れる。その一方で，同属のオニササガヤやシラゲオニササガヤの国内における分布は，熱帯域に広く帰化しているという世界の状況に対して不自然に思えるほど限定的で，シラゲに至っては京都府・三重県で採取された標本が知られているのみである（勝山2023）。また国内に未侵入と考えられている東南アジア原産の *D. caricosum* も台湾までは記録されており，上記2種を含めたこれら3種が八重山諸島で見つかったも全く不思議ではない。

学生時代の著者らは，そのレアリティの低さから当該地域で出会う *Dichanthium*の全てをヒメオニササガヤとして処理し，あまり相手にしてこなかった。実際に当プロジェクトで採取した *Dichanthium*も99%はヒメオニであった。しかし，その中にはごくまれに別物が含まれており，徹底的な観察と採取の重要性をプロジェクトを通して再認識させられた。当該群種の同定結果については本書の作成に間に合わなかったため，やむを得ず次巻以降のタスクとして保留することにした。

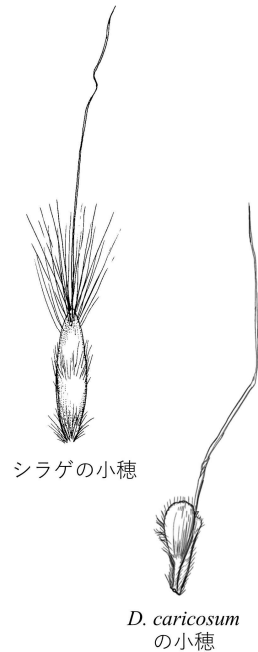




Fig. 43 *a-c* *Dichanthium annulatum*; *a*. habit, *b*. spikelets, *c*. peduncle. *d-e* *D. aristatum*; *d*. habit, *e*. spikelets.

【33】 *Digitaria* Haller メヒシバ属 Figs. 44-48

- A. 小穂は披針形，長さ 2.5-3.0 mm，第二小花の護穎は淡色で，上端はとがる
- B. 総は斜上または開出する
- C. 総の中軸の縁はざらつく
- D. 第一包穎がある
- E. 匍匐枝を持つ
- F. 総は 2-4 本，葉鞘は密に毛があり，小穂の毛は成熟すると光輪上に開出する  
 . . . . . 1. フタマタメヒシバ  
*D. heterantha*
- F. 総は 3-15 本，葉鞘はまばらに毛があるか無毛，小穂は有毛だが毛は開出しない  
 . . . . . 2. デイジットグラス  
*D. eriantha*
- E. 匍匐枝はない . . . . . 3. メヒシバ  
*D. ciliaris*
- D. 第一包穎はない
- E. 花序は成熟すると開く . . . . . 4. イヌメヒシバ  
*D. setigera*
- E. 花序は成熟しても開かない . . . . . 5. ヒトタバメヒシバ  
*D. pruriens*
- C. 総の中軸の縁は平滑
- D. 葉身，葉鞘は無毛 . . . . . 6. コメヒシバ  
*D. radicata*
- D. 葉身，葉鞘は有毛 . . . . . 7. アラゲコメヒシバ  
*D. radicata* var. *hirsuta*
- B. 総は直立し束状になる
- C. 稈の高さ 50cm 以下，葉の長さは 10cm 未満，小穂は短毛がある . . . . . 8. ヘンリーメヒシバ  
*D. henryi*
- C. 稈の高さは 150cm 内外，葉の長さ約 20cm，小穂には長毛がある . . . . . 9. ススキメヒシバ  
*D. insularis*
- A. 小穂は卵状楕円形，長さ約 2mm，第二小花の護穎は黒色に熟し，急に鋭頭
- B. 総は 3-10 本で長さ 10 cm 内外，稈は匍匐枝を出さない . . . . . 10. アキメヒシバ  
*D. violascens*
- B. 総は 2-3 本で長さ 6 cm 以下，稈は短く，匍匐枝から上向する . . . . . 11. イトメヒシバ  
*D. leptalea*

1. *Digitaria heterantha* (Hook.f.) Merr. フタマタメヒシバ

生育状況：石垣島，西表島で記録があるが，近況は不明。

2. *Digitaria eriantha* Steud. デイジットグラス

生育地：放牧地，採草地。

生育状況：当該地域ではトランスバーラという名前でよく流通，播種されている牧草である。

識別点：匍匐枝の節が有毛なことも特徴のひとつ。

備考： *D. milaniana* もトランスバーラの名で流通しており，識別は難しい。

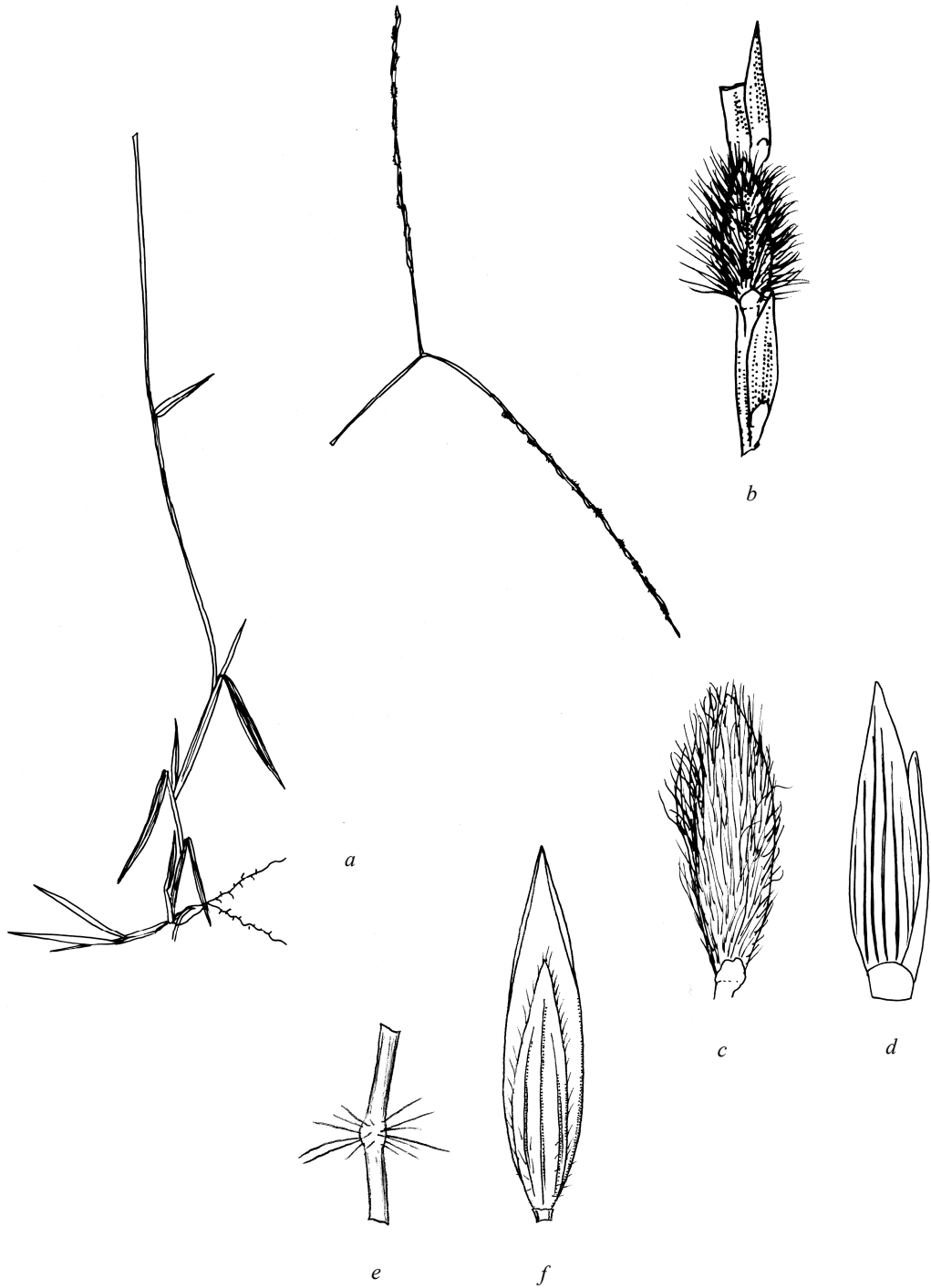


Fig. 44

*a-d* *Digitaria heterantha*; *a*, habit, *b*, digitate raceme, *c*, abaxial view of pedicellate spikelet, *d*, abaxial view of subsessile spikelet. *e-f* *D. eriantha*; *e*, node of culm, *f*, adaxial view of spikelet.

### 3. *Digitaria ciliaris* (Retz.) Koeler メヒシバ

生育地 : 路傍から自然度の高い放牧地まで, あらゆる草地環境.

生育状況 : 本土部と同様でごく普通にみられる.

近縁種 : 本種に似て全草多毛のキヌゲメヒシバ *D. sericea* が, 西表島沖合の無人島である沖ノ神島から記録されており (水谷ほか 2021), 西表島にも分布している可能性もある.

備考 : メヒシバの範囲内と考えられる個体は, 毛の多寡だけでなくその草姿も多型.

### 4. *Digitaria setigera* Roth ex Roem. et Schult. イヌメヒシバ

生育地 : メヒシバと同様, 多くの水田畦畔と放牧地で確認された.

生育状況 : メヒシバに比べて個体数は多くはないが, 稀な種類ではない. メヒシバとの棲み分けについては不明で, 今後検討を要する.

### 5. *Digitaria pruriens* (Fisch. ex Trin.) Buse ヒトタバメヒシバ

生育状況 : 沖縄県では大東諸島に記録がる. 八重山諸島にも分布する可能性はあるが, 典型品は確認されなかった.

備考 : POWO (2026) では, イヌメヒシバのシノニムとしてまとめられている. KYO に収蔵された沖縄本島産のイヌメヒシバの標本のなかに, 本種と考えられるものがあった. 本書に掲載した図版は当該標本を参考に作成したものである.

## コラム：落穂ひろい⑥ トランスバーラ

石垣島の内陸部はサトウキビ畑も多いが, 肉牛の飼料となる牧草生産のための採草地もまた広大な面積を占めている. 著者らは採草地についても広義の草地として調査対象としてきたが, 播種されている牧草は, いったい何がまかれているかも分からないし, 滅多に出穂していないしで (そういう品種が選抜されている), 何種類いるのか想像もつかない. 地元の方に伺い, “ジャイアント”や“なつゆたか”といった流通名はわかったものの, 分類学的な正体はなかなか掴めなかった.

トランスバーラもそんな牧草のひとつであった. 調べるとどうやら *Digitaria*らしい. 出穂した個体をようやく採取できたのは, 調査開始から半年経過した夏であった. 本書では, それを英名ディジットグラス, *D. eriantha*であると判断した. *D. milanjiana*もトランスバーラと呼ばれているが, 護穎がざらつく (Cook et al. 2020). もちろん, *D. milanjiana*もどこかでまかれている可能性は高く, 著者らの牧草に関する調査はまったく不十分である.

ただでさえ悩ましい南西諸島の *Digitaria*, そこに牧草が介入することでさらにカオスな様相を呈していた.



出穂するトランスバーラ

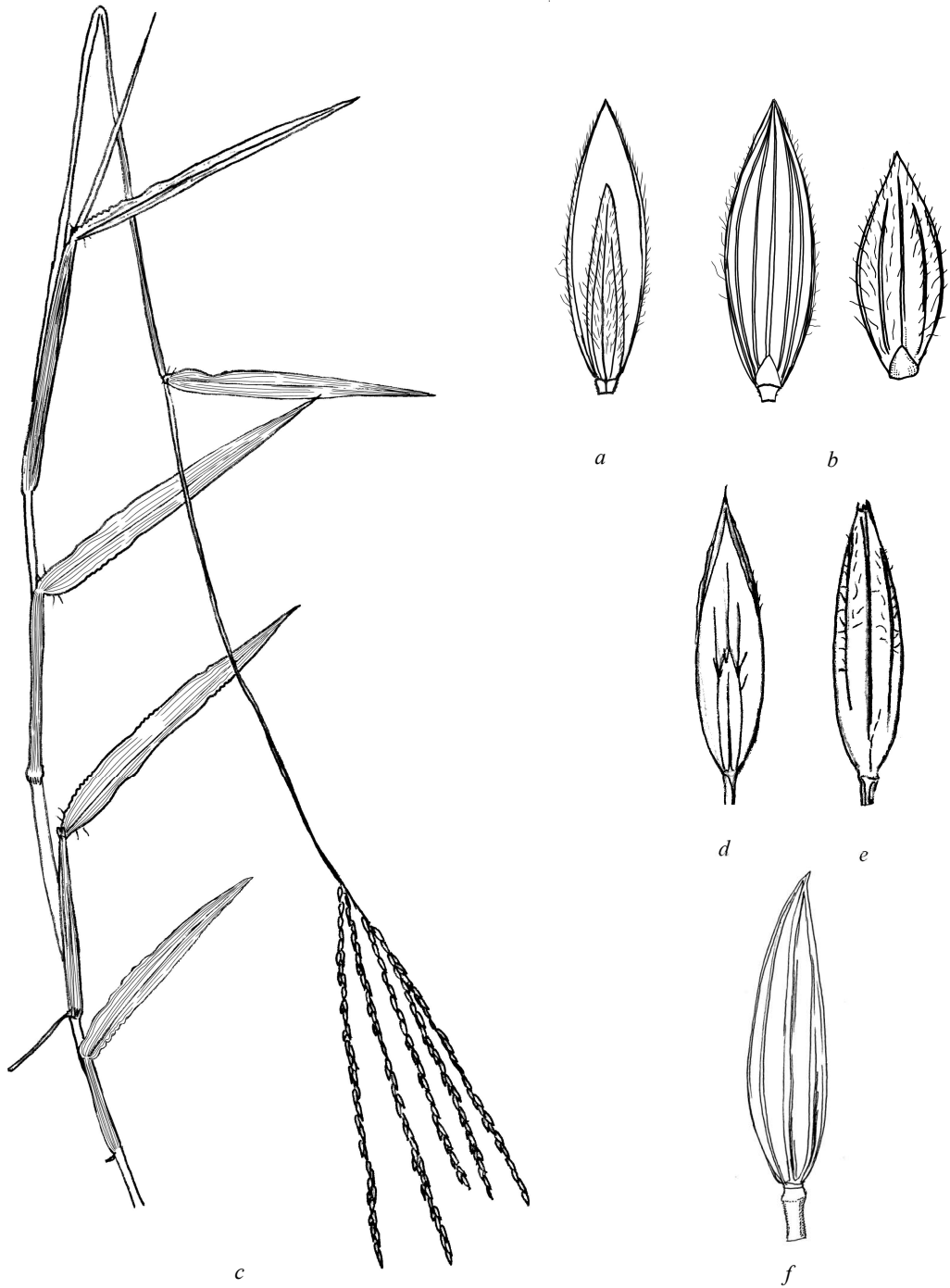


Fig. 45

*a–b* *Digitaria ciliaris*; *a*. adaxial view of spikelet, *b*. abaxial view of spikelet, showing variation of indumentum distribution. *c–e* *D. setigera*; *c*. habit, *d*. adaxial view of spikelet, *e*. abaxial view of spikelet. *f* *D. pruriens*; *f*. abaxial view of spikelet.

## 6. *Digitaria radicata* (J.Presl) Miq. コメヒシバ

生育地 : 路傍, 放牧地.

生育状況 : 低茎の放牧地に稀に見られるほか, 石垣島の市街地の路傍でも確認された.

近縁種 : 葉鞘, 葉身が有毛な変種アラゲコメヒシバ var. *hirsuta* (検索表7) は, 石垣島の放牧地において稀に確認された. おそらく多年草であり, コメヒシバと別種である可能性がある.

## 8. *Digitaria henryi* Rendle ヘンリーメヒシバ

生育地 : 放牧地, 海岸近くの低茎草地.

生育状況 : 両島では比較的よく見られる種類である.

識別点 : 全草やや白っぽい色をしており, 花がなくても他種との識別は可能である.

## 9. *Digitaria insularis* (L.) Fedde ススキメヒシバ

生育地 : 採草地, 畑地の辺縁.

生育状況 : 確認地点数は多くないが, 植物体サイズが大きくよく目立つ種類である.

備考 : アメリカ大陸原産. その名の通りススキの花序によく似た草姿をしている.

## 10. *Digitaria violascens* Link アキメヒシバ

生育地 : 水田畦畔, 放牧地.

生育状況 : 両島のやや自然度の高い二次草地では普通に確認された.

近縁種 : 久米島に小穂および葉に密に銀白毛があるピロードメヒシバ *D. mollicoma* が分布する.

備考 : きわめて多型で, 次種イトメヒシバとの区別は難しい.

## 11. *Digitaria leptalea* Ohwi イトメヒシバ

生育地 : 低茎の海岸草地や放牧地と考えられる.

生育状況 : アキメヒシバの小型品との区別が難しく, イトメヒシバと断定できる個体は見出せなかった.

近縁種 : 西表島の採草地において, 匍匐枝を著しく伸ばしてひろがるイトメヒシバに似た異なる種 (*Digitaria* sp.) が確認された. 当該種の同定については検討を要する.

### コラム：落穂ひろい⑦ 幻のメヒシバ

ピロードメヒシバ *Digitaria mollicoma* は, 昨年公開されたばかりの第5次レッドリスト (環境省2025) で絶滅危惧IA類に指定されているものの, 国内唯一の産地とされた久米島からも約半世紀に渡り実物が確認されていないという, 琉球を代表する幻の植物のひとつである (沖縄県2018). しかし, 本種の記録が久米島からしかないとはいえ, 台湾にも分布していることを踏まえると, 八重山諸島から見つかっても全くおかしくない.

2024年の調査開始以降, 調査メンバーの総力を挙げ, 遮るものが何ひとつない灼熱の草地を熱中症になりかけながら徹底的に探し潰したが, 本種に関しては残念ながら, 未だそれらしき個体を見出すことはできていない. やはり八重山諸島には分布していないのだろうか?



Fig. 46

**a–b** *Digitaria radicata*; **a**, habit, **b**, abaxial view of spikelet.

**c–e** *D. radicata* var. *hirsuta*; **c**, abaxial view of spikelet, **d**, abaxial view of lamina, **e**, apex of shoot.

**f–h** *D. henryi*; **f**, habit, **g**, abaxial view of spikelet, **h**, adaxial view of spikelet.

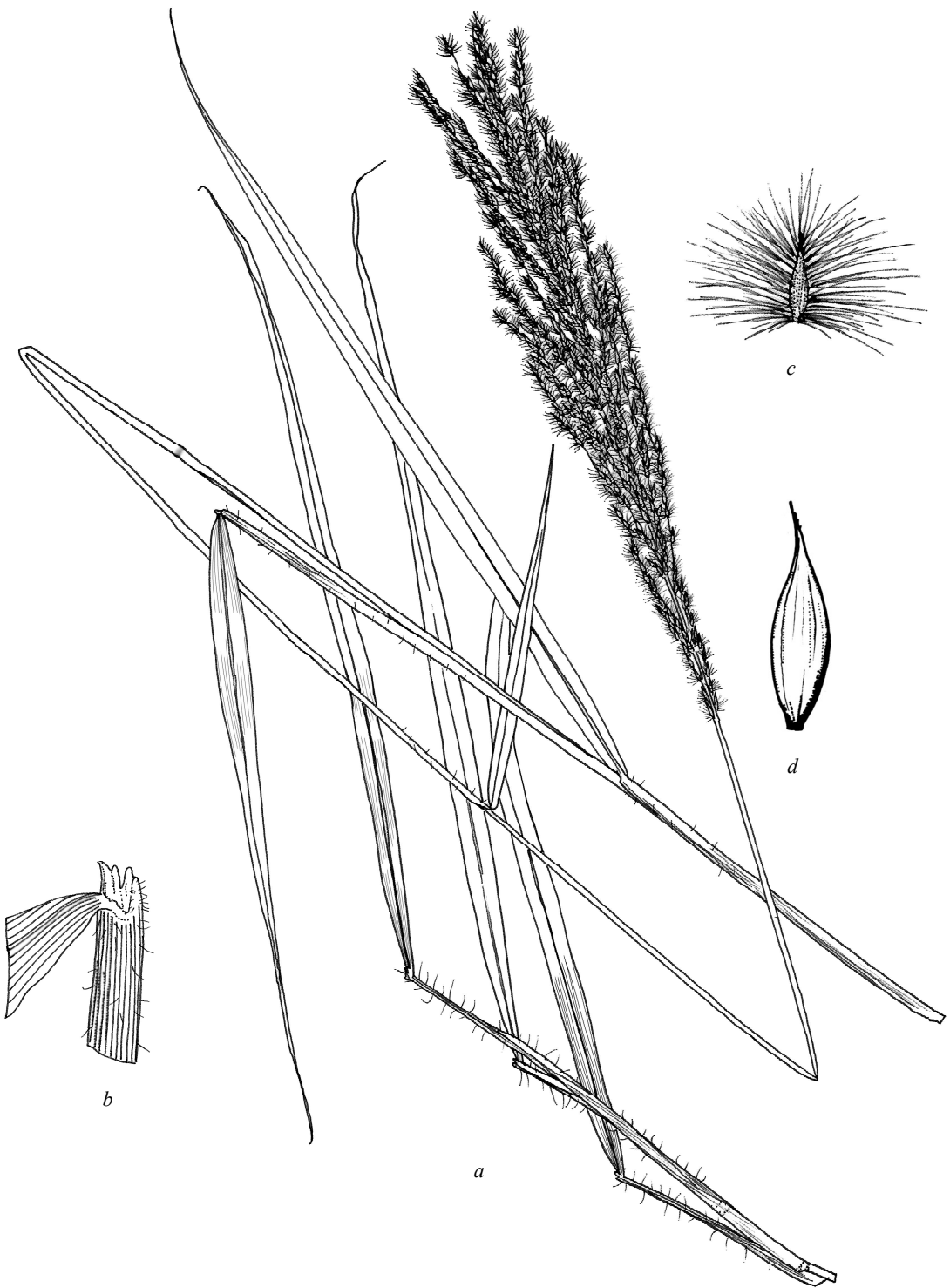


Fig. 47 a-d *Digitaria insularis*; a. habit, b. ligule, c. spikelet, d. floret.



Fig. 48

*a-b* *Digitaria violascens*; *a*. habit, *b*. abaxial view of spikelet.

*c-f* *D. sp.*; *c*. habit, *d*. fertile shoot, *e*. adaxial view of lamina, *f*. part of raceme.

*g* *D. leptalea*; *g*. abaxial view of spikelet.

【34】 *Echinochloa* P.Beauv. イヌビエ属 Figs. 49-50

- A. 小穂は長さ 2-2.5mm で卵状楕円形，第一包穎は小穂の半長で第二包穎はわずかにとがる  
.....1. ワセビエ  
*E. colona*
- A. 小穂は長さ 2.5-5mm で卵状楕円から円卵形，第二包穎は明らかにとがる  
B. 小穂は 4mm 以上で有芒.....2. ノゲタイヌビエ  
*E. hispidula*
- B. 小穂は 4mm 以下で有芒または無芒  
C. 小穂は 3-4mm で芒の有無は不定.....3. イヌビエ  
*E. crus-galli* var. *crus-galli*
- C. 小穂は 2.5-3mm で長い芒はない.....4. ヒメイヌビエ  
*E. crus-galli* var. *praticola*

1. *Echinochloa colona* (L.) Link ワセビエ (コヒメビエ)

生育地 : 水田畦畔，放牧地のやや湿った草地。  
生育状況 : 両島で確認され，個体数は少なくない。

2. *Echinochloa hispidula* (Retz.) Nees ノゲタイヌビエ

生育地 : 水田畦畔。  
生育状況 : 両島で確認されたが，個体数は西表島のほうが多いようである。他のイヌビエ類が放牧地にも生えるのに対し，本種は水田畦畔や水田内に限って出現する。ただし他のイヌビエ類と同様に遷移が進んだ放棄水田では全く見られない。  
近縁種 : ノゲタイヌビエに似て小穂が 4-5mm で無芒または短芒のものはタイヌビエ *E. oryzicola* に，3mm 以下で無芒のものはヒメタイヌビエ *E. crus-galli* var. *formosensis* に分類される。ヒメタイヌビエ，タイヌビエ共に当該地域では記録がない。

3. *Echinochloa crus-galli* (L.) P.Beauv. var. *crus-galli* イヌビエ

生育地 : 水田畦畔や放牧地などのやや湿った草地。  
生育状況 : 本土部と同様に水田畦畔周辺で普通にみられる。  
識別点 : ヒメタイヌビエやタイヌビエは第一包穎が小穂の半分以上の長さであるのに対し，イヌビエおよび次種ヒメイヌビエは 2/5 程度の長さである。  
備考 : 極めて多型で，同属他種との識別は困難を極める。

4. *Echinochloa crus-galli* var. *praticola* Ohwi ヒメイヌビエ

生育地 : 水田畦畔や放牧地などのやや湿った草地。  
生育状況 : 放牧地でも確認されるが，水田畦畔周辺でより多い傾向がある。  
備考 : イヌビエに比べて乾燥した場所に生えるときとされ，比較すると確認地点数は放牧地で多かった。一方で，水田畦畔でイヌビエと混生している場合もあり，両種の棲み分けについては今後検討を要する。



Fig. 49 a-c *Echinochloa colona*; a. habit, b. spikelet, c. apex of upper lemma.



Fig. 50

*a–b* *Echinochloa hispidula*; *a*. habit, *b*. spikelet.

*c–d* *E. crus-galli* var. *crus-galli*; *c*. habit, *d*. adaxial view of spikelet.

*e* *E. crus-galli* var. *praticola*; *e*. spikelet.

【35】 *Eremochloa* Bsue チャボウシノシッペイ属 Fig. 51

1. *Eremochloa ophiuroides* (Munro) Hack. チャボウシノシッペイ

生育地 : 放牧地.

生育状況 : 放牧地によっては播種由来ではあるが優占しているところもある.

備考 : 東南アジア原産の帰化種. センチピードグラスの名前で流通している. 低茎の種類であるが, 他の牧草類と同様に一面を覆いつくすように生育する.

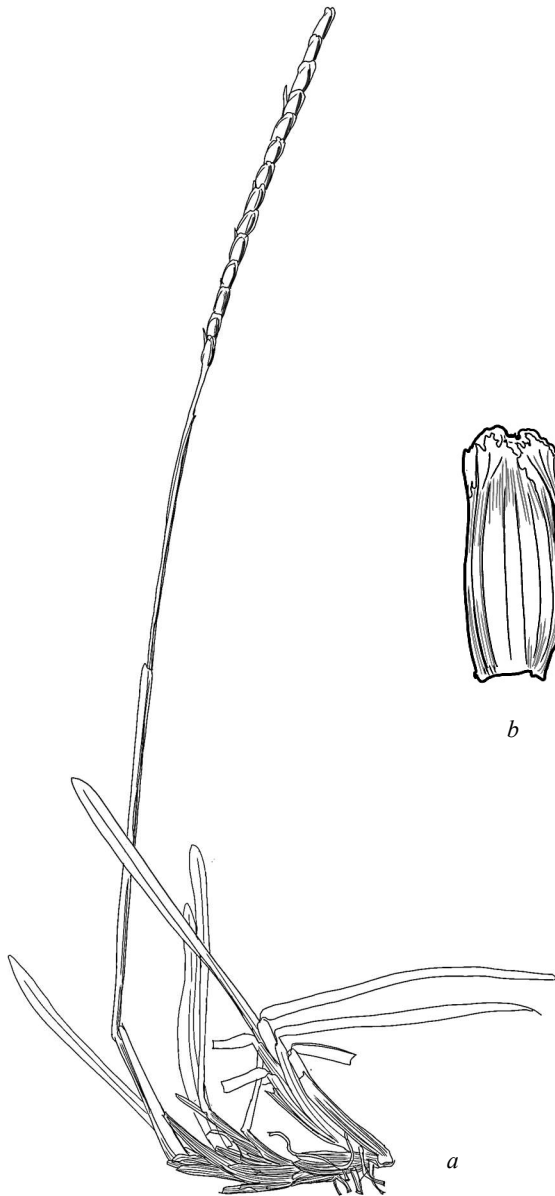


Fig. 51 *a-b* *Eremochloa ophiuroides*; *a*. habit, *b*. abaxial view of spikelet.

【36】 *Eriochloa* Kunth ナルコビエ属 Figs. 52-53

- A. 葉身と葉鞘に軟毛がある。小穂は長さ 4-5mm . . . . . 1. ナルコビエ  
*E. villosa*
- A. 葉身と葉鞘はほとんど無毛。小穂は長さ 2.5-3.5mm . . . . . 2. ムラサキノキビ  
*E. procera*

1. *Eriochloa villosa* (Thunb.) Kunth ナルコビエ

生育地 : 水田畦畔や放牧地などのやや湿った草地.

生育状況 : 西表島のみで確認され、個体数は少なかった.

備考 : 過去に採取された標本や記録は複数存在するが、著者らの行っている調査では生育地が限られていたため、近年個体数が減少している可能性が懸念される.

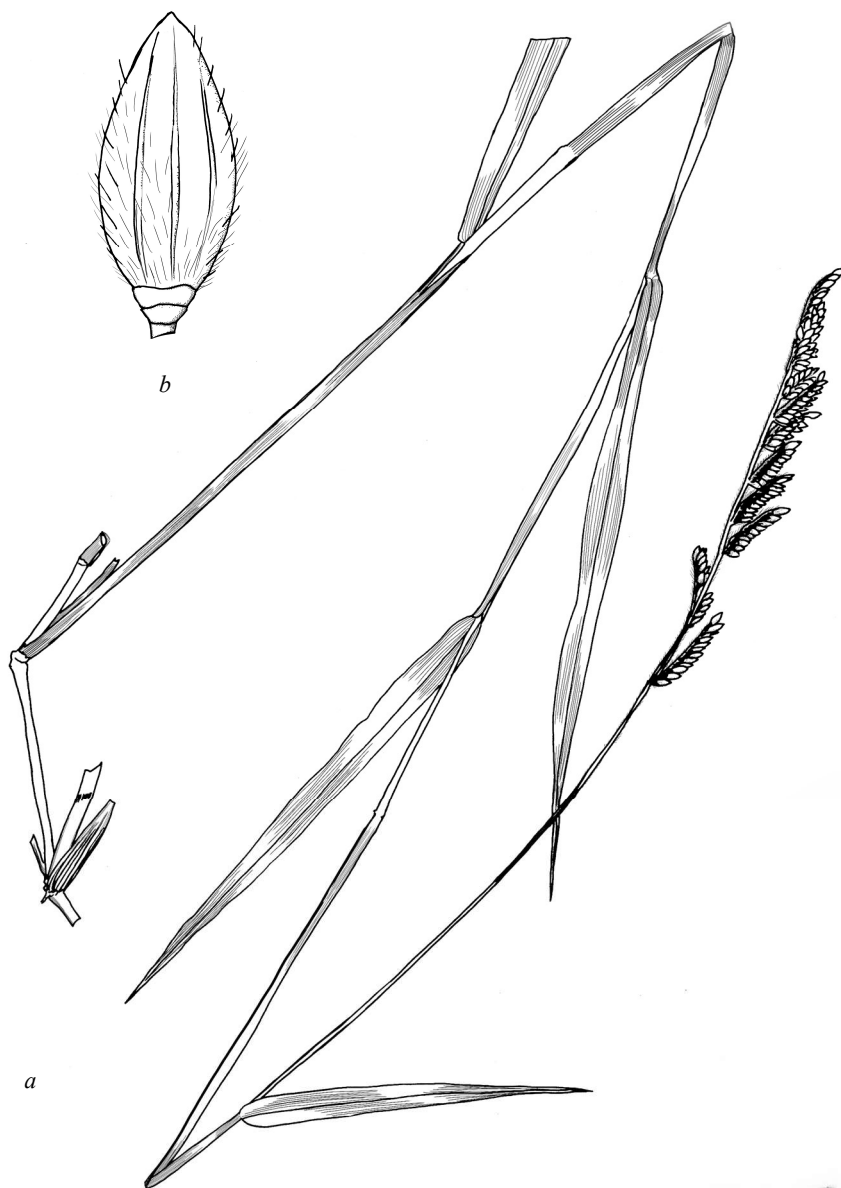


Fig. 52 a-b *Eriochloa villosa*; a. habit, b. abaxial view of spikelet.

2. *Eriochloa procera* (Retz.) C.E.Hubb. ムラサキノキビ (ノキビ)

生育地 : 路傍から自然度の高い放牧地まで、あらゆる草地環境に見られる。

生育状況 : 両島で確認され、個体数は多い。

備考 : 当該地域の草地を代表するイネ科であるといえる。



Fig. 53 *a-b* *Eriochloa procera*; *a*. habit, *b*. part of raceme.

【37】 *Eulalia* Kunth ウンヌケ属 Fig. 54

1. *Eulalia quadrinervis* (Hack.) Kuntze ウンヌケモドキ

生育状況：当該地域での記録は、西表島で採取され、TNS に収蔵された戦前の標本に基づく。本土部では貧栄養の草地で見られる希少種であり、同様の環境に生育している（いた）と考えられるが、そのような環境はまったく見当たらず、近況と詳細は不明である。



Fig. 54 *a-b* *Eulalia quadrinervis*; *a*. habit, *b*. abaxial view of spikelet.

【38】 *Garnotia* Brongn. アオシバ属 Fig. 55

1. *Garnotia acutigluma* (Steud.) Ohwi アオシバ

生育地 : 洪水時には容易に水没するような河川の中流域の岩上に限って生える (沖縄県 2018).

生育状況 : 西表島の特定の河川にのみ分布するとされる (沖縄県 2018).

備考 : 県版のレッドデータでは絶滅危惧IB 類 (EN) に指定されている.



Fig. 55a-d *Garnotia acutigluma*; a. habit, b. ligule, c. spikelet, d. floret.

【39】 *Hackelochloa* Kuntze ヤエガヤ属 Fig. 56

1. *Hackelochloa granularis* (L.) Kuntze ヤエガヤ

生育地 : 水田周辺の草刈りによって維持されている草地.

生育状況 : 当該地域で約 50 年ぶりに確認された (森脇ほか 2025b).

備考 : 県版のレッドデータでは絶滅危惧II類 (VU) とされる (沖縄県 2018).



Fig. 56 *a-b* *Hackelochloa granularis*; *a*. habit, *b*. raceme.

【40】 *Hemarthria* R.Br. ウシノシッペイ属 Fig. 57

1. *Hemarthria compressa* (L.f.) R.Br. コバノウシノシッペイ

生育状況：1970年代に西表島と小浜島で採取された記録がある。

備考：県版のレッドデータでは情報不足 (DD) とされる (沖縄県 2018)。

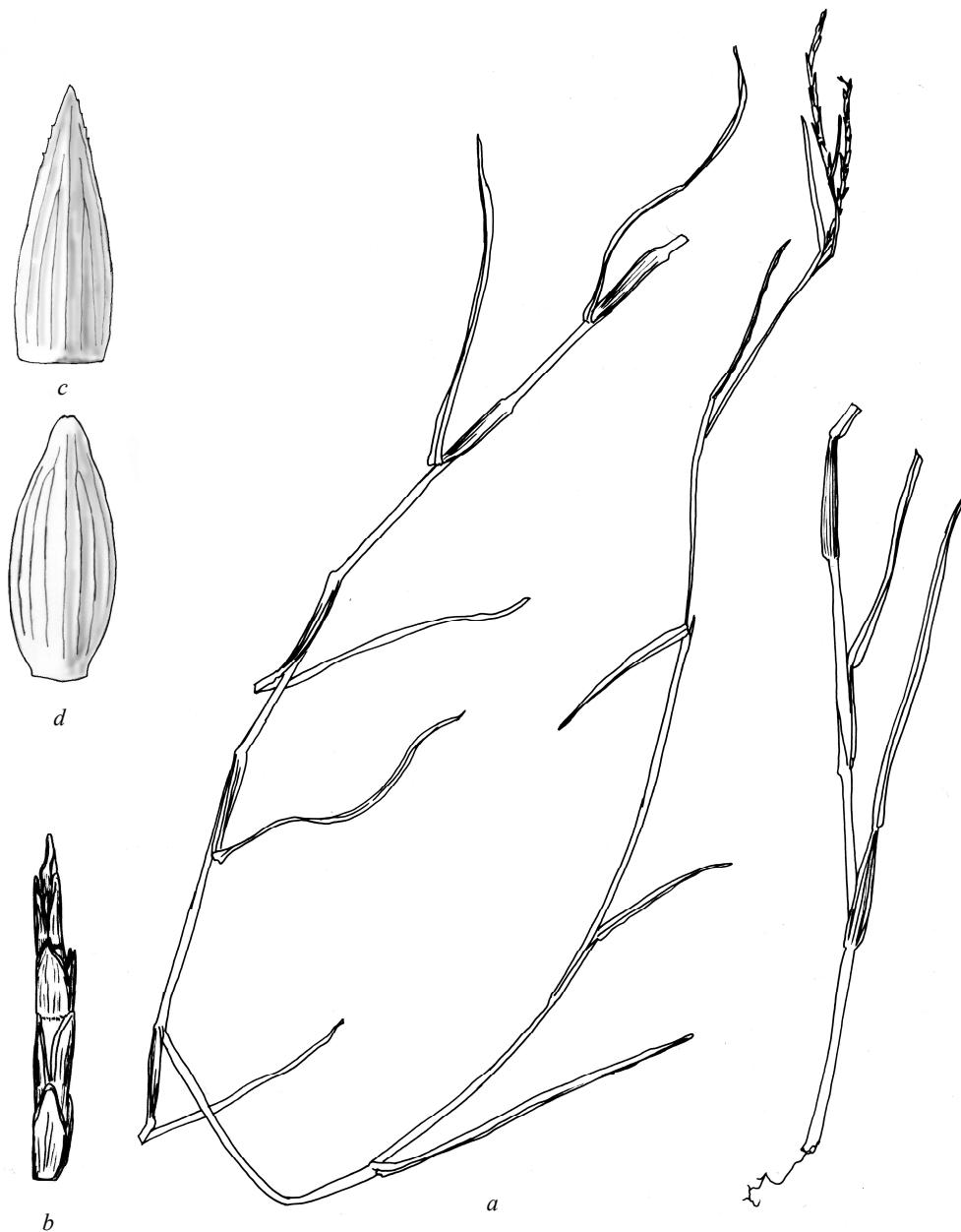


Fig. 57 *a-d* *Hemarthria compressa*; *a*, habit, *b*, part of raceme, *c*, lower glume of pedicellate spikelet, *d*, lower glume of sessile spikelet.

【41】 *Hyparrhenia* Andersson ex Fourn. ヒッパリガヤ属 Fig. 58

1. *Hyparrhenia* sp. ヒッパリガヤ属の1種

生育地 : 放牧地.

生育状況 : 石垣島で確認された.

備考 : 本属の国内での記録は、徳之島においてヒッパリガヤ *H. rufa* の帰化が知られているのみであり (茨城・木場 2005), 著者らが採取した種の同定については今後検討が必要である.

【42】 *Ichnanthus* P.Beauv. タイワンササキビ属 Fig. 58

1. *Ichnanthus pallens* (Sm.) Benth. var. *major* (Nees) Stieber タイワンササキビ

生育地 : 林縁部.

生育状況 : 主な生育地は林内であり, 草地では稀. 西表島の放牧地の林縁で少数が確認された.



Fig. 58

**a-c** *Hyparrhenia* sp.; **a**. habit, **b**. inflorescence, **c**. spikelets.

**d-f** *Ichnanthus pallens* var. *major*; **d**. habit, **e**. base of lamina, **f**. spikelets.

【43】 *Imperata* Cyrillo. チガヤ属 Fig. 59

1. *Imperata cylindrica* (L.) Raeusch. var. *koenigii* (Retz.) Pilg. チガヤ (ケチガヤ)

生育地 : 放牧地, 採草地.

生育状況 : 本土部でも火入れや草刈りで管理される草地を特徴づける種だが, 当該地域でも同様に二次草地を代表する種類である. 放棄直後の草地では単独で優占することがある.

備考 : 節の毛の有無によって, 狭義チガヤ (ケチガヤ) とケナシチガヤ f. *pallida* の2型に分類される. 2024年に行った調査の採取品は, 富永ほか (2007) の報告通り, 狭義チガヤが圧倒的多数を占めていたが, ケナシチガヤも分布していることが明らかとなった.

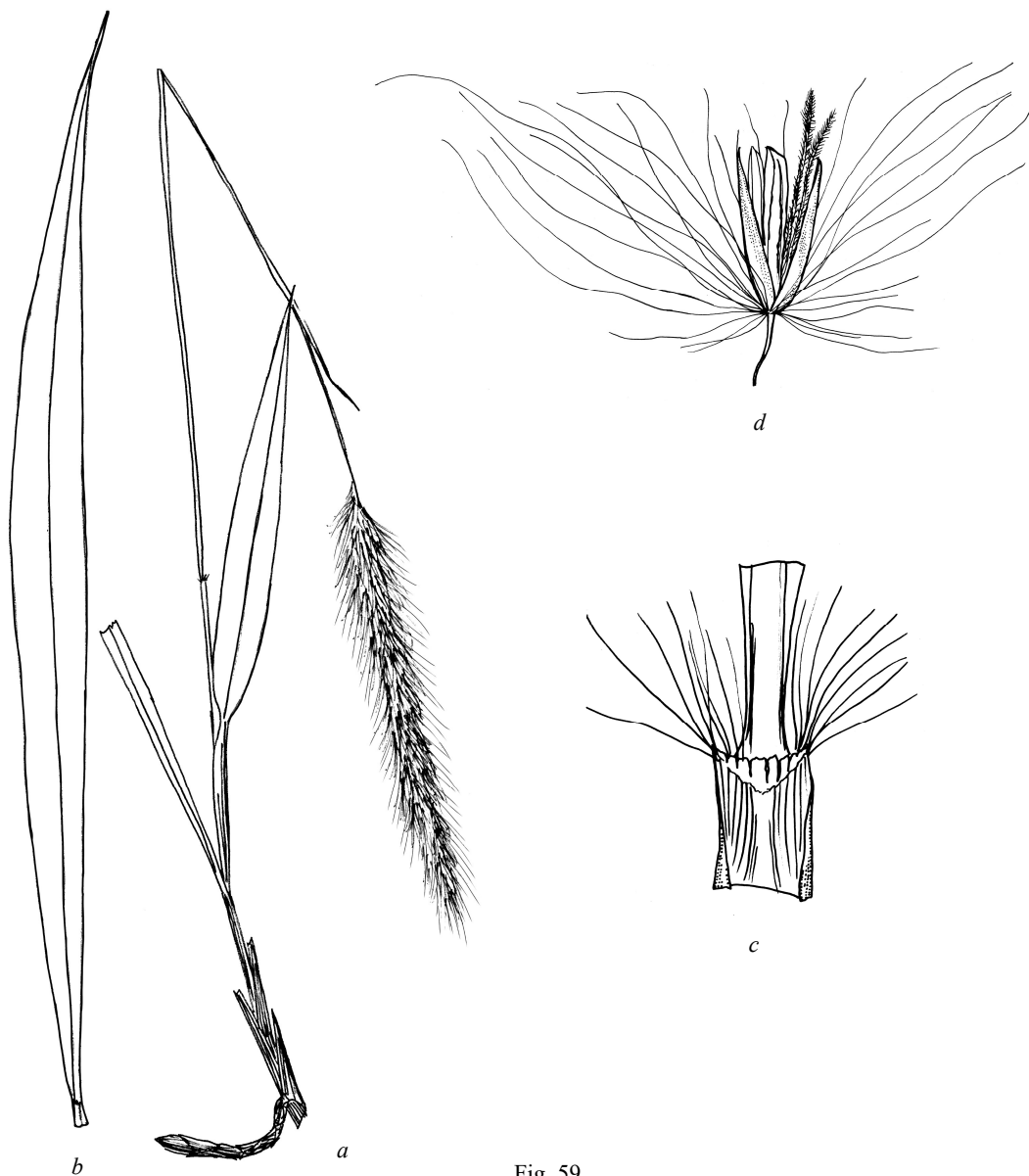


Fig. 59

a-d *Imperata cylindrica* var. *koenigii*; a. habit, b. adaxial view of lamina, c. ligule, d. spikelet.

【44】 *Ischaemum* L. カモノハシ属 Figs. 60–64

- A. 短柄小穂の第一包穎に横じわとこぶ状の突起がある・・・1. タイワンアイアシ  
*I. rugosum*
- A. 短柄小穂の第一包穎は平滑
- B. 小穂はみなほぼ同長の完全な長い芒がある
- C. 稈は基部が這い、葉身は全体につく・・・2. ヒメカモノハシ  
*I. ciliare*
- C. 稈は直立し、葉身は基部に集まる
- D. 短柄小穂の第一包穎は竜骨上に翼がある・・・3. コハナカモノハシ  
*I. setaceum*
- D. 短柄小穂の第一包穎は竜骨上に翼はない・・・4. ハナカモノハシ  
*I. aureum*
- B. 小穂は芒がないか短い
- C. 花序の柄は長く伸びる・・・5. タイワンカモノハシ  
*I. aristatum* var. *aristatum*
- C. 花序の柄は最上の葉鞘から突き出ない・・・6. ヤエヤマカモノハシ  
*I. muticum*

1. *Ischaemum rugosum* Salisb. タイワンアイアシ

生育地 : 水田畦畔, 放棄水田.

生育状況 : 石垣島には記録があるものの, その生育現況についての情報は極めて乏しく, 詳細は不明である.

備考 : 東南アジア地域では強害な水田雑草として知られている (Martin et al. 2017).

2. *Ischaemum ciliare* Retz. ヒメカモノハシ

生育地 : 海岸近くの草地.

生育状況 : 石垣島の海岸近くの岩場および放牧地で生育が確認された. 西表島では過去も含めて記録はない.

備考 : 環境省の RL で絶滅危惧IA 類に指定されている (環境省 2025).

3. *Ischaemum setaceum* Honda コハナカモノハシ

生育状況 : 尖閣諸島魚釣島に分布する (沖縄県 2018). また過去に石垣島で採取された標本が RYU に収蔵されているが, どのような環境に生育していたのかは不明である.

識別点 : ヒメカモノハシと共に無柄小穂の第一包穎の竜骨に翼があるが, 本種の方がより明瞭.

4. *Ischaemum aureum* (Hook. et Arn.) Hack. ハナカモノハシ

生育地 : 海岸の石灰岩上.

生育状況 : 放牧地を始めとする二次草地では確認されなかったが, 海岸の石灰岩上では両島とも普通に見られる.

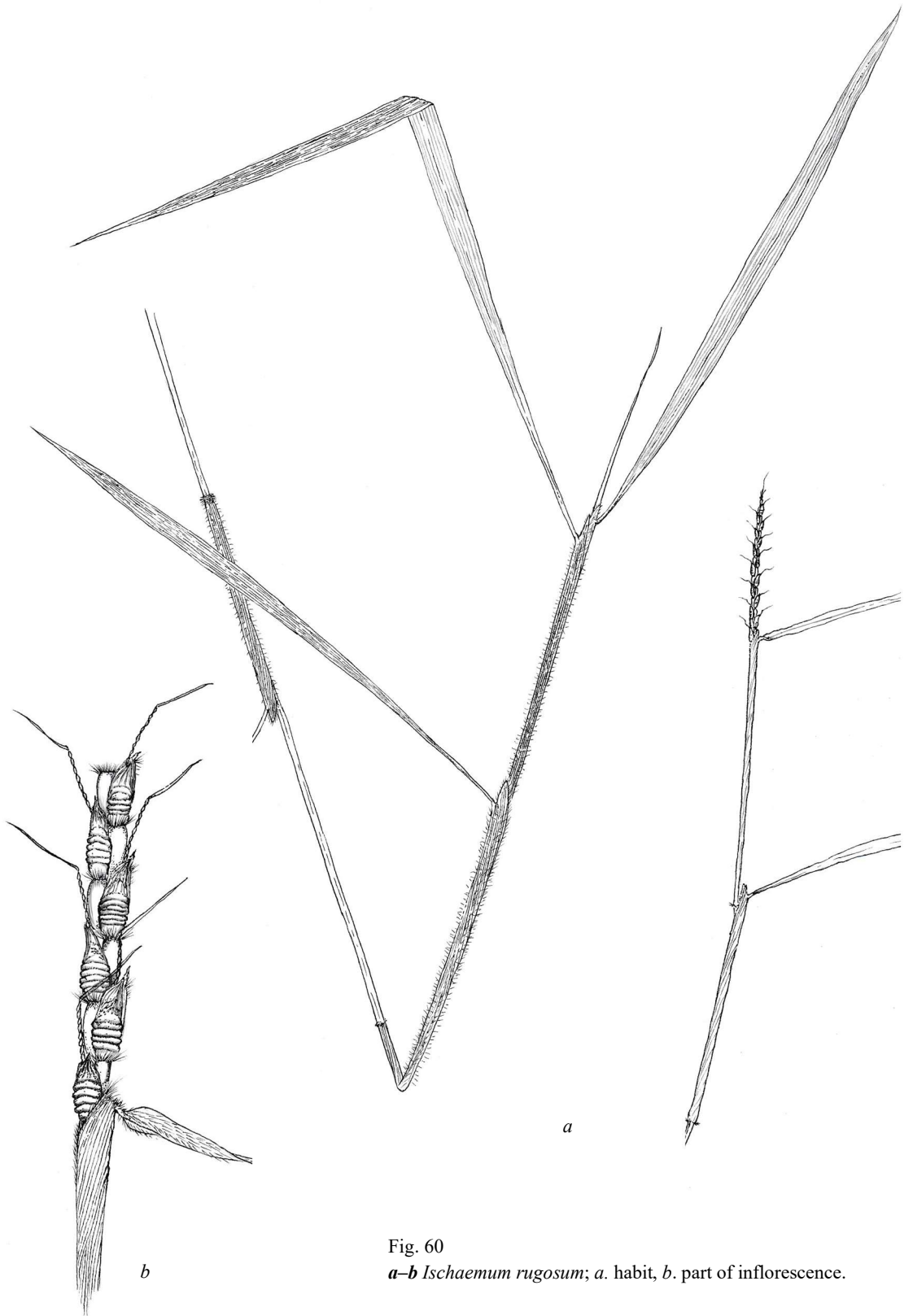


Fig. 60

*a-b Ischaemum rugosum*; *a*. habit, *b*. part of inflorescence.



Fig. 61  
*a-b Ischaemum ciliare*; *a*. habit, *b*. spikelets.



Fig. 62

**a–b** *Ischaemum setaceum*; **a**. habit, **b**. spikelet.

**c–f** *I. aureum*; **c**. habit, **d**. inflorescence, **e**. spikelets, **f**. sessile spikelet.

5. *Ischaemum aristatum* L. var. *aristatum* タイワンカモノハシ

生育地 : 放棄水田, 採草地.

生育状況 : 放棄水田では群生しているところもあり, 個体数は多い.

近縁種 : 変種カモノハシ var. *crassipes* は本土部に分布する.

識別点 : 本変種は第二包穎に短い芒をもつが, カモノハシは無芒.



Fig. 63 a-c *Ischaemum aristatum* var. *aristatum*; a. habit, b. spikelets, c. caryopsis.

6. *Ischaemum muticum* L. ヤエヤマカモノハシ

生育地 : 海浜草原, 海岸林の林床や林縁などの砂質地.

生育状況 : 両島とも多くはない. 西表島では海岸近くの放棄された放牧地で確認された.

識別点 : 葉に光沢をもつことで花序がなくても同定が容易である.



Fig. 64

*a-b* *Ischaemum muticum*; *a*. habit, *b*. sessile spikelet.

【45】 *Melinis* P.Beauv. ルビーガヤ属 Fig. 65

1. *Melinis repens* (Willd.) Zizka ルビーガヤ

生育地 : 土地造成などで裸地化した場所や, 貧栄養で乾燥した荒地, 路傍.

生育状況 : 両島で確認されたが, 個体数は多くない.

備考 : アフリカ大陸原産の帰化種.

【46】 *Microstegium* Nees アシボソ属, *Leptatherum* Nees ササガヤ属 Fig. 66

A. 葉は広線形, 総は節間も有毛, 雄蕊は3本 . . . . . 1. オオササガヤ  
*M. ciliatum*

A. 葉は広披針形, 総は節以外無毛, 雄蕊は2本 . . . . . 2. メンテンササガヤ  
*L. somae*

1. *Microstegium ciliatum* (Trin.) A.Camus オオササガヤ

生育地 : 林内のギャップ, 林縁.

生育状況 : 主な生育地は林内だが, 西表島の水田畦畔と採草地の林縁部において少数が確認された.

2. *Leptatherum somae* (Hayata) C.Hui Chen, Kuoh & Veldkamp メンテンササガヤ

生育状況 : 石垣島に記録されているが, おそらく森林生であり, 草地では確認されなかった.

近縁種 : ミヤマササガヤ *L. nudum* が西表島で記録されているが, 詳細は不明.

備考 : 本属は *Microstegium* にまとめられることもあるため, 本書では同じ検索表に含めた.



Fig. 65 a-b *Melinis repens*; a. habit, b. spikelet.



Fig. 66

*a-b* *Microstegium ciliatum*; *a*. habit, *b*. raceme.

*c-e* *Leptatherum somae*; *c*. habit, *d*. adaxial view of lamina, *e*. spikelet.

【47】 *Miscanthus* Anders. ススキ属 Figs. 67-68

A. 花序の主軸が総より長い . . . . . 1. トキワススキ  
*M. floridulus*

A. 花序の主軸が総より短い . . . . . 2. ハチジョウススキ  
*M. sinensis* var. *condensatus*

1. *Miscanthus floridulus* (Labill.) Warb. ex K.Schum. et Lauterb. トキワススキ

生育状況：石垣島で記録がある。当該地域ではハチジョウススキの中に、雑種由来と思われるトキワススキの形態に僅かに近い個体は散見されるが、本土部で見られるような典型的なものを発見するには至っていない。

備考：沖縄県 RL では絶滅危惧II類とされる（沖縄県 2018）。RYU に収蔵された西表島産のトキワススキとされる標本はハチジョウススキであった。

2. *Miscanthus sinensis* Andersson var. *condensatus* (Hack.) Makino ハチジョウススキ

生育地：林縁や路傍を含む草地。

生育状況：本土部と同様に、ごく普通に見られる優占種である。

識別点：基準変種ススキ var. *sinensis* に比べて大型でざらつきがないことで区別される。

備考：石垣島の一部の放牧地では葉が細くて硬く、著しくざらつく特異な型が見られる。

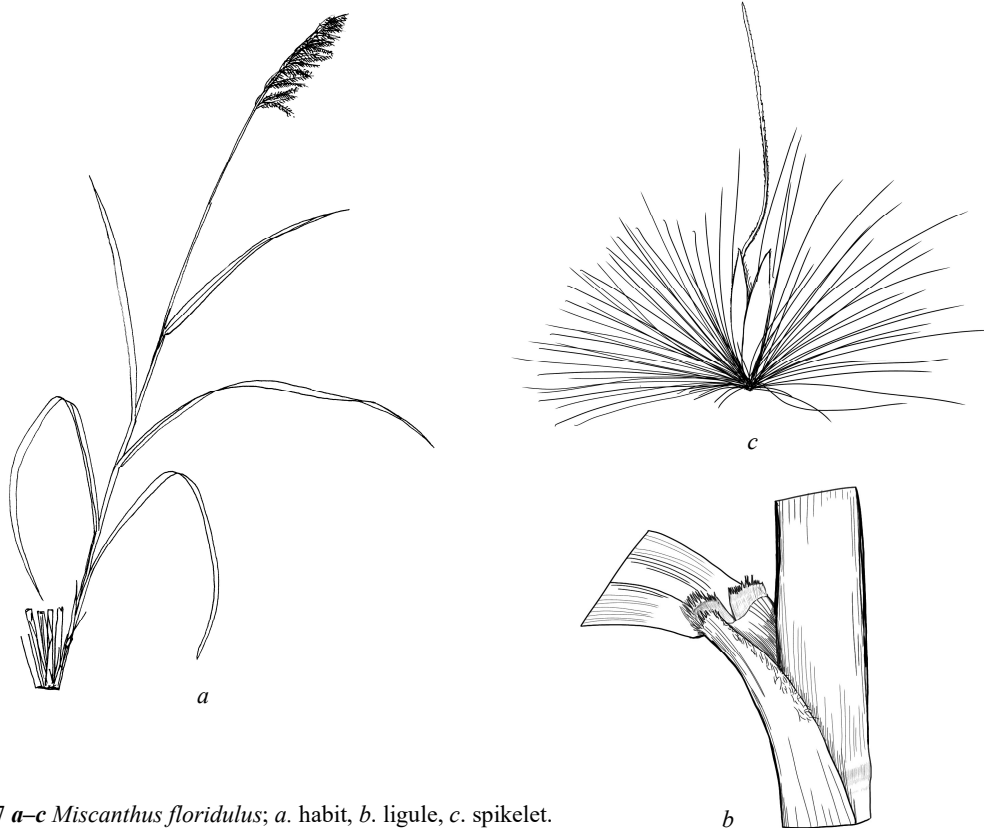


Fig. 67 a-c *Miscanthus floridulus*; a. habit, b. ligule, c. spikelet.



Fig. 68 a-c *Miscanthus sinensis* var. *condensatus*; a & b. habit, c. part of raceme.

【48】 *Mnesithea* Kunth ヒメウシノシッペイ属 Fig. 69

1. *Mnesithea laevis* (Retz.) Kunth ヒメウシノシッペイ

生育地 : 低地の原野に生える (沖縄県 2018).

生育状況 : 西表島で記録されているが、現状は不明 (沖縄県 2018).

備考 : 沖縄県 RL では情報不足 (DD), 環境省 RL では絶滅危惧IA 類に指定されている.



Fig. 69 *a-b* *Mnesithea laevis*; *a*. habit, *b*. spikelet.

【49】 *Moorochloa* Veldkamp ヒメスズメノヒエ属 Fig. 70

1. *Moorochloa eruciformis* (Sibth. et Sm.) Veldkamp ヒメスズメノヒエ

生育地 : 畑地周辺の路傍.

生育状況 : 石垣島の1ヶ所で確認された.

備考 : 旧熱帯地域原産の帰化種. 沖縄本島や大東島に帰化していることが知られている.

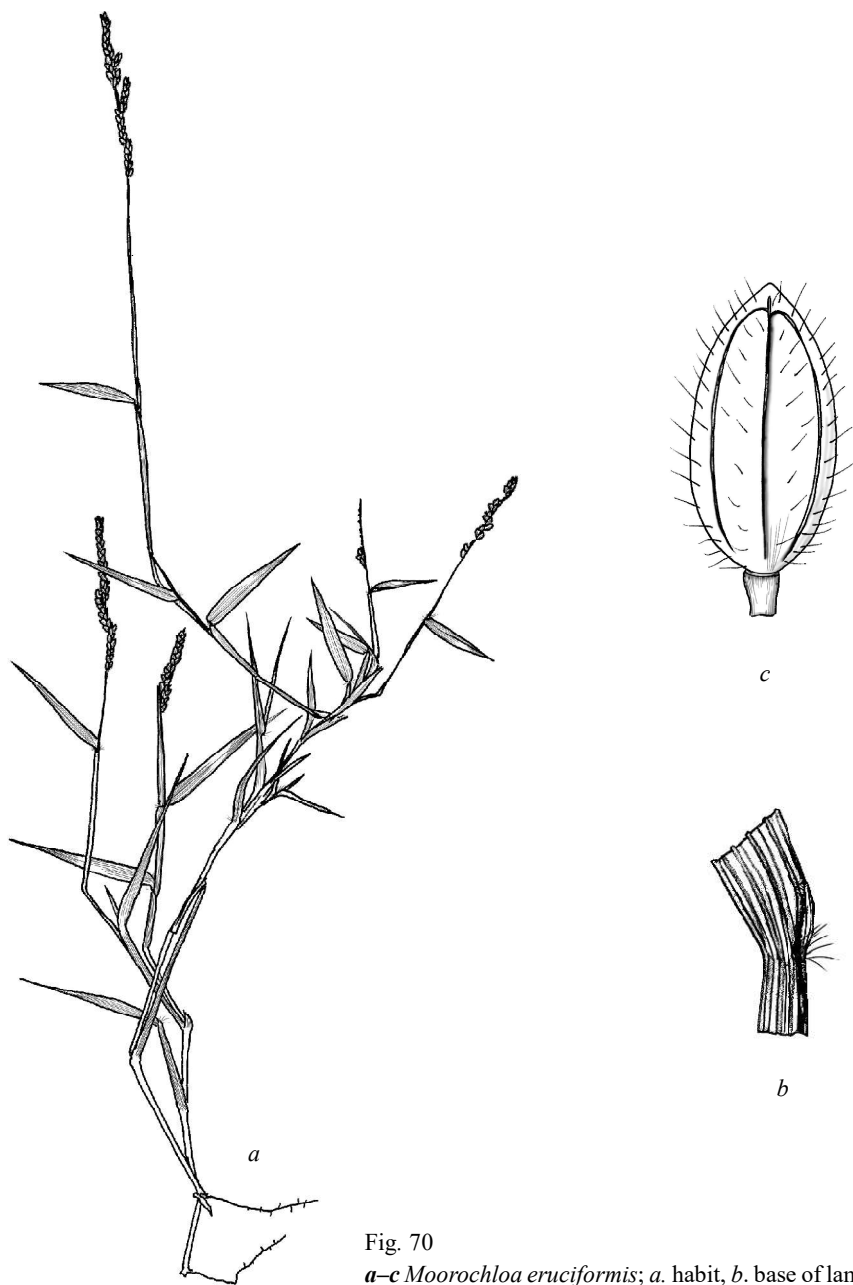


Fig. 70

a-c *Moorochloa eruciformis*; a. habit, b. base of lamina, c. spikelet.

【50】 *Oplismenus* P.Beauv. チヂミザサ属 Fig. 71

- A. 花序枝は伸長する
- B. 護穎に芒がある. 葉は幅 20–35mm . . . . . 1. オオバチヂミザサ  
*O. compositus* var. *patens*
- B. 護穎に芒はない. 葉は幅 5–20mm
- C. 花序の主軸は無毛, 小穂はまばらにつく . . . . . 2. エダウチチヂミザサ  
*O. compositus* var. *compositus*
- C. 花序の主軸は有毛
- D. 小穂はまばらにつく . . . . . 3. アラゲチヂミザサ  
*O. compositus* var. *owatarii*
- D. 小穂は密につく . . . . . 4. ダイトンチヂミザサ  
*O. aemulus*
- A. 花序枝は伸長しない . . . . . 5. ケチヂミザサ  
*O. undulatifolius*

1. *Oplismenus compositus* (L.) P.Beauv. var. *patens* (Honda) Ohwi オオバチヂミザサ

生育地 : 林内.

生育状況 : 両島の常緑樹林下ではササクサに並んでよく見られる種類である.

2. *Oplismenus compositus* var. *compositus* (L.) P.Beauv. エダウチチヂミザサ

生育地 : 林内, 林縁, 放牧地.

生育状況 : 放牧地の木陰や林縁部を中心によく確認された. オオバチヂミザサに比べて明るい環境を好むようである.

3. *Oplismenus compositus* var. *owatarii* (Honda) Ohwi アラゲチヂミザサ

生育状況 : 八重山諸島に分布するという情報もあるが, 詳細は不明.

備考 : エダウチチヂミザサの有毛型と考えられる.

4. *Oplismenus aemulus* (R.Br.) Roem. et Schult. ダイトンチヂミザサ

生育状況 : 石垣島に分布するという情報があるが, 詳細は不明.

備考 : トカラ列島や奄美では比較的よく記録されている種類である. POWO (2026) では *O. hirtellus* (L.) P.Beauv. のシノニムにまとめられている.

5. *Oplismenus undulatifolius* (Ard.) Roem. et Schult. var. *undulatifolius* ケチヂミザサ

生育状況 : 両島では本変種に加えてホソバチヂミザサ var. *imbecillis*, コチヂミザサ var. *japonicus* も記録されているが, その実態は不明.

備考 : 当該地域にどの種 (または変種) が分布しているのか, あるいはしていないのかについては, 包括的な植物相調査と並行して過去に採取された標本を含めて整理, 再検討する必要がある.



Fig. 71 **a** *Oplismenus compositus* var. *patens*; **a**. habit. **b–c** *O. compositus* var. *compositus*; **b**. habit, **c**. spikelet. **d** *O. aemulus*; **d**. adaxial view of lamina. **e** *O. undulatifolius* var. *undulatifolius*; **e**. leaf sheath. **f** *O. undulatifolius* var. *imbecillis*; **f**. spikelet.

【51】 *Panicum* L. キビ属 Figs. 72–75

- A. 根茎は短く株立ちまたは叢生する
- B. 多年草, 小穂は 3–4mm . . . . . 1. ギネアキビ  
*P. maximum*
- B. 一年草, 小穂は約 2.5mm
- C. 稈は太く, 花序の枝は斜上, 上半分に小穂がつく . . . . . 2. オオクサキビ  
*P. dichotomiflorum*
- C. 稈は細く, 花序の枝は開出, 小穂はまばらに垂れてつく . . . . . 3. ヌカキビ  
*P. bisulcatum*
- A. 根茎は長く匍匐する . . . . . 4. ハイキビ  
*P. repens*

1. *Panicum maximum* Jacq. ギネアキビ

生育地 : 放牧地, 路傍.

生育状況 : 両島の草地環境で普通に見られるが, 確認地点数は西表島に比べて石垣島で多い. ギニアグラスの名前で牧草として流通し, 放牧地で広く播種されている当該地域の代表的な種類である.

備考 : アフリカ大陸原産. 流通型が複数あり, 野生化している個体も含めてきわめて多型. 播種されているものの中には, 茎が這って半つる状になるものが含まれている. これをギネアキビに含めてよいかは検討を要す. また本種は属を *Panicum* ではなく *Megathyrsus* とする見解もある. その場合の学名は *Megathyrsus maximus* (Jacq.) B.K.Simon & S.W.L.Jacobs となる.

2. *Panicum dichotomiflorum* Michx. オオクサキビ

生育地 : 水田畦畔.

生育状況 : 西表島でも 1970–80 年代に採取された標本があるほか, 石垣島の数地点でわずかに確認された.

識別点 : ヌカキビは稈がオオクサキビに比べて細く, 小穂は花序枝先端に垂れてまばらにつく.

備考 : アメリカ原産の帰化種.

3. *Panicum bisulcatum* Thunb. ヌカキビ

生育地 : 畑地.

生育状況 : 石垣島のパイナップル畑周辺の 1ヶ所で採取された.

備考 : 本土部ではごく普通の種類であるが, 当該地域では稀. 著者らが採取したものもおそらく一時的に出現したもので, 定着はしないであろうと予想される.

4. *Panicum repens* L. ハイキビ

生育地 : 放牧地や水田畦畔, 放棄水田を含むやや湿性の草地, 海浜草原.

生育状況 : 両島の主に放牧地, 水田畦畔で広く確認された.

備考 : ささまざまな湿性の草地に出現し優占する当該地域の代表的な種類である.



Fig. 72 *a-d* *Panicum maximum*; *a*&*b*. habit, *c*. spikelet showing lower glume, *d*. spikelet.



Fig. 73 *a-b* *Panicum dichotomiflorum*; *a*. habit, *b*. spikelet showing lower glume.



Fig. 74 *a-d* *Panicum bisulcatum*; *a*, habit, *b*, abaxial view of spikelet, *c*, adaxial view of spikelet, *d*, inflorescence.



Fig. 75 *a-b* *Panicum repens*; *a*. habit, *b*. spikelet showing lower glume.

【52】 *Paspalum* L. スズメノヒエ属 Figs. 76-81

- A. 稈は長く横に這う
- B. 根茎は太く、古い葉鞘に包まれる・・・・・・・・・・1. アメリカスズメノヒエ  
*P. notatum*
- B. 根茎は細く、古い葉鞘に包まれることはない
- C. 小穂は卵状円形で長さ 1.5-2mm・・・・・・・・・・2. オガサワラスズメノヒエ  
*P. conjugatum*
- C. 小穂は楕円状卵形で長さ 3mm 以上
- D. 小穂は扁平で隆起せず、無毛・・・・・・・・・・3. サワスズメノヒエ  
*P. vaginatum*
- D. 小穂は向軸面側に隆起し、少なくとも小穂の柄は有毛・・・・・・・・4. キシュウスズメノヒエ  
*P. distichum*
- A. 根茎は短く稈は叢生する
- B. 小穂は鋭頭で有毛・・・・・・・・・・5. タチスズメノヒエ  
*P. urvillei*
- B. 小穂は鈍頭で無毛
- C. 小穂は3-4列をなして並ぶ・・・・・・・・・・6. ナガバズメノヒエ  
*P. longifolium*
- C. 小穂は2列をなして並ぶ
- D. 小穂は長さ 2-3mm, 護穎表面は平滑
- E. 葉鞘は密に毛がある・・・・・・・・・・7. ケマルミスズメノヒエ  
*P. scrobiculatum* ssp. *orbiculare* var. *velutinum*
- E. 葉鞘は無毛または僅かに毛がある.
- F. 小穂は長さ 2-2.5mm, 護穎は 3-5 脈・・・・・・・・・・8. スズメノコビエ  
*P. scrobiculatum* ssp. *orbiculare* var. *orbiculare*
- F. 小穂は長さ 2.5-3mm, 護穎は 5-7 脈・・・・・・・・・・9. マルミスズメノヒエ  
*P. scrobiculatum* ssp. *scrobiculatum*
- D. 小穂は長さ 2.8-3.5mm, 護穎表面にしわが生じる・・・・・・・・10. イリオモテスズメノヒエ  
*P. scrobiculatum* ssp. *orbiculare* var. *iriomotense*

1. *Paspalum notatum* Flügge アメリカスズメノヒエ

生育地 : 放牧地.

生育状況 : 両島の放牧地の数か所で確認された.

識別点 : 総は通常 Y 状に 2 本で、葯は黒色である. 古い葉が瓦重ね状になり、非常に豪壮になるため引き抜くのが困難なことも特徴のひとつ.

備考 : 南アメリカ原産の帰化種.

2. *Paspalum conjugatum* Bergius オガサワラスズメノヒエ

生育地 : 自然度の高い二次草地から造成跡地を含めたあらゆる草地環境.

生育状況 : 貧栄養な乾生草地から湿生草地まで広く侵入し、おう盛に生育する.

識別点 : 総は通常 Y 状に 2 本で、しばしば少し離れて 3 本目が出る. 小穂がほぼ円形で小さい.

備考 : アメリカ原産で、世界中の熱帯域に帰化している. 当該地域でも在来草地生態系への影響が懸念される.



Fig. 76

*a-b Paspalum notatum*; *a*. habit, *b*. abaxial view of spikelet. *c-d P. conjugatum*; *c*. habit, *d*. part of raceme.

3. *Paspalum vaginatum* Sw. サワスズメノヒエ

生育地 : 海浜草原, 塩性湿地, 海岸近くの放牧地や水田畦畔.

生育状況 : 両島で確認されたが稀であった.

識別点 : 次種キシウスズメノヒエに極めてよく似ている. 本種の小穂は熟しても扁平で長さはキシウスズメノヒエに比べてやや長い. 小穂や花軸, 小穂の柄は無毛.



Fig. 77 a-d *Paspalum vaginatum*; a. habit, b. adaxial view of spikelet, c. floret, d. part of leaf sheath and lamina.

4. *Paspalum distichum* L. キシュウスズメノヒエ

生育地 : 水田畦畔, 放棄水田, 放牧地内の泥地.

生育状況 : 両島における確認地点数は多くはないが, 一面に優占する所もある.

識別点 : サワスズメノヒエとは小穂が有毛でることによって識別されるが, 毛の多寡は少なくとも両島に産するものの中では変異があり, 全く無毛のものも僅かに存在した. 小穂が全く無毛の個体であっても少なくとも小穂の柄は有毛であったため, その点を検索表に含めた.

備考 : 南アメリカ原産の帰化種.

5. *Paspalum urvillei* Steud. タチスズメノヒエ

生育地 : 放牧地, 水田畦畔, 路傍.

生育状況 : 両島の草地ではごく普通に見られる.

識別点 : 葉鞘に鋭い毛をもつ. 稈の基部に紫色のまだら模様があることが多い.

備考 : 南アメリカ原産の帰化種. 標本採取の際に引き抜くのが大変な種類である.

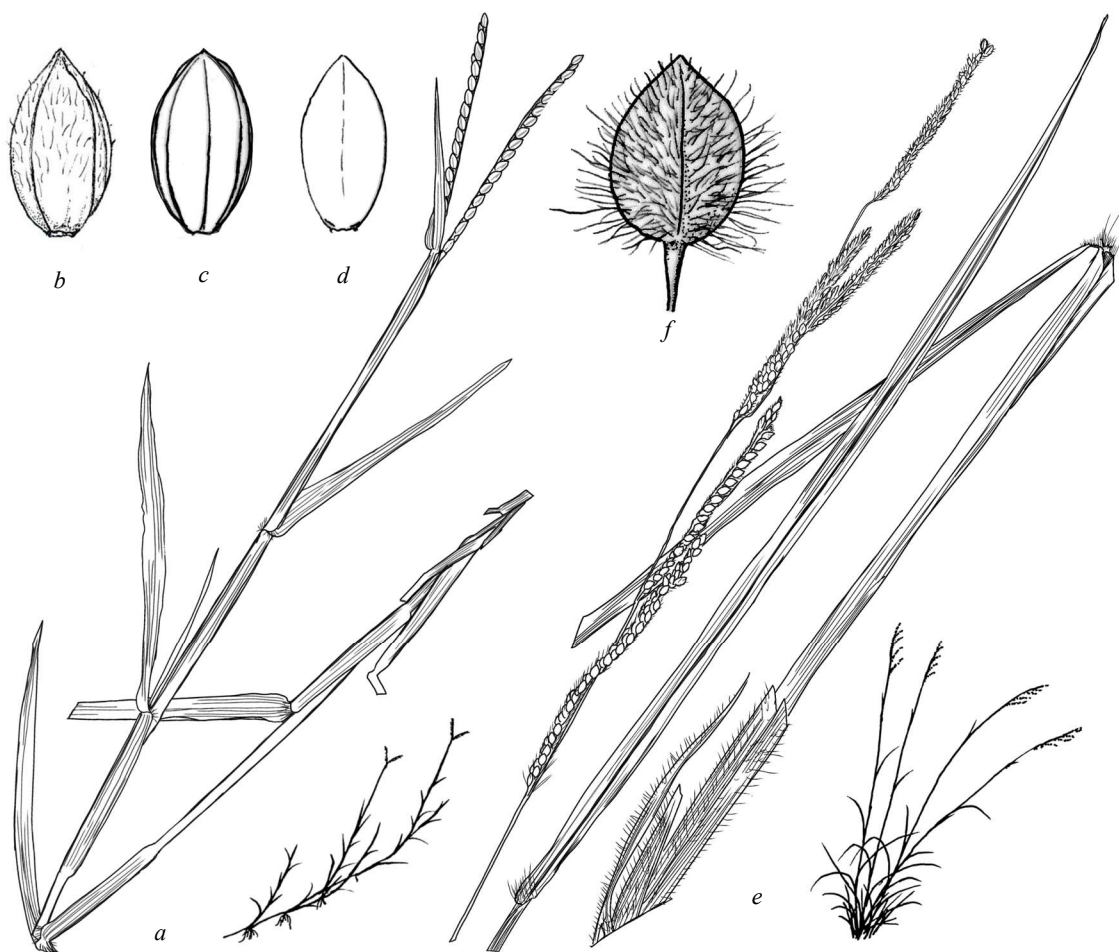


Fig. 78 a-d *Paspalum distichum*; a. habit, b. adaxial view of spikelet, c. abaxial view of spikelet, d. floret. e-f *P. urvillei*; e. habit, f. abaxial view of spikelet.

6. *Paspalum longifolium* Roxb. ナガバスズメノヒエ

生育地 : 放牧地.

生育状況 : 石垣島と西表島で確認されたが、それぞれ 1 か所ずつと少なく、当該地域における分布の詳細については不明である.

識別点 : スズメノコヒエと外見はほぼ同様であるが、小穂の列数が 3-4 列と多い.

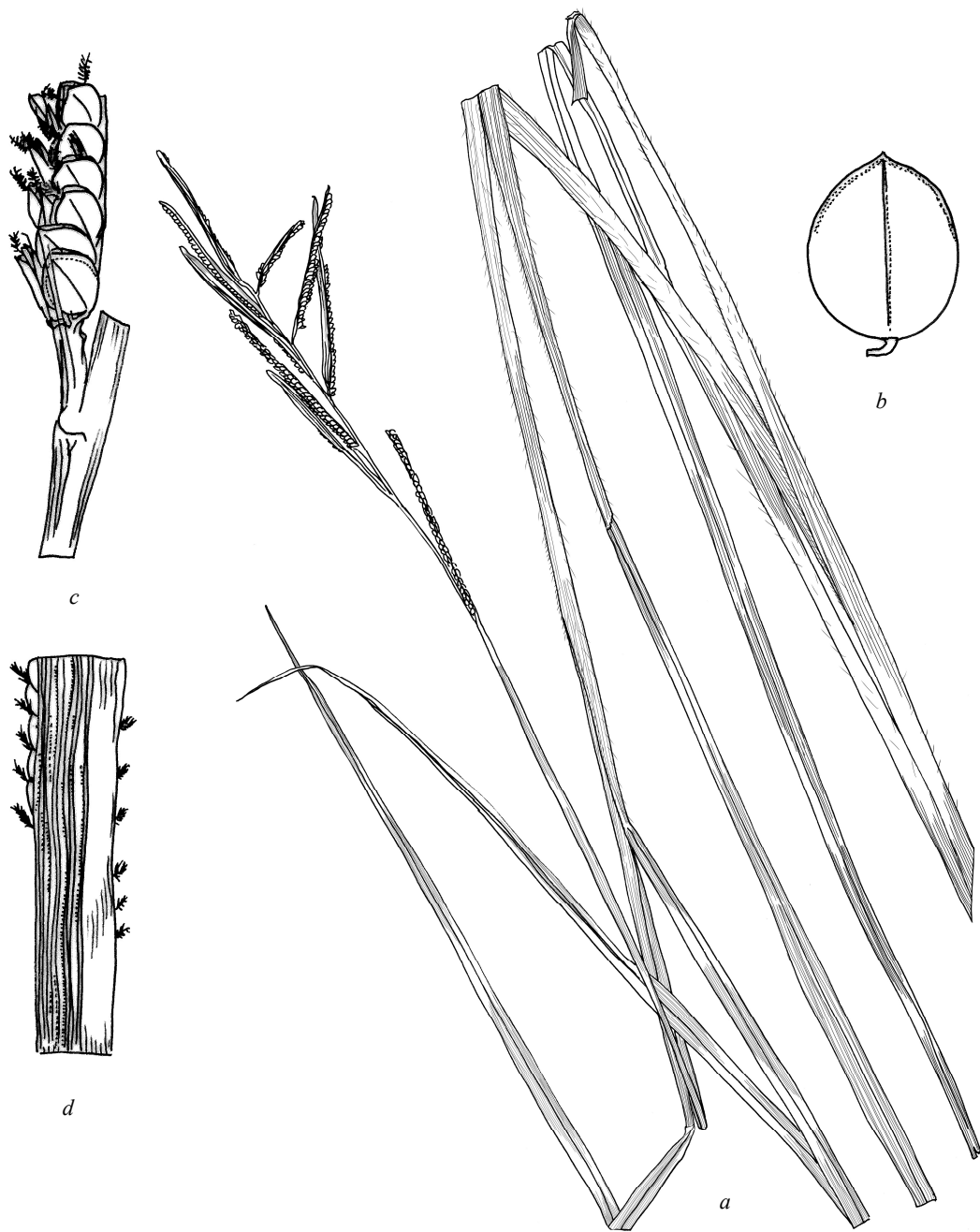


Fig. 79

*a-d Paspalum longifolium*; *a*. habit, *b*. abaxial view of spikelet, *c*. abaxial view of rachis, *d*. adaxial view of rachis.

7. *Paspalum scrobiculatum* ssp. *orbiculare* (G.Forst.) Hack. var. *velutinum* Hack.

ケマルミスズメノヒエ

生育地 : 放牧地.

生育状況 : 主に石垣島の低茎の放牧地で確認された.

備考 : 葉鞘の毛の量には個体差があり, スズメノコビエと連続的であると考えられる.

8. *Paspalum scrobiculatum* ssp. *orbiculare* var. *orbiculare* (G.Forst.) Hack. スズメノコビエ

生育地 : 水田畦畔や放牧地を含む多くの二次草地.

生育状況 : 両島の二次草地に広く見られたが, 路傍など荒れた草地では少ない.

近縁種 : マルミスズメノヒエ *P. scrobiculatum* ssp. *scrobiculatum* (検索表 9) が梶田ほか (2022) により西表島から報告されている.

識別点 : ナガバスズメノヒエ, ケマルミスズメノヒエとは全草ほぼ無毛で小穂が 2 列に並ぶことで識別できる. マルミスズメノヒエは小穂が僅かに大きいとされる.

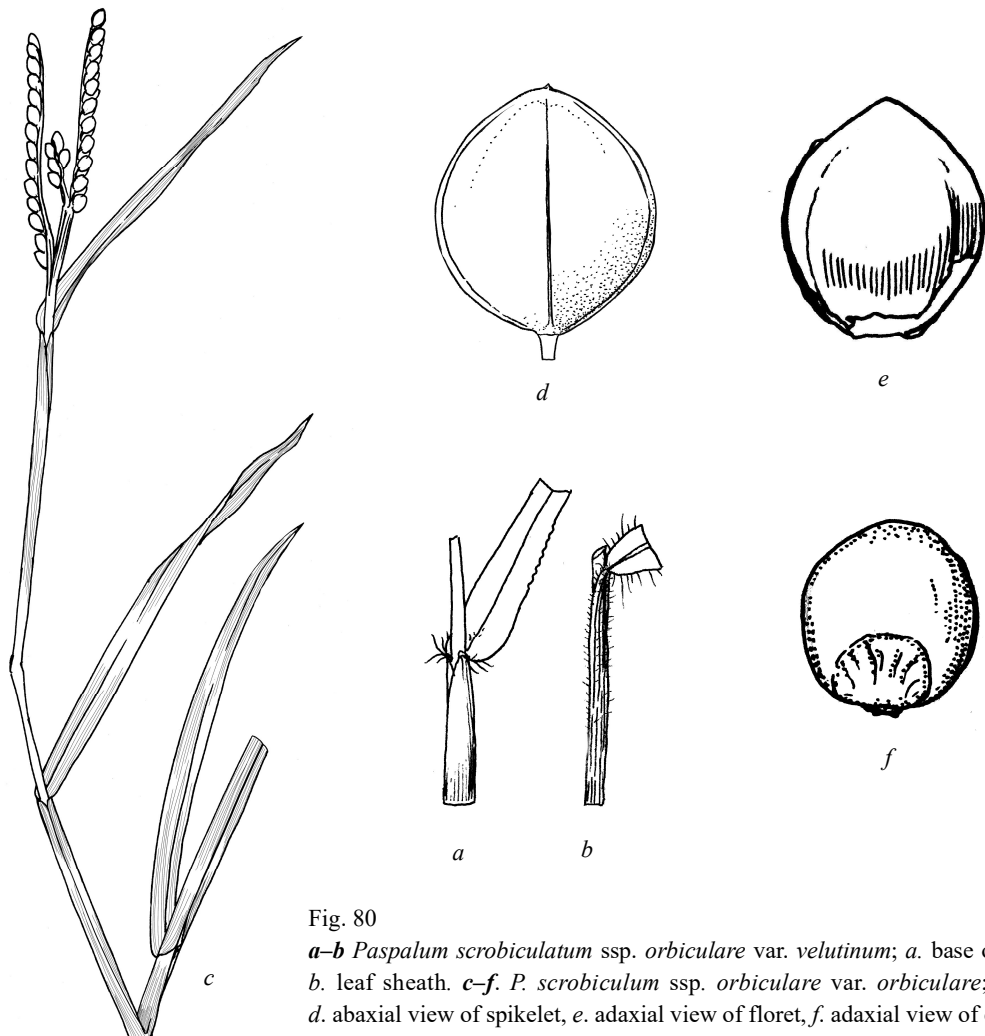


Fig. 80

**a–b** *Paspalum scrobiculatum* ssp. *orbiculare* var. *velutinum*; **a**, base of lamina, **b**, leaf sheath. **c–f**. *P. scrobiculatum* ssp. *orbiculare* var. *orbiculare*; **c**, habit, **d**, abaxial view of spikelet, **e**, adaxial view of floret, **f**, adaxial view of caryopsis.

10. *Paspalum scrobiculatum* ssp. *orbiculare* var. *iriomotense* Ibaragi, Yokota & Akai

イリオモテスズメノヒエ

生育地 : 放棄水田.

生育状況 : 西表島でのみ確認された.

識別点 : 熟しても花序の枝が大きく開かないこと, 小穂のサイズが大きいこと, 護穎表面にしわがあることなどからスズメノコビエと区別できる.

備考 : Ibaragi et al. (2023) によって記載された西表島の固有変種である.

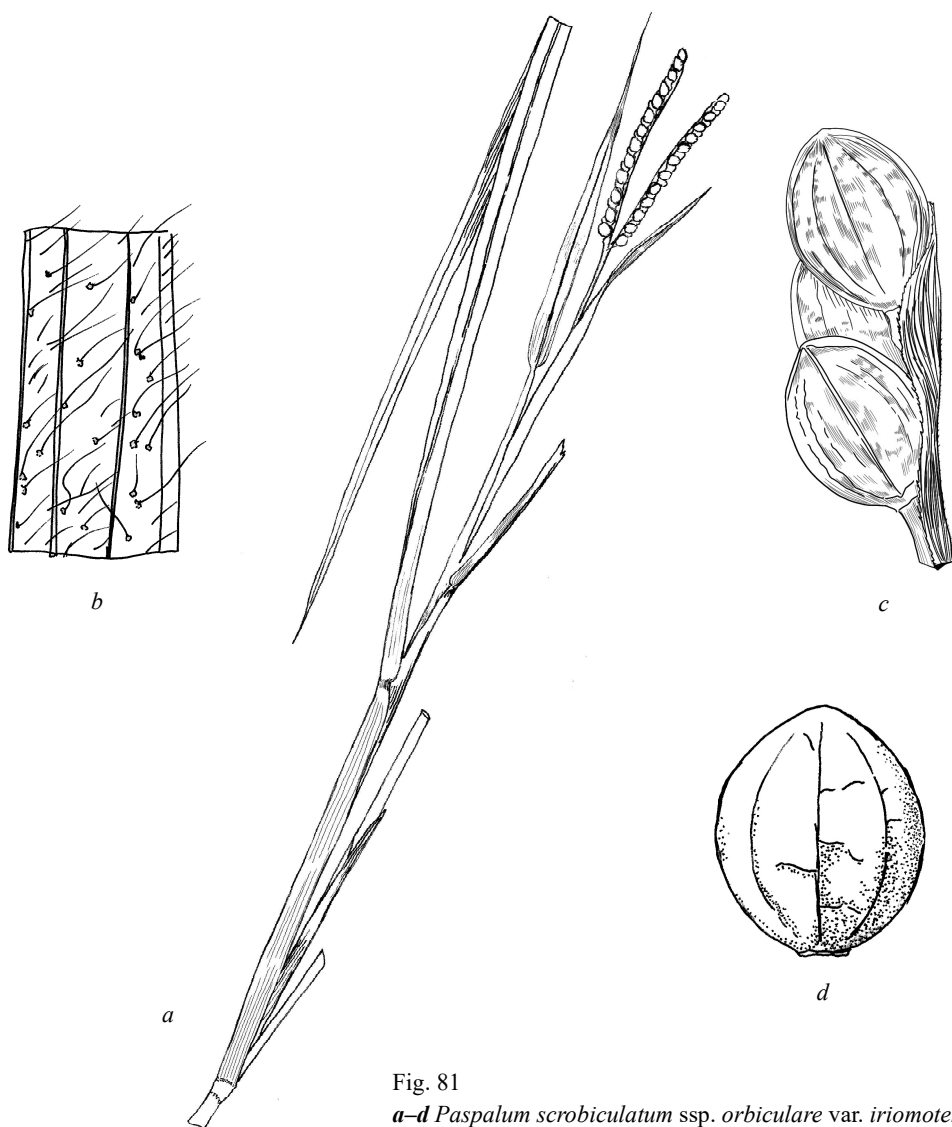


Fig. 81

*a-d* *Paspalum scrobiculatum* ssp. *orbiculare* var. *iriomotense*;  
*a*. habit, *b*. part of adaxial view of lamina, *c*. part of rachis,  
*d*. abaxial view of spikelet.

【53】 *Pennisetum* Rich. チカラシバ属 Figs. 82-83

- A. 高さ 2m 未満, 剛毛は羽毛状で縮れた毛が密生 . . . . . 1. マキバチカラシバ  
*P. polystachion* ssp. *setosum*
- A. 高さ 2m を越え, 剛毛はわずかに羽毛状に毛がある . . . . . 2. ナピアグラス  
*P. purpureum*

1. *Pennisetum polystachion* (L.) Schult. ssp. *setosum* (Sw.) Brunken マキバチカラシバ

生育地 : 畑地周辺, 採草地, 路傍.

生育状況 : 両島で確認されたが個体数は少なかった.

備考 : 旧熱帯地域原産の帰化種.

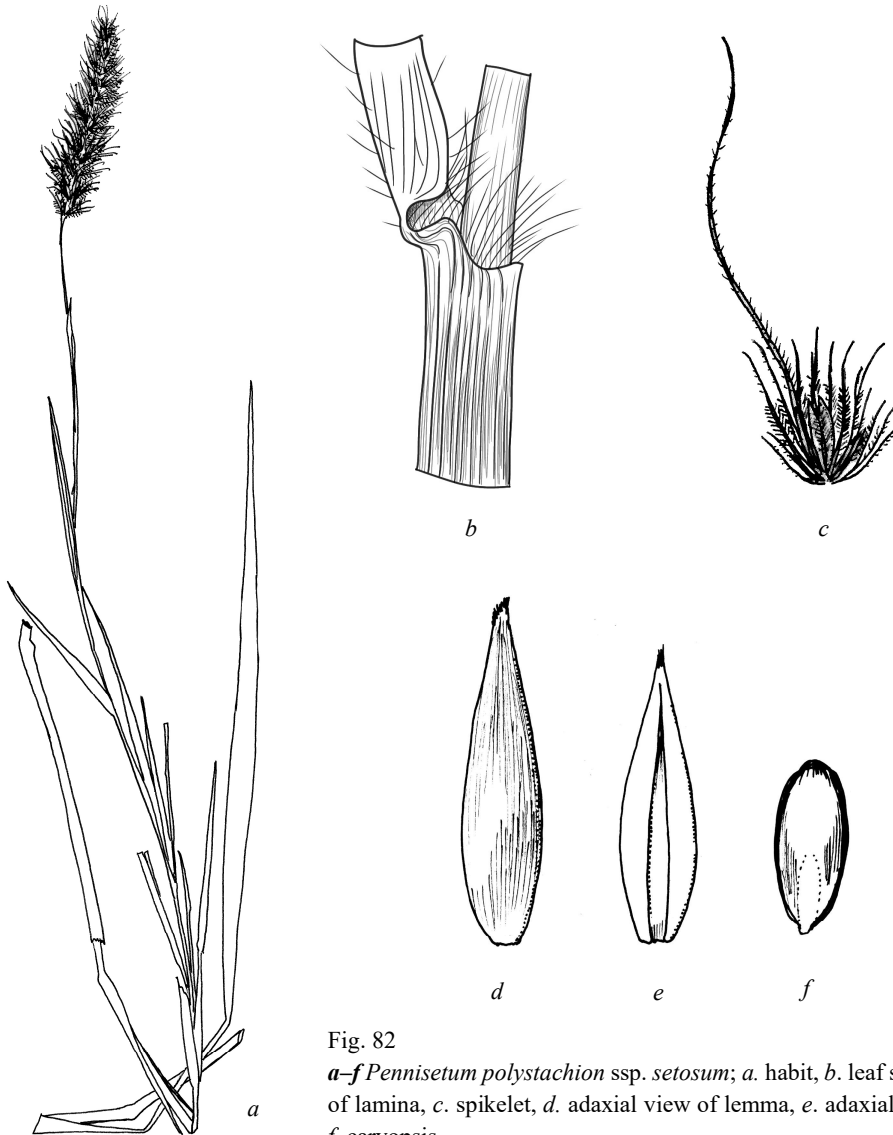


Fig. 82  
*a-f* *Pennisetum polystachion* ssp. *setosum*; *a*. habit, *b*. leaf sheath and base of lamina, *c*. spikelet, *d*. adaxial view of lemma, *e*. adaxial view of palea, *f*. caryopsis.

2. *Pennisetum purpureum* Schumach. ナピアグラス

生育地 : 畑地周辺の路傍, 採草地の辺縁, 耕作放棄地.

生育状況 : 管理放棄された草地では一面に優占しているところもある.

備考 : アフリカ大陸原産の帰化種.

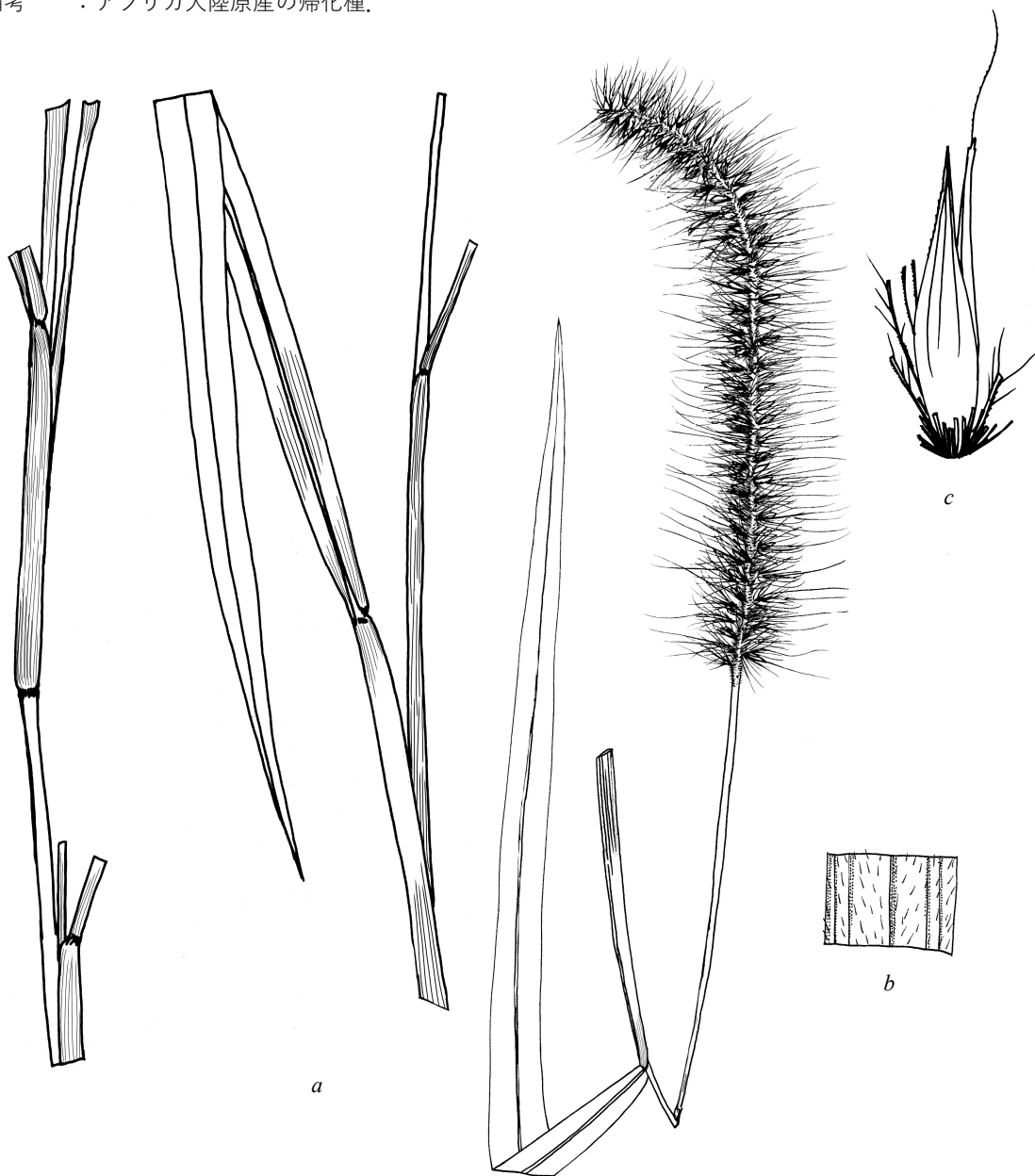


Fig. 83 a-c *Pennisetum purpureum*; a. part of shoot, b. adaxial view of lamina, c. spikelet.

【54】 *Phacelurus* Griseb. アイアシ属 Fig. 84

1. *Phacelurus latifolius* (Steud.) Ohwi アイアシ

生育状況：鳩間島に記録があり、両島にも分布している可能性がある。

備考：沖縄県のRLでは絶滅危惧IA類に区分されている（沖縄県 2018）。



Fig. 84 *a-d* *Phacelurus latifolius*; *a*. habit, *b*. spikelets, *c*. pedicellate spikelet, *d*. sessile spikelet.

【55】 *Pogonatherum* P.Beauv. イタチガヤ属 Fig. 85

1. *Pogonatherum crinitum* (Thunb.) Kunth イタチガヤ

生育地 : 放牧地や採草地内の切り崩しや水路の土壁, 土手, 山地の溪流沿いや林道法面.

生育状況 : 両島とも確認された. ミズスギやホラシノブなどと混生していることが多い.

【56】 *Rottboellia* L.f. ツノアイアシ属 Fig. 85

1. *Rottboellia cochinchinensis* (Lour.) Clayton ツノアイアシ

生育地 : 水田畦畔, 畑地周辺.

生育状況 : 除草剤を頻繁につかう水田周辺や畑地周辺でよく確認され, 所によっては群生する. 石垣島には特に多いが, 西表島では比較して少ない.

備考 : 旧熱帯地域原産の帰化種. 引き抜く時に鋭利な葉身や葉鞘の硬い毛で怪我をしやすい.



Fig. 85 *a-b* *Pogonatherum crinitum*; *a*. habit, *b*. spikelet, part of awn removed. *c-e* *Rottboellia cochinchinensis*; *c*. habit, *d*. leaf sheath *e*. part of raceme.

【57】 *Saccharum* L. ワセオバナ属 Fig. 86

1. *Saccharum spontaneum* L. var. *spontaneum* ナンゴクワセオバナ

生育地 : 水田や畑地周辺.

生育状況 : 西表島の水田や放牧地の境界部の草地で確認された.

近縁種 : 本土部には変種ワセオバナ var. *arenicola* が分布する.

識別点 : ワセオバナとは葉鞘口が無毛で, 葉舌が短いことで区別される.

備考 : 大型のイネ科で特に花序があると大変よく目立つ. 石垣島では過去に採取された標本は複数ある一方で, 著者らの調査では全く確認されなかった. このことをふまえると, 土地改変など就農形態の変化に伴い急速に個体数を減らしている可能性が考えられる.

コラム：落穂ひろい⑧ 沖縄本島のヨシススキ

ヨシススキ *Tripidium (Erianthus) arundinaceum*は東南アジアの熱帯域を原産とし, 本州~九州の暖地に帰化している最大高4メートル程にもなる大型イネである. 九州以北の暖地では近年分布が拡大しているようで, 高速道路を走行している時など, 車窓から立派な個体をしばしば目にするようになった. 一方で, 沖縄本島では昔から分布すること知られており, これを帰化種とするか逸出とするかは意見が分かれているが(大井1942, 植村ほか2010), 決着はついていないようである.

著者らも当プロジェクトの過程で沖縄本島を訪れた際, 車で走行中に本種を発見し, 採取する機会に恵まれた. しかしながら, その個体は花序の幅が広く, また葉が稈の上方までついており, 当初ワセオバナかと思誤ったほど, 本土部でよく見られるヨシススキの外見とはかなり異なる印象を受けた. 沖縄本島ではそこまで多くない? ようで, 当該個体しか採取することができなかったため, その特徴が個体特有のものなのか, あるいは沖縄本島で普遍的なものなのかは定かではないが, 在来・帰化の判断は安易にせず慎重に検討したほうがよいとも考えられた.



Y14289 (沖縄本島8月)



Fig. 86 *a-b* *Saccharum spontaneum* var. *spontaneum*; *a*. habit, *b*. spikelet, some hairs removed.

【58】 *Sacciolepis* Nash ノメリグサ属 Fig. 87

1. *Sacciolepis spicata* (L.) Honda ex Masam. var. *spicata* ハイヌメリ

生育地 : 水田畦畔などの湿性または貧栄養の低茎草地.

生育状況 : 両島とも普通に確認された.

近縁種 : 大型になる変種ヌメリグサ var. *oryzeturum* が西表島で採取された記録があるが, 中間型があり, 区別が難しい場合もある.

識別点 : ハイヌメリでは草丈が 40cm 未満で花序は 6cm 未満, 花序の色は淡緑色. ノメリグサでは稈が叢生して草丈 30–60cm, 花序がしばしば暗紫褐色をおび, 長さは 3–12cm.

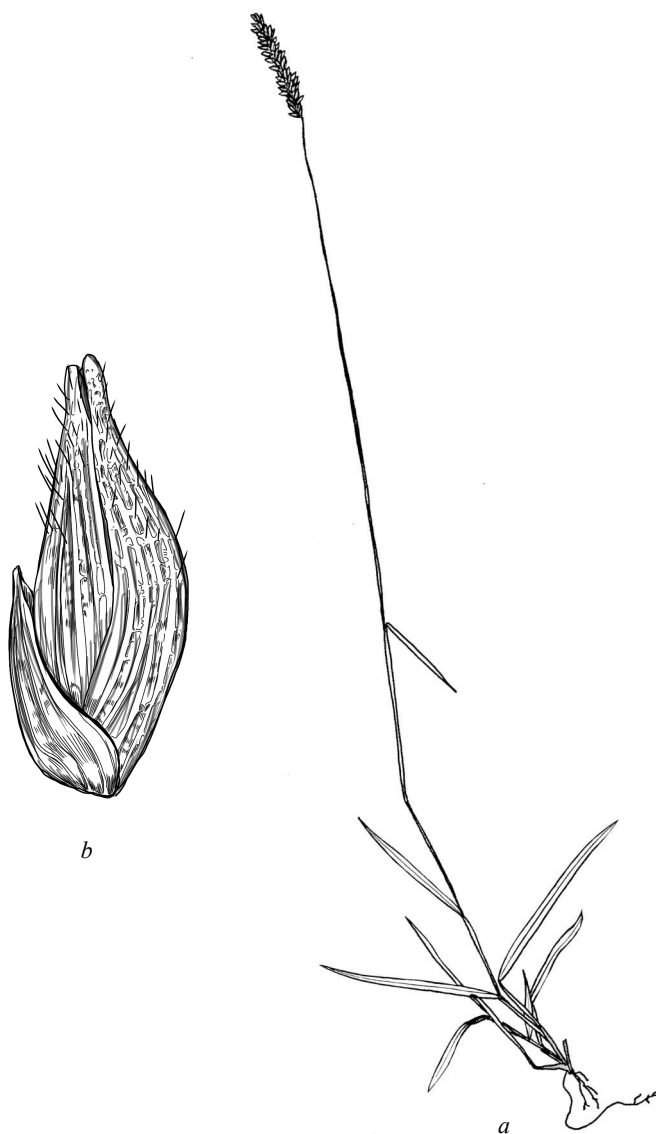


Fig. 87 a–b *Sacciolepis spicata* var. *spicata*; a. habit, b. spikelet.

【59】 *Schizachyrium* Nees ウシクサ属 Fig. 88

1. *Schizachyrium brevifolium* (Sw.) Nees ex Büse ウシクサ

生育地 : 放牧地, 道路法面など貧栄養な草地.

生育状況 : 両島で記録があるが, 石垣島のみで確認された. 生育地点数は少なく, 危機的な状況であると考えられる.



Fig. 88 a–c *Schizachyrium brevifolium*; a. habit, b. shoot, c. spikelet.

【60】 *Setaria* P.Beauv. アワ属 Figs. 89-92

- A. 花序は円錐状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1. ササキビ  
*S. palmifolia*
- A. 花序は円柱状  
B. 多年草で根茎がある  
C. 稈の高さは2m程度、花序は約35cm、花序枝当たり小穂は1-4個つく  
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2. アフリカキンエノコロ  
*S. sphacelata*
- C. 稈の高さは高くても1m程度、花序は10cm以下、花序枝当たり小穂は1個  
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3. フシネキンエノコロ  
*S. parviflora*
- B. 一年草で根茎は細く、古い葉鞘に包まれることはない  
C. 小穂の柄から出る剛毛 (bristle) は淡緑色  
D. 剛毛の刺は先端方向に向く  
E. 稈は直立、花序は長さ3-6cm・・・・・・・・・・・・・・・・4. エノコログサ  
*S. viridis*
- E. 稈は倒伏して広がる、花序は長さ2-4cm・・・・・・・・・・・・・・・・5. ハマエノコロ  
*S. viridis* var. *pachystachys*
- D. 剛毛の刺は基部方向に向く・・・・・・・・・・・・・・・・5. ザラツキエノコロ  
*S. verticillata*
- C. 小穂の柄から出る剛毛 (bristle) は黄褐色  
D. 小穂は長さ約3mm・・・・・・・・・・・・・・・・6. キンエノコロ  
*S. pumila*
- D. 小穂は長さ2.8mm以下・・・・・・・・・・・・・・・・7. コツブキンエノコロ  
*S. pallide-fusca*

1. *Setaria palmifolia* (J.Koenig) Stapf ササキビ

生育状況：両島で記録がある。

近縁種：沖縄本島以北には葉の幅が3cm未滿と狭いコササキビ *S. plicata* が分布している。

2. *Setaria sphacelata* (Schumach.) Stapf et C.E.Hubb. ex M.B.Moss アフリカキンエノコロ

生育地：採草地、放牧地。

生育状況：両島において採草地を中心に確認された。

識別点：稈の基部が扁平になるのも特徴のひとつである。

備考：セタリアグラスの名前で流通しているアフリカ大陸原産の牧草である。

3. *Setaria parviflora* (Poir.) Kerguelen フシネキンエノコロ

生育地：放牧地、採草地。

生育状況：両島において放牧地を中心に確認された。

識別点：多年生であることがコツブキンエノコロとの違いであるが、その判断は難しい。

備考：アメリカ大陸原産の帰化種。



Fig. 89 *a-c* *Setaria palmifolia*; *a*. habit, *b*. abaxial view of spikelet, *c*. lateral view of spikelet.



Fig. 90

*a-b* *Setaria sphacelata*; *a*. habit, *b*. spikelet. *c-f* *S. parviflora*; *c*. habit, *d*. basal part of culm, *e*. abaxial view of spikelet, *f*. adaxial view of spikelet.

#### 4. *Setaria viridis* (L.) P.Beauv. エノコログサ

生育地 : 放牧地, 農地周辺, 路傍.

生育状況 : 本土部では都市部など乾燥した草地でごく普通の種であるが, 両島では稀であった.

近縁種 : 稈が倒伏して広がり, 花序が短く剛毛が長い小型の変種ハマエノコロ var. *pachystachys* (検索表 5) が石垣島から記録されている. またアワとの雑種オオエノコロ *S. x pycnocomma* が与那国島や黒島 (山崎ほか 2016) で記録されている.

備考 : 黒島の放牧地においてハマエノコロと考えられる個体が採取された.

#### 6. *Setaria verticillata* (L.) P.Beauv. ザラツキエノコロ

生育地 : 採草地, 路傍.

生育状況 : 両島でわずかに確認された. 確認された地点数が少なく, 当該地域における分布の詳細については不明である.

識別点 : エノコログサとは剛毛をなぞったときにざらつく方向 (刺の向き) が異なる.

備考 : 旧熱帯地域原産の帰化種とされる.

### コラム : 落穂ひろい⑨ 消えゆく八重山の在来雑穀

現在の八重山では, サトウキビ *Saccharum hyb.* やイネ *Oryza sativa* が基幹作物となっている一方, 他のイネ科作物を見ることは比較的少ない. しかし, かつては様々な在来雑穀が見られ, キビ *Panicum miliaceum* (方言名: スン), アワ *Setaria italica* (ア), モロコシ *Sorghum bicolor* (コーリャンなど) 等が主食のほか祭祀の供物として多くの世帯で栽培されていた (勝田・竹谷 1992, 賀納 1996). 八重山では古来より糯 (もち) 性品種が重宝され, 八重山産アワ11品種のうち10品種は糯性であるという (玉木 2022). キビにおいても, 石垣島のウズラシンははじめ栽培の主体は糯キビである (賀納 2002). これらの糯アワ・糯キビは, 糯イネとともにイーヤチ (バショウの葉で包む餅) やツツムツ (月桃の葉で包む餅) の材料とされる (勝田・竹谷 1992, 賀納 2006). また, モロコシについても団子や餅の材料としてウブゲンやヤタブの品種の栽培報告がある (勝田・竹谷 1992).

かつての八重山には, これら以外にも各島固有の品種が多数あったとされるが, 1960年代の製糖工場操業によるサトウキビ畑の拡大や外来品種の導入などにより, その多様性は急速に失われつつある. こうした背景もあり, どのような種や品種が, どこでどれほど栽培されていたかはほとんど分かっていない. なお, 与那国と黒島にはオオエノコロ (アワとエノコログサの雑種) の記録があり, 当地域におけるアワ栽培の痕跡といえるかもしれない. 八重山のイネ科作物は, その来歴においても不明な点が多く, イネやコムギ *Triticum* sp. についてはそれぞれ東南アジアと日本本土に起源するとされるものの (賀納 2006, 安溪 2007), それ以外の雑穀が, いつどのような経路で八重山にもたらされたのかは明らかになっていない. 八重山の貴重な在来雑穀を保全し, 特性や来歴を明らかにすることは, 琉球の農耕の歴史や文化の成り立ちを考えるうえで重要な手がかりとなるだろう.



キビの栽培品種の小花

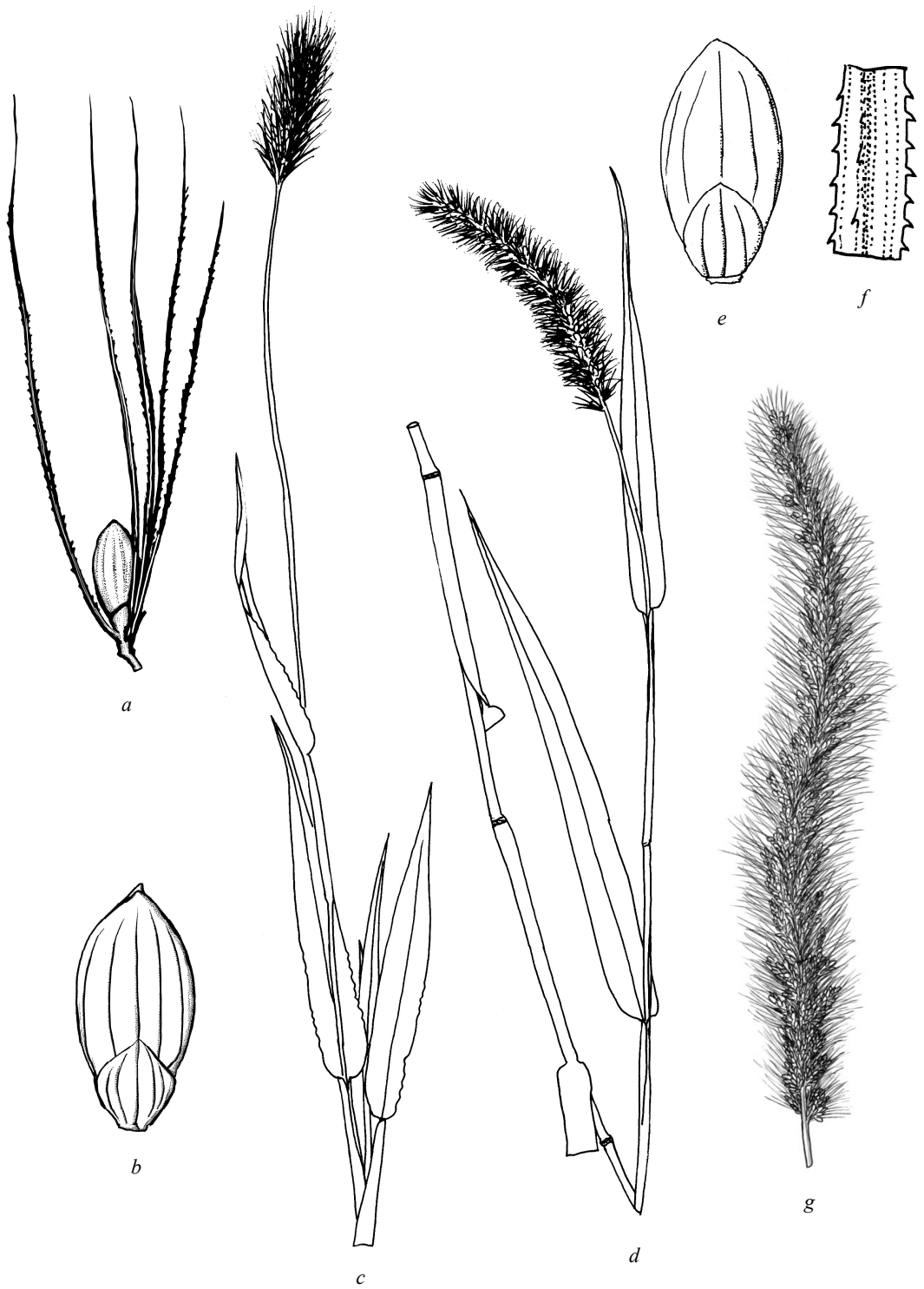


Fig. 91

*a–b* *Setaria viridis*; *a*. spikelet, *b*. abaxial view of spikelet. *c* *S. viridis* var. *pachystachys*; *c*. habit.

*d–f* *S. verticillata*; *d*. habit, *e*. abaxial view of spikelet, *f*. part of bristle. *g* *S. x pycnocomma*; *g*. inflorescence.

7. *Setaria pumila* (Poir.) Roem. et Schult. キンエノコロ

生育状況：両島で記録があるが、著者らの調査ではキンエノコロと断定できる個体は確認できていない。

備考：米倉・梶田（2003）や POWO（2026）ではコツブキンエノコロと同種として扱われる。

8. *Setaria pallide-fusca* (Schumach.) Stapf & C.E.Hubb. コツブキンエノコロ

生育地：放牧地，採草地。

生育状況：両島とも多く確認された。

備考：キンエノコロ，フシネキンエノコロとの分類学的な課題があるとされる。



Fig. 92 *a* *Setaria pumila*; *a*. adaxial view of spikelet. *b-c* *S. pallide-fusca*; *b*. habit, *c*. adaxial view of spikelet.

【61】 *Sorghum* Moench モロコシ属 Figs. 93–94

- A. 花序の枝は分岐しない . . . . . 1. コモロコシガヤ  
*S. nitidum* var. *nitidum*
- A. 花序の枝は複数回分岐する . . . . . 2. セイバンモロコシ  
*S. halepense*

1. *Sorghum nitidum* (Vahl) Pers. var. *nitidum* コモロコシガヤ

生育地 : 草刈りによって維持, または維持されていたと考えられる採草地の名残やその周辺.

生育状況 : 石垣島で確認されたが稀だった. 西表島では過去も含めて記録はない.

近縁種 : 本土部の二次草地には穂が疎で, 有柄小穂が細く包穎先端が伸長し, 芒の長い変種モロコシガヤ var. *dichroanthum* が分布している.

備考 : 環境省ならびに沖縄県の RL で絶滅危惧IA 類に指定されており (環境省 2025, 沖縄県 2018), 当該地域の草原生植物を代表する希少種である. 石垣島で確認された地点数は限られており, 危機的な状況であると考えられる.

2. *Sorghum halepense* (L.) Pers. セイバンモロコシ

生育地 : 畑地周辺, 路傍.

生育状況 : 両島で確認されたが, 西表島では比較して少なかった.

備考 : 旧熱帯地域原産の帰化種. このほか, 飼料として栽培されるスーダングラス *Sorghum x drummondii* の野外逸出個体が西表島の水田畦畔において確認された.

コラム: 落穂ひろい⑩ 八重山諸島のタケ亜科

八重山諸島で見られるイネ科には, 草本性の種だけでなくタケ亜科 Bambusoideae も含まれる. 多くは栽培のために持ち込まれたものだが, ゴザダケザサ *Pleiolobus gozadakensis* (= リュウキュウチク, *Pl. linearis*) のような固有種もある (三樹ほか 2020).

八重山において, タケ亜科は古くから人々の暮らしに欠かせない資源となってきた. 集落の周囲に植えて防風林とするほか, タケノコは食用とされ, 稈は籠や釣り竿, 建材, 儀礼用具など, さまざまな用途に利用されてきた (辻 2020). ホウライチク *Bambusa multiplex*, リョクチク *B. oldhamii*, ダイサンチク *B. vulgaris*, ホテイチク *Phyllostachys aurea*, タイミンチク *Pl. gramineus*, カンザンチク *Pl. hindsii*, ヤダケ *Pseudosasa japonica* などの栽培・利用記録があり, 集落の周囲や低山地において栽培のものや半野生化したものが見られる.

これらは用途によって呼び名が異なり, 茅屋の屋根を葺く際にはゴザダケザサ, タイミンチク, ヤダケなどがユチルダキと呼ばれ使われた (石垣ほか 2001). カンザンチクはダイミョーダキと呼ばれ笛や釣り竿に, ホウライチクはンカンダキと呼ばれ, 籠やざるの材料として使われた. こうした竹材は, かつては工芸品の材料として島外へも輸出されていたが (辻 2020), 現在ではそうした文化はほとんど廃れてしまったようである.



ゴザダケザサの稈  
 (三樹ほか 2020  
 を元に描画)



Fig. 93 *a-b* *Sorghum nitidum* var. *nitidum*; *a*. habit, *b*. spikelets.



Fig. 94  
*a-b Sorghum halepense*; *a&b*. habit.  
*c-d S. x drummondii*; *c*. spikelet (slender-spikelet cultivar),  
*d*. caryopsis (round-spikelet cultivar).

【62】 *Spinifex* L. ツキイゲ属 Fig. 95

1. *Spinifex littoreus* (Burm.f.) Merr. ツキイゲ

生育地 : 海浜草原.

生育状況 : 海浜で群落が確認された.



Fig. 95 *a-d* *Spinifex littoreus*; *a*. habit, *b*. male floret, *c*. female floret, *d*. caryopsis.

【63】 *Spodiopogon* Trin. オオアブラスキ属 Fig. 96

1. *Spodiopogon cotulifer* (Thunb.) Hack. var. *densiflorus* (Ohwi) Ibaragi

ダンチアブラスキ

生育状況：西表島で記録がある。

識別点：本変種は総の枝が短く、小穂が密につくことで区別される。

備考：オオアブラスキ属ではなく、アブラスキ属 *Eccoilopus* に分ける場合がある。



Fig. 96 a–b *Spodiopogon cotulifer* var. *densiflorus*; a. habit, b. spikelet.

【64】 *Stenotaphrum* Trin. イヌシバ属 Fig. 97

1. *Stenotaphrum secundatum* (Walter) Kuntze イヌシバ

生育地 : 採草地, 放牧地, 路傍, 植え込みなど低茎の草地.

生育状況 : 本土部のシバに代わり, 両島ともよく見られる種類である.

備考 : アメリカおよびアフリカ大陸原産の帰化種.

【65】 *Thuarea* Pers. クロイワザサ属 Fig. 97

1. *Thuarea involuta* (G.Forst.) R.Br. ex Sm. クロイワザサ

生育地 : 海浜草原.

生育状況 : 海浜に加えて, 海岸に面した放牧地でも確認された.

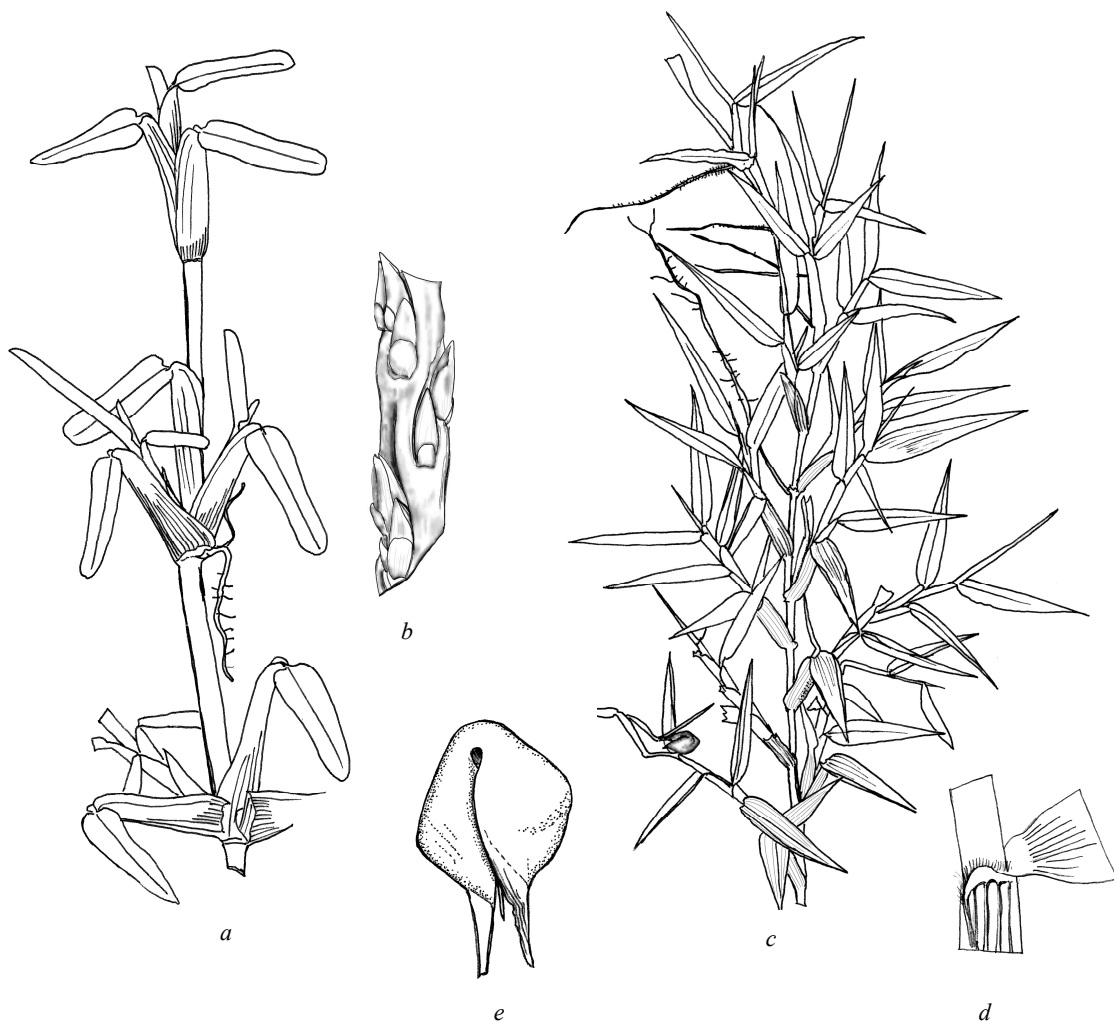


Fig. 97 *a-b* *Stenotaphrum secundatum*; *a*. shoot, *b*. part of rachis. *c-e* *Thuarea involuta*; *c*. habit, *d*. base of lamina, *e*. inflorescence.

【66】 *Urochloa* P.Beauv. ニクキビモドキ属 Figs. 98–103

- A. 花序の枝は 10 本以上 . . . . . 1. パラグラス  
*U. mutica*
- A. 花序の枝は 10 本以下
- B. 小穂は 2mm 以下
- C. 葉身に短軟毛が密生
- D. 小穂は有毛 . . . . . 2. ビロードキビ  
*U. villosa*
- D. 小穂は無毛 . . . . . 3. ラシャキビ  
*U. villosa* f. *glabriglumis*
- C. 葉身は毛がまばらにあるか無毛 . . . . . 4. ヒメキビ  
*U. reptans*
- B. 小穂は長さ 3mm 以上
- C. 小穂は長さ 4mm 以下, 植物体の高さは 100cm 以下
- D. 第一包穎は小穂の 3/4 . . . . . 5. ニクキビモドキ  
*U. glumaris*
- D. 第一包穎は小穂の 1/2–1/4
- E. 小穂は狭長楕円形 . . . . . 6. ニクキビ  
*U. distachya*
- E. 小穂は卵円形 . . . . . 7. メリケンニクキビ  
*U. platyphylla*
- C. 小穂は少なくとも長さ 4mm 以上, 植物体の高さは最大で 100cm を超える
- D. 葉は有毛 . . . . . 8. スリナムグラス  
*U. eminii*
- D. 葉は無毛 . . . . . 9. クリーピングシグナルグラス  
*U. dictyoneura*

1. *Urochloa mutica* (Forssk.) T.Q.Nguyen パラグラス

生育地 : 放牧地, 放棄水田など湿性の草地.

生育状況 : 両島で普通に見られ, ところによって大群落を形成する.

備考 : アフリカ原産の帰化種.

2. *Urochloa villosa* (Lam.) T.Q.Nguyen ビロードキビ

生育地 : 放牧地.

生育状況 : 石垣島の放牧地のうち, 海岸に近く放牧圧の弱い場所や貧栄養と考えられる草地で確認された.

近縁種 : 小穂が無毛のものはラシャキビ f. *glabriglumis* (検索表 3) で, 石垣島の固有品種である. 2024 年の調査において石垣島で約 50 年ぶりに生育が確認された (森脇ほか 2025a). ラシャキビはビロードキビとほぼ同様の環境に見られたが, 確認地点数は比較して少なかった.

備考 : 沖縄県 RL で VU (絶滅危惧II類) にランクされている (沖縄県 2018).



Fig. 98 *a-b* *Urochloa mutica*; *a*. habit, *b*. abaxial view of spikelet.

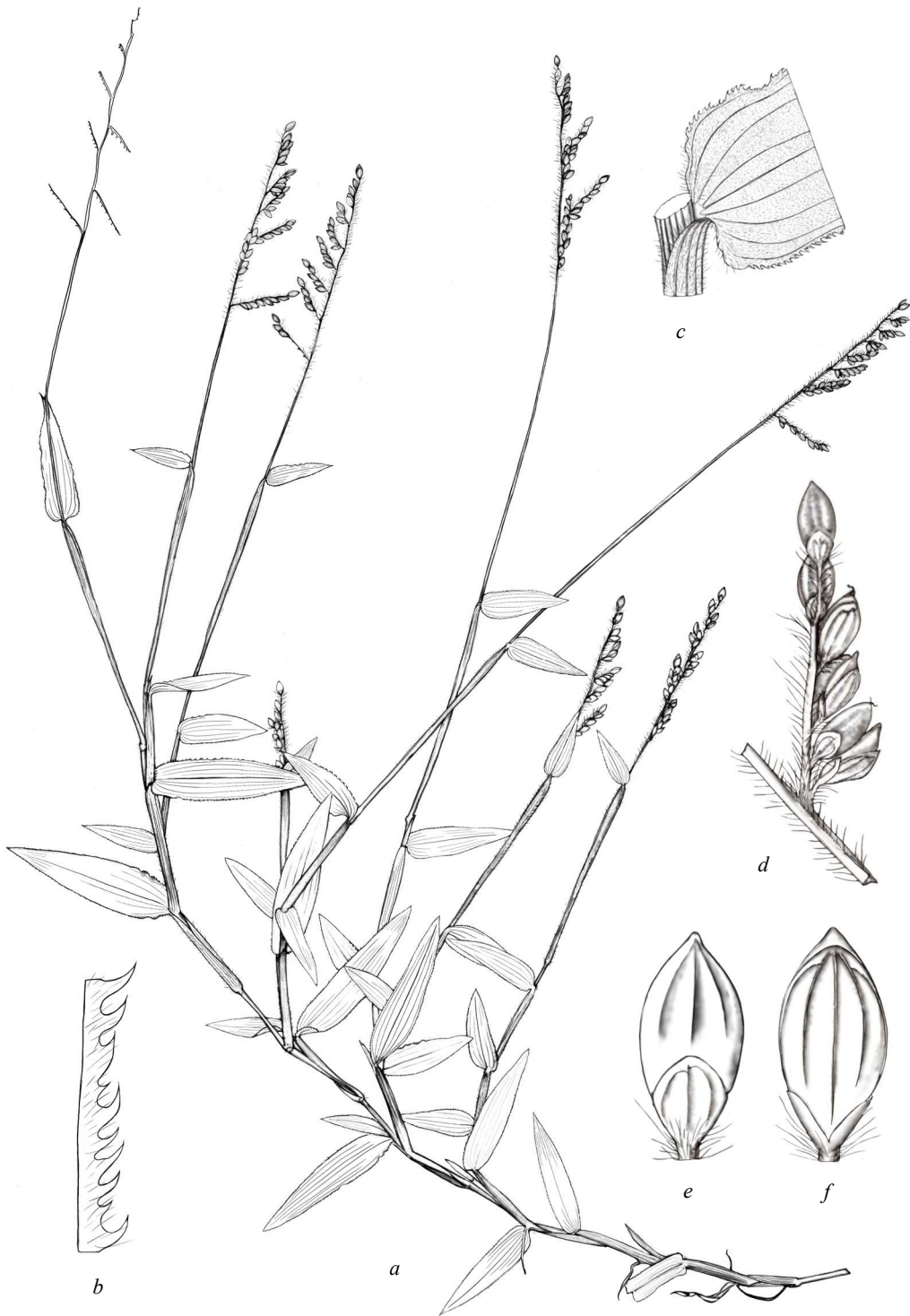


Fig. 99

**a-f** *Urochloa villosa* f. *grabrigitum*; **a**. habit, **b**. margin of lamina, **c**. base of lamina, **d**. part of inflorescence, **e**. abaxial view of spikelet, **f**. adaxial view of spikelet.

#### 4. *Urochloa reptans* (L.) Stapf ヒメキビ

生育地 : 放牧地.

生育状況 : 西表島にも記録があるが(梶田ほか 2022), 石垣島の1ヶ所でのみ確認され, 稀だった.

備考 : 東南アジア原産の帰化種. 黒島および多良間島の放牧地でも生育が確認された.

#### 5. *Urochloa glumaris* (Trin.) Veldkamp ニクキビモドキ

生育地 : 放牧地, 水田畦畔などのやや湿性の草地.

生育状況 : 両島のやや湿性の草地で広く確認され, 個体数は多かった.

備考 : 帰化植物とされる場合もあるが(吉村 2015), 鹿児島県以南のものは在来である(鈴木ほか 2022). 出穂時期は秋から翌年春にかけてであり, 穂がない夏季に認識することはなかなか難しい.

#### 6. *Urochloa distachya* (L.) T.Q.Nguyen ニクキビ

生育地 : 放牧地.

生育状況 : 湿性の草地に見られるが, 前種ニクキビモドキが比較的普通なのに対し本種は特に石垣島では稀である. 水田畦畔では確認されなかった.

識別点 : 葉の色がやや明るい色をしているため, 慣れると遠目であってもよく似たニクキビモドキと区別がつく.

### コラム：落穂ひろい⑪ 琉球列島のニクキビモドキ属

*Urochloa* ニクキビモドキ属は, 熱帯から亜熱帯の草原に広く分布し, 八重山諸島でも道端や畑地にごく普通に見られる身近な植物である. しかし, 小穂の違いを手がかりに正確に種を見分けることは意外に難しい. 琉球列島で記録のあるニクキビモドキ属の特徴や生態を総覧できる文献は未だなく, 種によっては文献間でその情報や分類に食い違いがあるためである (Sosef 2016, Cheng et al. 2006). さらに, 本属にはニクキビをはじめ, 倍数性複合体に由来すると考えられる幅広い形態変異を示す種が知られており (Sosef 2016), これも本属の分類を難しくしている一因だろう. 本書の執筆にあたっては, 可能な限り多くの標本を採集し, 文献と照らし合わせながら検索表と解説を整備したが, わずか数個体しか確認できなかった種もあり, なお多くの課題が残されている. 実際, 西表島で確認された個体の中には, ここで掲載した種のどの種にも当てはまらないように見えるものもあった. 身近でありながらまだまだ多くの謎を秘めていることを, あらためて実感させられる属である.



不明種の小穂  
Y10129 (西表島)



Fig. 100  
**a–b** *Urochloa reptans*; **a**, habit, **b**, abaxial view of spikelet.  
**c–d** *U. glumaris*; **c**, habit, **d**, spikelets.



Fig. 101 *a-b* *Urochloa distachyas*; *a*. habit, *b*. part of raceme.

7. *Urochloa platyphylla* (Munro ex C.Wright) R.D.Webster メリケンニクキビ

生育状況：2019年に西表島で採取された標本がRYUに収蔵されている。

備考：アメリカ大陸原産の帰化種。

8. *Urochloa eminii* (Mez) Davidse スリナムグラス

生育地：放牧地，採草地。

生育状況：両島の採草地周辺で見られ，優占している場合もある。

識別点：小穂が有毛であることに加えて，パラグラス同様に葉鞘も有毛であることも特徴。

備考：スリナムグラスの名前で流通している牧草で，アフリカ大陸原産。

9. *Urochloa dictyoneura* (Fig. & De Not.) Veldkamp クリーピングシグナルグラス

生育地：放牧地，採草地。

生育状況：西表島でのみ確認された。

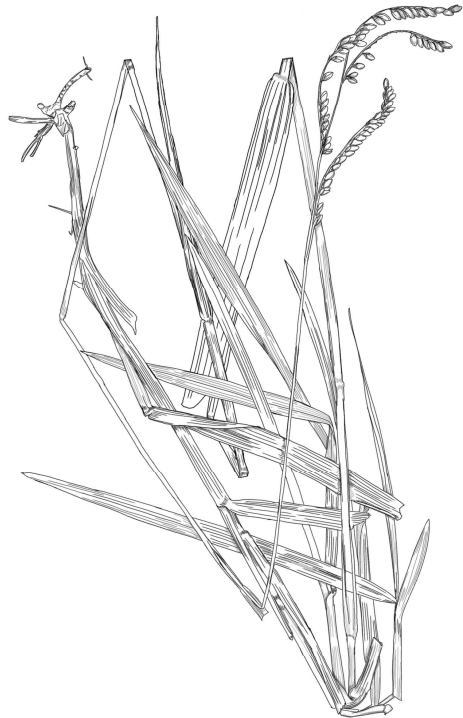
識別点：倒伏してひろがり，ほとんど出穂しない。葉の光沢が強いのが特徴であり，スリナムグラスと暫定的に識別は可能と考えられる。

備考：アフリカ大陸原産で和名はない。

コラム：落穂ひろい<sup>⑫</sup> シグナルグラスの実態

シグナルグラス *Urochloa brizantha* は牧草として世界各地で広く利用され，多量の種子が流通している種である。日本でも栽培されているとされるが，八重山諸島における分布や定着の実態は，いまだ十分に明らかになっていない。

その理由は大きく二つある。第一に，牧草として改良された植物は葉や茎の成長が優先されるよう選抜されてきたため，分類に重要な形質である穂をつけにくい傾向があることである。そのため，葉だけでは同属の他種と区別できず，見過ごされている可能性もある。第二に，本種自体の分類学的な識別の難しさである。シグナルグラスは小穂が無毛であることを特徴とするが，形態的によく似た種がいくつか存在し，とりわけスリナムグラスとは酷似する。通常はシグナルの小穂が無毛である一方，スリナムでは有毛であることで区別される。しかし，スリナムにも無毛の個体が現れることがあり (Sosef 2016)，シグナルにも有毛のものがあるという (Hyde et al. 2026)。シグナルグラスは小穂がよりふくらみ，1列に並び，護穎の先端が鈍く内側に曲がる傾向があるとされるが，両者の中間的な形態を示す個体も報告されており，その境界は明確ではない (Sosef 2016)。



シグナルグラス  
Schimper89\_M01742002  
Isolectotype (Ethiopia)

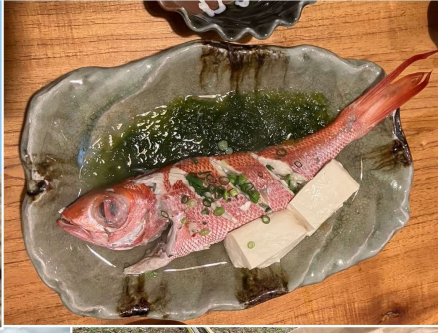


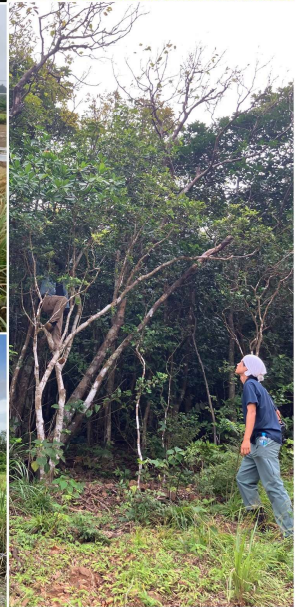
Fig. 102

*a-b* *Urochloa platyphylla*; *a*. habit, *b*. part of inflorescence. *c-d* *U. eminii*; *c*. habit, *d*. abaxial view of spikelet.



Fig. 103  
*a-c* *Urochloa dictyoneura*; *a*. habit, *b*. base of lamina, *c*. spikelets.





## 線画の作成にあたり参考にした標本または文献

<i>Chikusichloa</i>	Fig. 1	イリオモテガヤ	a&c; Y13197 (西表島 2月), b; KAG068331 (西表島 7月)
<i>Leersia</i>	Fig. 2	タイワンアシカキ	a-b; Y7932 (石垣島 8月)
<i>Zizania</i>		マコモ	c; KAG127087 (鹿児島県本土部), d-e; iNat. (2026, Taiwan)
<i>Avena</i>	Fig. 3	カラスムギ	a-b&d; Y6485 (石垣島 5月), c; N.Komada5219 (宮崎県 1月)
<i>Poa</i>	Fig. 4	スズメノカタビラ	a; N.Komada5238 (広島県 2月)
		ツクスズメノカタビラ	b; KAG053091 (口永良部島), c; N.Komada5233 (京都府 1月)
<i>Polypogon</i>	Fig. 5	ヒエガエリ	a; KAG120180 (鹿児島県本土部), b; Y2812 (石垣島 4月)
		ハマヒエガエリ	c; KAG071025 (宮古島), d; Y2653 (石垣島 4月)
<i>Chloris</i>	Fig. 6	ナガヒゲシバ	a-d; Y1980 (石垣島 3月), e; Y9816 (西表島 9月)
	Fig. 7	ヒメヒゲシバ	a-c; Y403 (石垣島 2月)
		コウセンガヤ	d; Y10218 (西表島 9月), e-f; Y1038 (石垣島 2月)
	Fig. 8	シマヒゲシバ	a-c; Y215 (石垣島 2月)
		アフリカヒゲシバ	d; Y3359 (石垣島 4月), e-f; Y266 (石垣島 2月)
<i>Cynodon</i>	Fig. 9	ギョウギシバ	a-b; Y5831 (石垣島 5月), c-e; N.Komada5171 (宮崎県 1月)
	Fig. 10	オオギョウギシバ	a-c; Y3039 (石垣島 4月)
		オニギョウギシバ	d; Y2626 (石垣島 4月), e; Y2385 (石垣島 4月)
<i>Dactyloctenium</i>	Fig. 11	タツノツメガヤ	a-b; Y6524 (石垣島 7月)
<i>Eleusine</i>		オヒシバ	c; KAG038780 (石垣島), d; Y130 (石垣島 2月)
<i>Enteropogon</i>	Fig. 12	ムラサキオヒゲシバ	a-b; BM000797935 (India), c-d; US1962364(India), e-f; Cheng et al. (2006)
<i>Eragrostis</i>	Fig. 13	ヌカカゼクサ	a; KAG068847 (西表島), b; Y15150 (小浜島 10月)
	Fig. 14	コスズメガヤ	a-b; 個人採取品 (広島県 10月)
		カゼクサ属の 1種	c; Y8181 (石垣島 8月)
		シナダレスズメガヤ	d-e; 個人採取品 (広島県 10月)
	Fig. 15	アキコスズメガヤ	a-b; Y2893 (石垣島 4月)
		ニワホコリ	c-d; Y6765 (石垣島 7月), e; 個人採取品 (広島県 10月)
	Fig. 16	イトスズメガヤ	a-c; Y10356 (西表島 9月)
	Fig. 17	クロカゼクサ	a-c; Y9278 (西表島 9月)
<i>Eustachys</i>	Fig. 18	スイショウガヤ	a-d; Y9229 (西表島 9月)
<i>Leptochloa</i>	Fig. 19	アゼガヤ	a-b; Y7928 (石垣島 8月)
		イトアゼガヤ	c; Y8012 (石垣島 8月)
<i>Diplachne</i>	Fig. 20	ハマガヤ	a; Y14928 (沖縄本島 8月)
		ニセアゼガヤ	b; Y2636 (石垣島 4月), c; Y8587 (西表島 9月)
<i>Lepturus</i>	Fig. 21	ハイシバ	a&c-d; 2015年採取品 (西表島), b; Y6480 (石垣島 5月)
<i>Sporobolus</i>	Fig. 22	フタシベネズミノオ	a; Y13358 (黒島 2月), b-d; 2024年採取品 (西表島)
	Fig. 23	リュウキュウネズミノオ	a; Y14918 (小浜島 10月), b-d; 2024年採取品 (西表島)
		ソナレシバ	e; KAG022599 (徳之島), f; Y16996 (石垣島 11月)
<i>Zoysia</i>	Fig. 24	シバ	a; KAG096420 (鹿児島県本土部)
		コオニシバ	b-c; KAG085184 (鹿児島県本土部)
		コウライシバ	d-g; Y381 (石垣島 2月)
		コウシュンシバ	h-i; Y1322 (石垣島 3月)
<i>Arundo</i>	Fig. 25	ダンチク	a; iNat. (2026, 日本), b-d; N. Komada5178 (宮崎県 1月)
		ヒナヨシ	e; KAG067897 (西表島)

<i>Phragmites</i>	Fig. 26	ヨシ	a; 個人採取品 (沖縄本島), b-c; Y10112 (西表島 9 月)
	Fig. 27	セイタカヨシ	a; 個人採取品 (宮崎県), b; KAG180040 (鹿児島県本土部), c; Y15807 (西表島 1 月)
		ツルヨシ	d; KAG070804 (魚釣島), e; KAG070803 (西表島), f; KAG070779 (鹿児島県本土部)
<i>Isachne</i>	Fig. 28	チゴザサ	a; Y9004 (西表島 9 月)
	Fig. 29	アツバハイチゴザサ	a-c; 2023 年採取品 (西表島)
		ケナシハイチゴザサ	d-g; 2023 年採取品 (西表島)
		ダイトンチゴザサ	h-i; KAG069296 (Taiwan), j; 茨木ほか (2020)
	Fig. 30	ササクサ	a; KAG069822 (与那国島), b-c; KAG069821 (石垣島)
<i>Apluda</i>	Fig. 31	オキナワカルカヤ	a-c; Y5762 (石垣島 5 月), d; 2016 年採取品 (西表島)
<i>Arthraxon</i>	Fig. 32	コブナグサ	a&c; Y10669 (石垣島 10 月), b; KAG038315 (奄美大島)
<i>Axonopus</i>	Fig. 33	ツルメヒシバ	a-b; 2016 年採取品 (西表島 2 月), c; Y7844 (石垣島 8 月)
		ホソバツルメヒシバ	d-f&h; 2024 年採取品, g; N.Komada5172 (宮崎県 1 月)
<i>Bothriochloa</i>	Fig. 34	カモノハシガヤ	a-b; Allred (2003)
	Fig. 35	アイダガヤ	a; Y10923 (石垣島 10 月)
		モンツキガヤ	b; Y13480 (石垣島 2 月)
		カモノハシガヤ属の 1 種	c-d; Y12863 (石垣島 11 月)
<i>Capillipedium</i>	Fig. 36	カショウアブラススキ	a; KAG067968 (西表島), b-c; Y6849 (石垣島 8 月)
	Fig. 37	リュウキュウヒメアブラススキ	a; KAG177076 (奄美大島), b; 2015 年採取品 (西表島), c; Y10564 (石垣島 10 月)
		ヒメアブラススキ	d&f; N.Komada5175 (宮崎県 1 月), e; Y10920 (石垣島 10 月)
<i>Cenchrus</i>	Fig. 38	シンクリノイガ	a-b; Y6961 (石垣島 8 月)
<i>Chrysopogon</i>	Fig. 39	オキナワミチシバ	a; KAG068371 (石垣島), b; Y7677 (石垣島 8 月)
		ベチベルソウ	c; 個人採取品 (沖縄本島), d-e; Y10408 (石垣島 10 月)
<i>Coix</i>	Fig. 40	ジュズダマ	a; AO2502 (京都府)
<i>Cymbopogon</i>	Fig. 41	シマオガルカヤ	a-b; Y11785 (石垣島 11 月).
<i>Cyrtococcum</i>	Fig. 42	ヒメチゴザサ	a; Y13911 (西表島 3 月), b; 2020 年採取品 (西表島 3 月)
<i>Dichanthium</i>	Fig. 43	ヒメオニササガヤ	a-c; 2015 年採取品 (西表島)
		オニササガヤ	d-e; 2024 年採取品 (沖縄県)
<i>Digitaria</i>	Fig. 44	フタマタメヒシバ	a; MNHN04278170 (Henry1073, Taiwan), b; GBIF.org. (2026, Taiwan), c-d; Boonsuk et al. (2016)
		ディジットグラス	e-f; Y8212 (石垣島 8 月)
	Fig. 45	メヒシバ	a-b; Y1641 (石垣島 3 月)
		イヌメヒシバ	c-e; Y6014 (石垣島 5 月)
		ヒトタバメヒシバ	f; KYO, Koba 1455 (沖縄本島 2013 年)
Fig. 46	コメヒシバ	a-b; Y3820 (石垣 5 月)	
		アラゲコメヒシバ	c-e; KAG038579 (石垣島)
		ヘンリーメヒシバ	f; Y1411 (石垣島 3 月), g-h; Y1351 (石垣島 3 月)
Fig. 47	スキメヒシバ	a-e; Y6510 (石垣島 5 月)	
Fig. 48	アキメヒシバ	a-b; Y5355 (石垣島 5 月)	
		メヒシバ属の 1 種	c-e; Y17041 (西表島 11 月)
		イトメヒシバ	f; 茨木ほか (2020)
<i>Echinochloa</i>	Fig. 49	ワセビエ	a; Y12437 (西表島 11 月), b-c; Y7203 (石垣島 8 月)
	Fig. 50	ノゲタイヌビエ	a; KAG068787 (西表島), b; Y8585 (西表島 9 月)
		イヌビエ	c; 個人採取品 (西表島), d; Y11264 (石垣島 10 月)
		ヒメイヌビエ	e; Y11047 (石垣島 10 月)
<i>Eremochloa</i>	Fig. 51	チャボウシノシツペイ	a-b; Y14906 (小浜島 10 月)

<i>Eriochloa</i>	Fig. 52	ナルコビエ	a-b; RYU42232 (石垣島)
	Fig. 53	ムラサキノキビ	a; KAG068920 (伊良部島), b; Y11255 (石垣島 10 月)
<i>Eulalia</i>	Fig. 54	ウンヌケモド	a-b; TNS794238 (西表島)
<i>Garnotia</i>	Fig. 55	アオシバ	a-d; 個人採取品 (西表島)
<i>Hackelochloa</i>	Fig. 56	ヤエガヤ	a-b; 栽培品 (石垣島)
<i>Hemarthria</i>	Fig. 57	コバノウシノシッペイ	a; KAG069190 (トカラ列島臥蛇島), b-c; 個人採取品, d; KAG069187 (鹿児島県本土部)
<i>Hyparrhenia</i>	Fig. 58	ヒツバリガヤ属の 1 種	a-c; Y6063 (石垣島 5 月)
<i>Ichnanthus</i>		タイワンササキビ	d-e; KAG069277 (石垣島), f; Y11856 (西表島 11 月)
<i>Imperata</i>	Fig. 59	チガヤ	a-b; KAG038851 (沖縄本島), c-d; N.Komada5174 (宮崎県 1 月)
<i>Ischaemum</i>	Fig. 60	タイワンアイアシ	a-b; 栽培品 (石垣島)
	Fig. 61	ヒメカモノハシ	a-b; Y7502 (石垣島 8 月)
	Fig. 62	コハナカモノハシ	a-b; RYU11600 (石垣島)
		ハナカモノハシ	c-e; 個人採取品 (西表島 3 月), f; Y6478 (石垣島 5 月)
	Fig. 63	タイワンカモノハシ	a&c; 2015 年採取品 (西表島 9 月), b; Y17065 (西表島 11 月)
	Fig. 64	ヤエヤマカモノハシ	a; KAG069686 (西表島), b; Y6424 (石垣島 5 月)
<i>Melinis</i>	Fig. 65	ルビーガヤ	a; Y14208 (石垣島 3 月), b; Wessapak and Ngemaengsaruy (2022)
<i>Microstegium</i>	Fig. 66	オオササガヤ	a; KAG069899 (石垣島), b; 2022 年採取品 (西表島)
		メンテンササガヤ	c-e; KAG069998 (沖縄本島)
<i>Miscanthus</i>	Fig. 67	トキワススキ	a; iNat. (2026, Taiwan), b; N.Komada5194 (宮崎県 1 月), c; KYO00073842 (奄美大島)
	Fig. 68	ハチジョウススキ	a; Y766 (石垣島 2 月), b; 個人採取品 (西表島), c; Y8062 (石垣島 8 月)
<i>Mnesithea</i>	Fig. 69	ヒメウシノシッペイ	a; KAG071621 (Taiwan), b; GBIF.org. (2026, Taiwan)
<i>Moorochloa</i>	Fig. 70	ヒメスズメノヒエ	a-c; Y14125 (石垣島 3 月)
<i>Optismenus</i>	Fig. 71	オオバチチミザサ	a; KAG151423 (西表島)
		エダウチチミザサ	b; KAG038946 (西表島), c; Y63 (石垣島 2 月)
		ダイトンチチミザサ	d; IND0036389 (Taiwan)
		ケチチミザサ	e; 個人採取品 (大阪府)
		ホソバチチミザサ	f; 茨木ほか (2020)
<i>Panicum</i>	Fig. 72	ギネアキビ	a-c; Y247 (石垣島 2 月), d; Y12628 (石垣島 11 月)
	Fig. 73	オオクサキビ	a; Y5800 (石垣島 5 月), b; Y11279 (石垣島 10 月)
	Fig. 74	ヌカキビ	a-c; Y15998 (石垣島 1 月), d; KAG097980 (喜界島)
	Fig. 75	ハイキビ	a; KAG190545 (奄美大島), b; Y12757 (石垣島 11 月)
<i>Paspalum</i>	Fig. 76	アメリカスズメノヒエ	a-b; Y7335 (石垣島 8 月)
		オガサワラスズメノヒエ	c; 個人採取品 (西表島), d; Y5564 (石垣島 5 月)
	Fig. 77	サワスズメノヒエ	a&d; Y8262 (石垣島 8 月), b-c; Y16995 (石垣島 11 月)
	Fig. 78	キシウスズメノヒエ	a 拡大; Y7073 (石垣島 8 月), a 全景; Y7305 (石垣島 8 月), b; Y6115 (石垣島 5 月), c; Y7305 (石垣島 8 月), d; Y6980 (石垣島 8 月)
		タチスズメノヒエ	e; Y9556 (西表島 9 月), f; Y6653 (石垣島 7 月)
	Fig. 79	ナガバスズメノヒエ	a-d; Y6864 (石垣島 8 月)
	Fig. 80	ケマルミスズメノヒエ	a-b; Y119 (石垣島 2 月)
		スズメノコビエ	c; 個人採取品 (西表島), d; Y12734 (石垣島 11 月)
			e-f; idtools.org. (2026)
	Fig. 81	イリオモテスズメノヒエ	a-b; Y12313 (西表島 3 月), c; Y13752 (西表島 11 月), d; Ibaragi et al. (2023)

<i>Pennisetum</i>	Fig. 82	マキバチカラシバ	a&c; Y14192 (石垣島 3 月), b; Flora of North America (2025), d-f; idtools.org. (2026)
	Fig. 83	ナビアグラス	a-c; Y245 (石垣島 2 月), KAG181270 (鹿児島県本土部)
<i>Phacelurus</i>	Fig. 84	アイアシ	a; KAG070712 (鹿児島県長島), b. 長田 (2002), c-d; GBIF.org. (2026, China)
<i>Pogonatherum</i>	Fig. 85	イタチガヤ	a; KAG190289 (鹿児島県本土部), b; N.Komada5177 (宮崎県)
<i>Rottboellia</i>		ツノアイアシ	c-d; Y1687 (石垣島 3 月), e; 茨木ほか (2020)
<i>Saccharum</i>	Fig. 86	ナンゴクワセオバナ	a; KAG071090 (石垣島), b; Y9473 (西表島 9 月)
<i>Sacciolepis</i>	Fig. 87	ハイヌメリ	a-b; Y475 (石垣島 2 月)
<i>Schizachyrium</i>	Fig. 88	ウシクサ	a; KAG200326 (沖永良部島), b; Y10994 (石垣島 10 月), c; Y15977 (石垣島 1 月)
<i>Setaria</i>	Fig. 89	ササキビ	a; KAG071293 (石垣島), b; 個人採取品 (沖縄本島 12 月)
	Fig. 90	アフリカキンエノコロ	a; KAG097641 (鹿児島県本土部), b; Cook et al. (2025)
		フシネキンエノコロ	c; KAG039226 (宮古島), d; KAG039226 (宮古島), e-f; idtools.org. (2026)
	Fig. 91	エノコログサ	a-b; Y7346 (石垣島 8 月)
		ハマエノコロ	c; RYU5077 (石垣島)
		ザラツキエノコロ	d-f; RYU37900 (波照間島)
	Fig. 92	キンエノコロ	a; SIG (2026)
		コツブキンエノコロ	b-c; Y903 (石垣島 2 月)
<i>Sorghum</i>	Fig. 93	コモロコシガヤ	a-b; Y4891 (石垣島 5 月)
	Fig. 94	セイバンモロコシ	a-b; Y334 (石垣島 2 月)
		スーダングラス	c; Cook et al. (2025), d; SIG (2026)
<i>Spinifex</i>	Fig. 95	ツキイゲ	a; KAG022132 (西表島), b&d; N.Komada20120914-11 (奄美大島), c; Cheng et al. (2006)
<i>Spodiopogon</i>	Fig. 96	ダンチアブラススキ	a; KAG068726 (沖縄本島), b; 茨木ほか (2022)
<i>Stenotaphrum</i>	Fig. 97	イヌシバ	a; Y637 (石垣島 2 月), b; Y6881 (石垣島 8 月)
<i>Thuarea</i>		クロイワザサ	c-e; Y6845 (石垣島 8 月)
<i>Urochloa</i>	Fig. 98	パラグラス	a-b; Y11272 (石垣島 10 月)
	Fig. 99	ラシャキビ	a-f; Y379 (石垣島 2 月)
	Fig. 100	ヒメキビ	a-b; Y8473 (石垣島 8 月)
		ニクキビモドキ	c; Y80 (石垣島 2 月), d; Y11324 (石垣島 10 月)
	Fig. 101	ニクキビ	a-b; Y11366 (石垣島 10 月)
	Fig. 102	メリケンニクキビ	a; GBIF.org. (2026), b; Flora of Argentina (2026)
		スリナムグラス	c-d; Y10831 (石垣島 10 月)
	Fig. 103	クリーピングシグナルグラス	a-c; Y10360 (西表島 9 月)

Y; 著者らの採取品 (個人収蔵), BM; The Natural History Museum, IND; Indiana University, KAG; 鹿児島大学総合研究博物館 植物標本室, KYO; 京都大学博物館, RYU; 琉球大学理学部, TNS; 国立科学博物館維管束植物標本室, US; Smithsonian Institution

## 引用文献

- Allred KW. 2003. *Bothriochloa*. In: Barkworth M.E., Capels K.M., Long S. and Piep M.B. (eds.), *Flora of North America*. 25: 639–647. Oxford University Press, Oxford.
- 安溪遊地. 2007. 西表島の農耕文化—海上の道の発見. 法政大学出版, 東京.
- Belete T. 2020. *Tef (Eragrostis tef*(Zucc.) Trotter) breeding, achievements, challenges and opportunities in Ethiopia; incase Southwestern Ethiopia. *Journal of Genetic and Environmental Resources Conservation*. 8: 18-31.
- Boonsuk B., Chantaranothai P. and Hodgkinson T.R. 2014. *Digitaria isanensis* sp. nov. and a reinstated taxon of *Digitaria* (Poaceae) from Thailand. *Nordic Journal of Botany*. 32: 811-814.
- Cheng S.L., Li D.Z., Zhu G., Wu Z., Lu S.L., Liu L., Wang Z.P., Sun B.X., Zhu Z.D., Xia N., Jia L.Z., Guo Z., Chen W., Chen X., Yang G., Phillips S.M., Stapleton C., Soreng R.J., Aiken S.G., Tzvelev N.N., Peterson P.M., Renvoize S.A., Olova M.V., Ammann K. 2006. Poaceae. *Flora of China* vol. 22. Missouri Botanical Garden Press, St. Louis and Science Press, Beijing.
- Cook B.G., Pengelly B.C., Schultze-Kraft R., Taylor M., Burkart S., Cardoso Arango J.A., González Guzmán J.J., Cox K., Jones C., Peters M. 2020. *Tropical Forages, An interactive selection tool*, 2nd and Revised Edition. International Center for Tropical Agriculture (CIAT), Cali, Colombia and International Livestock Research Institute (ILRI), Nairobi, Kenya. [www.tropicalforages.info](http://www.tropicalforages.info)
- Flora of North America. 2025. eFloras.org. Available from: <http://www.efloras.org/index.aspx>
- Flora of Argentina. 2026. Flora of Argentina. Available from: <http://www.floraargentina.edu.ar/>
- GBIF.org. 2026. GBIF Home Page. Available from: <https://www.gbif.org>.
- 初島住彦. 1975. 琉球植物誌 (追加・訂正). 沖縄生物教育研究会, 那覇.
- 初島住彦, 天野鉄夫. 1967. 改訂沖縄植物目録. 沖縄生物教育研究会, 那覇.
- 初島住彦, 天野鉄夫. 1994. 増補訂正琉球植物目録. 沖縄生物学会, 沖縄.
- 細川吉晴. 2014. 八重山諸島のコーラル地帯における草地造成工法の検証と再整備法のあり方. *沖縄畜産*. 49: 7–16.
- Hyde M.A., Wursten B.T., Ballings P., Coates Palgrave M. 2026. *Flora of Zimbabwe*.
- 茨木靖, 木場英久. 2005. 日本新産帰化植物イネ科ヒツパリガヤ. *植物研究雑誌*. 80: 250–251.
- 茨木靖, 木場英久, 佐藤広行, 米倉浩司. 2015. イネ科 Poaceae. 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 (編), 改訂新版 日本の野生植物 2 イネ科～イラクサ科, pp.23-99. 平凡社, 東京.
- 茨木靖, 木場英久, 横田昌嗣. 2020. 南のイネ科ハンドブック. 文一総合出版, 東京.
- Ibaragi Y., Yokota M., Norsaeangri M., Koba H. 2022. Taxonomic Notes on *Isachne subglobosa* (Poaceae). *Journal of Japanese Botany*. 97: 313-322.
- Ibaragi Y., Yokota M., Akai K., Koba H. 2023. Notes on the Genus *Paspalum* (Poaceae) in the Ryukyu Islands, Japan. *The Journal of Japanese Botany*. 98: 293-303.
- idtools.org. 2026. ITP Identification Technology Program. Available from: <https://idtools.org/aboutITP.cfm>
- 池原直樹, 多和田真淳. 1989. 沖縄植物野外活用図鑑 第 9 巻: あかね科～らん科, pp.285. 新星図書出版, 那覇.
- iNaturalist. 2026. iNaturalist. Available from: <https://www.inaturalist.org>.
- 石垣金星, 嵩原建二, 花城良廣, 加治工真市. 2001. 西表島・鳩間島及び新城島における動植物の方言名について. 西表島総合調査報告書, pp.35-59. 沖縄県立博物館, 那覇.
- Jung MJ., Chen CW, Chung SW., Kuoh CS. 2009. Supplements to the Grasses (Poaceae) in Taiwan (I). *Taiwania*. 53: 69-75.
- 梶田結衣, 米倉浩司, 遠山弘法, 赤井賢成, 天野正晴, 阿部篤志, 山本武能, 設楽拓人, 齊藤由紀子, 横田昌嗣, 内貴章世. 2022. 沖縄県西表島における外来植物目録. 大阪市立自然史博物館研究報告. 76: 125–141.
- 環境省. 2025. 第 5 次レッドデータブック: 絶滅のおそれのある日本の野生生物 維管束植物. 環境省, 東京.
- 賀納章雄. 1996. 南西諸島におけるアワ栽培の地域性. *史泉*. 83: 18–38.
- 賀納章雄. 2002. 現代南島における伝統的作物の復活: 沖縄県石垣島・波照間島のキビ栽培を中心に. *史泉*. 96: 21–39.
- 賀納章雄. 2006. 栽培者からみた現代南島における伝統的畑作物類栽培の展開. *史泉*. 104: 35–49.
- 勝田真澄, 竹谷勝. 1992. 沖縄県における雑豆および雑穀類在来品種の探索収集. 植物遺伝資源探索導入調査報告書. 8: 1–7.
- 勝山輝男. 2012. 日本で記録されたイネ科オヒゲシバ属の外来種. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学). 41: 27–33.
- 勝山輝男. 2023. 日本で記録されたイネ科オニササガヤ属とモンツキガヤ属. *横浜植物会年報*. 52: 29–35.
- 木場英久, 勝山輝男, 佐藤恭子, 支倉千賀子, 古川冷實. 2018. イネ科. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018 電子版, pp.510-665. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.
- Komada N., Moriwaki H., Nakajima K., Okamoto A., Okano T., Nakama S., Ibaragi Y., Takyu M. 2026. *Eustachys petraea* (Poaceae) Discovered on Iriomote Island: A New Record for Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*. 77: 51-55.
- 小山鉄夫. 1962. イネ科植物数種の学名について. *植物研究雑誌*. 37: 231–241.

- Martin R.J., Van Ogtrop F., Henson Y., Broeum K., Rien R., Srean P., Tan D.K.Y. 2017. A survey of weed seed contamination of rice paddy in Cambodia. *Weed Research*. 57: 333-341.
- Mengistu MA, Yim WC, Solomon JKQ and Cushman JC. 2025. Exploring the phenotypic diversity of *Eragrostis tef* for biomass and grain production under optimum growth conditions. *Frontiers in Plant Science*. 16:1538510.
- 宮脇昭, 鈴木邦雄, 藤原一絵, 宮城康一. 1979. 与那国島の植生. 琉球列島の植生学的研究 V. 東京.
- 三樹和博, 古本良, 小林幹夫. 2020. ゴザダケザサの分類学的特徴と石垣島における新産地の意義. *植物地理・分類研究*. 68 : 93-98.
- 宮良高弘. 1972. 波照間島民俗誌. 木耳社, 東京.
- 水谷晃, 藤吉正明, 竹中康進, 河野裕美. 2021. 八重山島諸島沖ノ神島の種子植物相. 59 : 57-65.
- 森脇大樹, 中島一豪, 岡野武琉, 仲摩駿佑, 駒田夏生, 武生雅明. 2025a. 沖縄県石垣島におけるピロードキビの一品種ラシャキビの再発見. *植物研究雑誌*. 100 : 153-156.
- 森脇大樹, 中島一豪, 駒田夏生, 岡野武琉, 摩駿佑, 岡本鮎, 武生雅明. 2025b. 沖縄県石垣島におけるイネ科ヤエガヤの 52 年ぶりの再発見とその生育環境. *植物地理・分類研究*. 73 : 31-39.
- 農用地整備公団沖縄総合事務所. 1993. 沖縄における畜産基地建設事業のあゆみ—沖縄畜産のさらなる発展を—, pp.119-166. 沖縄県. 2018. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 (レッドデータおきなわ) 第 3 版—菌類編・植物編—沖縄県レッドデータブック. 沖縄県環境部自然保護課, 那覇.
- 大川智史, 林将之. 2016. 琉球の樹木—奄美・沖縄～八重山の亜熱帯植物図鑑. 文一総合出版. 東京.
- 長田武正. 2002. 増補日本イネ科植物図譜オンデマンド版. 平凡社, 東京.
- 大井次三郎. 1941. 日本の禾本科植物第二. *植物分類, 地理*. 10 : 94-135.
- 大井次三郎. 1942. 日本の禾本科植物第四. *植物分類, 地理*. 11 : 145-193.
- POWO. 2026. Plants of the World Online. Royal Botanic Gardens, Kew. Available from: <http://www.plantsoftheworldonline.org/>
- 琉球の植物研究グループ. 2018. 「琉球の植物」データベース. 国立科学博物館. Available from: [https://www.kahaku.go.jp/research/activities/project/hotspot\\_japan/ryukyus/db/](https://www.kahaku.go.jp/research/activities/project/hotspot_japan/ryukyus/db/)
- SIG. 2026. Seed Identification Guide. [www.seedidguide.idseed.org](http://www.seedidguide.idseed.org)
- 島袋敬一. 1997. 琉球列島維管束植物集覧 [改訂版]. 九州大学出版会, 福岡.
- 鈴木英治, 丸野勝敏, 田金秀一郎, 寺田竜太, 久保紘史郎, 平城達哉, 大西亘. 2022. 鹿児島県の維管束植物分布図集—全県版—. 鹿児島大学総合博物館, 鹿児島.
- 鈴木邦雄. 1979. 琉球列島の植生学的研究. 横浜国立大学環境科学研究センター紀要. 5 : 87-160.
- Sosef M.S.M. 2016. Taxonomic novelties in Central African grasses (Poaceae), Paniceae 1. *Plant Ecology and Evolution*. 149: 356-365.
- 玉木陸斗. 2022. 沖縄で収集されたアワの農業形質について. *雑穀研究*. 37 : 6-11.
- 館岡亜緒. 1987. ツクシズメノカタビラ (イネ科) の特性と分布. *植物分類, 地理*. 38 : 176-186.
- 渡嘉敷義浩. 1993. 沖縄に分布する島尻マージおよびジャーガルの土壌特性. *ペドロジスト*. 37 : 9-112.
- 富永達, 西脇亜也, 水口亜樹, 江崎次夫. 2007. 雑草モノグラフ 5. チガヤ (*Imperata cylindrica* (L.) Beauv.). *日本雑草学会会報*. 52 : 17-27.
- 辻貴志. 2020. 沖縄県八重山郡小浜島の民俗植物学. *民俗文化*. 32 : 246-298.
- 植村修二, 勝山輝夫, 清水矩宏, 水田光雄, 森田弘彦, 廣田伸七, 池原直樹. 2010. 日本帰化植物写真図鑑第 2 巻, pp.462. 全国農村教育協会, 東京.
- Vavilov I. 1951. The origin, variation, immunity and breeding of cultivated plants. Translated from the Russian by K. Starrchester Ronald Press, New York.
- Walker E.H. 1976. Flora of Okinawa and the Southern Ryukyu Islands. Smithsonian Institution Press, Washington, D.C.
- Wessapak P., Ngernsaengsaruy C. 2022. Taxonomy of the genus *Melinis* (Poaceae) in Thailand, with lectotypification of three names. *Thai Forest Bulletin (Botany)*, 50: 40-51.
- 山本武能, 米倉浩司, 阿部篤志, 天野正晴, 遠山弘法, 設楽拓人, 田金秀一郎, 長谷川文, 加島幹男, 梶田忠, 副島顕子, 内貴章世. 2023. 沖縄県西表島産希少植物の島内分布調査と記録の確認—維管束植物相解明に向けて. *植物研究雑誌*. 98 : 178-191.
- 山崎仁也, 横田昌嗣, 知念美香, 仲宗根忠樹, 比嘉清文, 加島幹男. 2016. 鳩間島・新城 (上地・下地) 島・黒島の植物相. 鳩間島・新城島・黒島総合調査報告書. 13-68.
- 米倉浩司, 梶田忠. 2003. 植物和名—学名インデックス YList (YList), Available from: <http://ylist.info>.
- 吉村泰幸. 2015. 日本国内に分布する C4 植物のフロラの再検討. *日本作物学会紀事*. 84 : 386-407.

## Scientific Name Index

<i>Aptuda</i>	
<i>A. mutica</i> .....	54 (Fig. 31)
<i>Arthraxon</i>	
<i>A. hispidus</i> .....	55 (Fig. 32)
<i>Arundo</i>	
<i>A. donax</i> .....	47 (Fig. 25)
<i>A. formosana</i> .....	47 (Fig. 25)
<i>Avena</i>	
<i>A. fatua</i> .....	21 (Fig. 3)
<i>Axonopus</i>	
<i>A. compressus</i> .....	55 (Fig. 33)
<i>A. fissifolius</i> .....	55 (Fig. 33)
<i>Bambusa</i>	
<i>B. multiplex</i> .....	130
<i>B. oldhamii</i> .....	130
<i>B. vulgaris</i> .....	130
<i>Bothriochloa</i>	
<i>B. bladhii</i>	
var. <i>bladhii</i> .....	58 (Fig. 35)
var. <i>punctata</i> .....	58 (Fig. 35)
<i>B. ischaemum</i> .....	57 (Fig. 34)
<i>B. sp.</i> .....	58 (Fig. 35)
<i>Capillipedium</i>	
<i>C. kwashotense</i> .....	60 (Fig. 36)
<i>C. parviflorum</i> .....	61 (Fig. 37)
<i>C. spicigerum</i> .....	61 (Fig. 37)
<i>Cenchrus</i>	
<i>C. brownii</i> .....	62
<i>C. echinatus</i> .....	62 (Fig. 38)
<i>C. longispinus</i> .....	62
<i>Chikusichloa</i>	
<i>C. brachyanthera</i> .....	19 (Fig. 1)
<i>Chloris</i>	
<i>C. barbata</i> .....	26 (Fig. 8)
<i>C. divaricata</i> .....	25 (Fig. 7)
<i>C. gayana</i> .....	26 (Fig. 8)
<i>C. pycnothrix</i> .....	24 (Fig. 6)
<i>C. radiata</i> .....	25 (Fig. 7)
<i>Chrysopogon</i>	
<i>C. aciculatus</i> .....	63 (Fig. 39)
<i>C. zizanioides</i> .....	63 (Fig. 39)
<i>Coix</i>	
<i>C. lacryma-jobi</i> .....	65 (Fig. 40)
<i>Cymbopogon</i>	
<i>C. tortilis</i>	
var. <i>tortilis</i> .....	66 (Fig. 41)
var. <i>goeringii</i> .....	66
<i>Cynodon</i>	
<i>C. dactylon</i>	
var. <i>dactylon</i> .....	27 (Fig. 9)
var. <i>nipponicus</i> .....	27 (Fig. 10)
<i>C. nlemfuensis</i> .....	28 (Fig. 10)
<i>Cyrtococcum</i>	
<i>C. patens</i>	
var. <i>patens</i> .....	68 (Fig. 42)
var. <i>latifolium</i> .....	68
<i>Dactyloctenium</i>	
<i>D. aegyptium</i> .....	29 (Fig. 11)
<i>Dichanthium</i>	
<i>D. annulatum</i> .....	68 (Fig. 43)
<i>D. aristatum</i> .....	68 (Fig. 43)
<i>D. caricosum</i> .....	68
<i>D. sericeum</i> .....	68
<i>Digitaria</i>	
<i>D. ciliaris</i> .....	72 (Fig. 45)
<i>D. eriantha</i> .....	70, 72 (Fig. 44)
<i>D. henryi</i> .....	74 (Fig. 46)
<i>D. heterantha</i> .....	70 (Fig. 44)
<i>D. insularis</i> .....	74 (Fig. 47)
<i>D. leptalea</i> .....	74 (Fig. 48)
<i>D. milanjana</i> .....	70, 72
<i>D. mollicoma</i> .....	74
<i>D. pruriens</i> .....	72 (Fig. 45)
<i>D. radicata</i> .....	74 (Fig. 46)
var. <i>hirsuta</i> .....	74 (Fig. 46)
<i>D. sericea</i> .....	72
<i>D. setigera</i> .....	72 (Fig. 45)
<i>D. sp.</i> .....	74 (Fig. 48)
<i>D. violascens</i> .....	74 (Fig. 48)

<i>Diplachne</i>			
<i>D. fusca</i>			
<i>ssp. fusca</i> .....	38	(Fig. 19)	
<i>ssp. uninervia</i> .....	38	(Fig. 19)	
<i>Eccoilopus</i>			
<i>E. cotulifer</i> var. <i>densiflorus</i> .....	134	(Fig. 96)	
<i>Echinochloa</i>			
<i>E. colona</i> .....	78	(Fig. 49)	
<i>E. crus-galli</i>			
var. <i>crus-galli</i> .....	78	(Fig. 50)	
var. <i>formosensis</i> .....	78		
var. <i>praticola</i> .....	78	(Fig. 50)	
<i>E. hispidula</i> .....	78	(Fig. 50)	
<i>E. oryzicola</i> .....	78		
<i>Eleusine</i>			
<i>E. indica</i> .....	29	(Fig. 11)	
<i>Enteropogon</i>			
<i>E. dolichostachyus</i> .....	30	(Fig. 12)	
<i>Eragrostis</i>			
<i>E. atrovirens</i> .....	36	(Fig. 17)	
<i>E. brownii</i> .....	33	(Fig. 16)	
<i>E. cf. cilianensis</i> .....	32	(Fig. 14)	
<i>E. curvula</i> .....	32	(Fig. 14)	
<i>E. minor</i> .....	32	(Fig. 14)	
<i>E. multicaulis</i> .....	33	(Fig. 15)	
<i>E. tef</i> .....	33		
<i>E. tenella</i> .....	31	(Fig. 13)	
<i>E. tenuifolia</i> .....	33	(Fig. 15)	
<i>Eremochloa</i>			
<i>E. ophiuroides</i> .....	81	(Fig. 51)	
<i>Erianthus</i>			
<i>E. arundinaceus</i> .....	120		
<i>Eriochloa</i>			
<i>E. procera</i> .....	83	(Fig. 53)	
<i>E. villosa</i> .....	82	(Fig. 52)	
<i>Eulalia</i>			
<i>E. quadrinervis</i> .....	84	(Fig. 54)	
<i>Eustachys</i>			
<i>E. petraea</i> .....	37	(Fig. 18)	
<i>Garnotia</i>			
<i>G. acutigluma</i> .....	85	(Fig. 55)	
<i>Hackelochloa</i>			
<i>H. granularis</i> .....	86	(Fig. 56)	
<i>Hemarthria</i>			
<i>H. compressa</i> .....	87	(Fig. 57)	
<i>Hyparrhenia</i>			
<i>H. rufa</i> .....	88		
<i>H. sp.</i> .....	88	(Fig. 58)	
<i>Ichnanthus</i>			
<i>I. pallens</i> var. <i>major</i> .....	88	(Fig. 58)	
<i>Imperata</i>			
<i>I. cylindrica</i> var. <i>koenigii</i> .....	89	(Fig. 59)	
f. <i>pallida</i> .....	89		
<i>Isachne</i>			
<i>I. globosa</i> .....	50	(Fig. 28)	
var. <i>brevispicula</i> .....	50		
<i>I. kunthiana</i> .....	51	(Fig. 29)	
<i>I. lutchuensis</i> .....	51	(Fig. 29)	
<i>I. myosotis</i> .....	51	(Fig. 29)	
<i>I. nipponensis</i> .....	51		
<i>I. subglobosa</i> .....	50		
<i>Ischaemum</i>			
<i>I. aristatum</i>			
var. <i>aristatum</i> .....	94	(Fig. 63)	
var. <i>crassipes</i> .....	94		
<i>I. aureum</i> .....	90	(Fig. 62)	
<i>I. ciliare</i> .....	90	(Fig. 61)	
<i>I. muticum</i> .....	95	(Fig. 64)	
<i>I. rugosum</i> .....	90	(Fig. 60)	
<i>I. setaceum</i> .....	90	(Fig. 62)	
<i>Leersia</i>			
<i>L. hexandra</i> .....	20	(Fig. 2)	
<i>L. japonica</i> .....	20		
<i>Leptatherum</i>			
<i>L. nudum</i> .....	96		
<i>L. somae</i> .....	96	(Fig. 66)	
<i>Leptochloa</i>			
<i>L. chinensis</i> .....	38	(Fig. 20)	
<i>L. panicea</i> .....	38	(Fig. 20)	
<i>Lepturus</i>			
<i>L. repens</i> .....	41	(Fig. 21)	

<i>Lophatherum</i>					
<i>L. gracile</i> .....	53	(Fig. 30)			
<i>Megathyrsus</i>					
<i>M. maximus</i> .....	104	(Fig. 72)			
<i>Melinis</i>					
<i>M. repens</i> .....	96	(Fig. 65)			
<i>Microstegium</i>					
<i>M. ciliatum</i> .....	96	(Fig. 66)			
<i>Miscanthus</i>					
<i>M. floridulus</i> .....	98	(Fig. 67)			
<i>M. sinensis</i>					
var. <i>condensatus</i> .....	98	(Fig. 68)			
var. <i>sinensis</i> .....	98				
<i>Mnesithea</i>					
<i>M. laevis</i> .....	100	(Fig. 69)			
<i>Moorochloa</i>					
<i>M. eruciformis</i> .....	101	(Fig. 70)			
<i>Oplismenus</i>					
<i>O. aemulus</i> .....	102	(Fig. 71)			
<i>O. compositus</i>					
var. <i>compositus</i> .....	102	(Fig. 71)			
var. <i>owatarii</i> .....	102				
var. <i>patens</i> .....	102	(Fig. 71)			
<i>O. undulatifolius</i>					
var. <i>undulatifolius</i> .....	102	(Fig. 71)			
var. <i>imbecillis</i> .....	102	(Fig. 71)			
<i>Oryza</i>					
<i>O. sativa</i> .....	127				
<i>Panicum</i>					
<i>P. bisulcatum</i> .....	104	(Fig. 74)			
<i>P. dichotomiflorum</i> .....	104	(Fig. 73)			
<i>P. maximum</i> .....	104	(Fig. 72)			
<i>P. miliaceum</i> .....	127				
<i>P. repens</i> .....	104	(Fig. 75)			
<i>Paspalum</i>					
<i>P. conjugatum</i> .....	109	(Fig. 76)			
<i>P. distichum</i> .....	112	(Fig. 78)			
<i>P. longifolium</i> .....	113	(Fig. 79)			
<i>P. notatum</i> .....	109	(Fig. 76)			
<i>P. scrobiculatum</i>					
ssp. <i>scrobiculatum</i> .....	114				
ssp. <i>orbiculare</i>					
var. <i>iriomotense</i> .....	115	(Fig. 81)			
var. <i>orbiculare</i> .....	114	(Fig. 80)			
var. <i>velutinum</i> .....	114	(Fig. 80)			
<i>P. urvillei</i> .....	112	(Fig. 78)			
<i>P. vaginatum</i> .....	111	(Fig. 77)			
<i>Pennisetum</i>					
<i>P. polystachion</i> ssp. <i>setosum</i> .....	116	(Fig. 82)			
<i>P. purpureum</i> .....	117	(Fig. 83)			
<i>Phacelurus</i>					
<i>P. latifolius</i> .....	118	(Fig. 84)			
<i>Phragmites</i>					
<i>P. australis</i> .....	48	(Fig. 26)			
<i>P. japonicus</i> .....	49	(Fig. 27)			
<i>P. karka</i> .....	49	(Fig. 27)			
<i>Phyllostachys</i>					
<i>P. aurea</i> .....	130				
<i>Pleioblastus</i>					
<i>P. gozadakensis</i> .....	130				
<i>P. gramineus</i> .....	130				
<i>P. hindsii</i> .....	130				
<i>P. linearis</i> .....	130				
<i>Poa</i>					
<i>P. annua</i> .....	22	(Fig. 4)			
<i>P. crassinervis</i> .....	22	(Fig. 4)			
<i>Pogonatherum</i>					
<i>P. crinitum</i> .....	119	(Fig. 85)			
<i>Polypogon</i>					
<i>P. fugax</i> .....	23	(Fig. 5)			
<i>P. monspeliensis</i> .....	23	(Fig. 5)			
<i>Pseudosasa</i>					
<i>P. japonica</i> .....	130				
<i>Rottboellia</i>					
<i>R. cochinchinensis</i> .....	119	(Fig. 85)			
<i>Saccharum</i>					
<i>S. hyb.</i> ....	127				
<i>S. spontaneum</i>					
var. <i>arenicola</i> .....	120				
var. <i>spontaneum</i> .....	120	(Fig. 86)			
<i>Sacciolepis</i>					
<i>S. spicata</i>					
var. <i>oryzatorum</i> .....	122				
var. <i>spicata</i> .....	122	(Fig. 87)			

<b>Schizachyrium</b>		
<i>S. brevifolium</i> .....	123	(Fig. 88)
<b>Setaria</b>		
<i>S. italica</i> .....	127	
<i>S. pallide-fusca</i> .....	129	(Fig. 92)
<i>S. palmifolia</i> .....	124	(Fig. 89)
<i>S. parviflora</i> .....	124	(Fig. 90)
<i>S. plicata</i> .....	124	
<i>S. pumila</i> .....	129	(Fig. 92)
<i>S. sphacelata</i> .....	124	(Fig. 90)
<i>S. verticillata</i> .....	127	(Fig. 91)
<i>S. viridis</i> .....	127	(Fig. 91)
var. <i>pachystachys</i> .....	127	(Fig. 91)
<i>S. × pycnocomia</i> .....	127	(Fig. 91)
<b>Sorghum</b>		
<i>S. bicolor</i> .....	127	
<i>S. halepense</i> .....	130	(Fig. 94)
<b><i>S. nitidum</i></b>		
var. <i>nitidum</i> .....	130	(Fig. 93)
var. <i>dichroanthum</i> .....	130	
<i>S. × drummondii</i> .....	130	(Fig. 94)
<b>Spinifex</b>		
<i>S. littoreus</i> .....	133	(Fig. 95)
<b>Spodiopogon</b>		
<i>S. cotulifer</i> var. <i>densiflorus</i> .....	134	(Fig. 96)
<b>Sporobolus</b>		
<i>S. diandrus</i> .....	42	(Fig. 22)
<b><i>S. indicus</i></b>		
var. <i>major</i> .....	42	(Fig. 23)
var. <i>purpureosuffusus</i> .....	42	
f. <i>spiciformis</i> .....	42	
<i>S. virginicus</i> .....	42	(Fig. 23)
<b>Stenotaphrum</b>		
<i>S. secundatum</i> .....	135	(Fig. 97)
<b>Thuarea</b>		
<i>T. involuta</i> .....	135	(Fig. 97)
<b>Tripidium</b>		
<i>T. arundinaceum</i> .....	120	
<b>Triticum</b>		
<i>T. sp.</i> .....	127	
<b>Urochloa</b>		
<i>U. brizantha</i> .....	142	
<i>U. dictyoneura</i> .....	142	(Fig. 103)
<i>U. distachya</i> .....	139	(Fig. 101)
<i>U. eminii</i> .....	142	(Fig. 102)
<i>U. glumaris</i> .....	139	(Fig. 100)
<i>U. mutica</i> .....	136	(Fig. 98)
<i>U. platyphylla</i> .....	142	(Fig. 102)
<i>U. reptans</i> .....	139	(Fig. 100)
<i>U. sp.</i> .....	139	
<i>U. villosa</i> .....	136	
f. <i>glabriglumis</i> .....	136	(Fig. 99)
<b>Zizania</b>		
<i>Z. latifolia</i> .....	20	(Fig. 2)
<b>Zoysia</b>		
<i>Z. japonica</i> .....	45	(Fig. 24)
<i>Z. matrella</i> .....	45	(Fig. 24)
<i>Z. pacifica</i> .....	45	(Fig. 24)
<i>Z. sinica</i> var. <i>sinica</i> .....	45	(Fig. 24)

# 和名索引

## ア

アイアシ	118	(Fig. 84)
アイダガヤ	58	(Fig. 35)
アオシバ	85	(Fig. 55)
アキコスズメガヤ	33	(Fig. 15)
アキメヒシバ	74	(Fig. 48)
アシカキ	20	
アゼガヤ	38	(Fig. 19)
アツバハイチゴザサ	51	(Fig. 29)
アフリカキンエノコロ	124	(Fig. 90)
アフリカヒゲシバ	26	(Fig. 8)
アメリカスズメノヒエ	109	(Fig. 76)
アラゲコメヒシバ	74	(Fig. 46)
アラゲチチミザサ	102	
アワ	127	

## イ

イタチガヤ	119	(Fig. 85)
イトアゼガヤ	38	(Fig. 19)
イトスズメガヤ	33	(Fig. 16)
イトメヒシバ	74	(Fig. 48)
イヌシバ	135	(Fig. 97)
イヌヒエ	78	(Fig. 50)
イヌメヒシバ	72	(Fig. 45)
イネ	127	
イリオモテガヤ	19	(Fig. 1)
イリオモテスズメノヒエ	115	(Fig. 81)

## ウ

ウシクサ	123	(Fig. 88)
ウンヌケモドキ	84	(Fig. 54)

## エ

エダウチチチミザサ	102	(Fig. 71)
エノコログサ	127	(Fig. 91)

## オ

オオエノコロ	127	(Fig. 91)
オオギョウギシバ	27	(Fig. 10)
オオクサキビ	104	(Fig. 73)
オオササガヤ	96	(Fig. 66)
オオチゴザサ	50	
オオバチチミザサ	102	(Fig. 71)
オガサワラスズメノヒエ	109	(Fig. 76)
オガルカヤ	66	
オキナワカルカヤ	54	(Fig. 31)
オキナワミチシバ	63	(Fig. 39)
オニギョウギシバ	28	(Fig. 10)
オニササガヤ	68	(Fig. 43)
オヒシバ	29	(Fig. 11)

## カ

カシヨウアブラススキ	60	(Fig. 36)
カセンガヤ		
→ コウセンガヤ	25	(Fig. 7)
カモノハシ	94	
カモノハシガヤ	57	(Fig. 34)
カモノハシガヤ属の1種	58	(Fig. 35)
カラスムギ	21	(Fig. 3)
カンザンチク	130	

## キ

キシウスズメノヒエ	112	(Fig. 78)
キヌゲメヒシバ	72	
ギニアグラス		
→ ギネアキビ	104	(Fig. 72)
ギネアキビ	104	(Fig. 72)
キビ	127	
ギョウギシバ	27	(Fig. 9)
キンエノコロ	129	(Fig. 92)

## ク

クリーピングシグナルグラス	142	(Fig. 103)
クリノイガ	62	
クロイワザサ	135	(Fig. 97)
クロカゼクサ	36	(Fig. 17)

## ケ

ケチガヤ		
→ チガヤ	89	(Fig. 59)
ケチチミザサ	102	(Fig. 71)
ケナンチガヤ	89	
ケナンハイチゴザサ	51	(Fig. 29)
ケマルミスズメノヒエ	114	(Fig. 80)

## コ

コウシュンシバ	45	(Fig. 24)
コウセンガヤ	25	(Fig. 7)
コウライシバ	45	(Fig. 24)
コオニシバ	45	(Fig. 24)
コササキビ	124	
ゴザダケザサ	130	
コスズメガヤ	32	(Fig. 14)
コチチミザサ	102	
コツブキンエノコロ	129	(Fig. 92)
コツブチゴザサ	50	
コハナカモノハシ	90	(Fig. 62)
コバノウシノシッペイ	87	(Fig. 57)
コヒメビエ→ ワセビエ	78	(Fig. 49)
コブナグサ	55	(Fig. 32)
コムギ	127	
コメヒシバ	74	(Fig. 46)
コモロコシガヤ	130	(Fig. 93)

<b>サ</b>					
ササキビ	124	(Fig. 89)	タツノツメガヤ	29	(Fig. 11)
ササクサ	53	(Fig. 30)	ダンチアプラススキ	134	(Fig. 96)
サトウキビ	127		ダンチク	47	(Fig. 25)
ザラツキエノコロ	127	(Fig. 91)	<b>チ</b>		
サウスズメノヒエ	111	(Fig. 77)	チガヤ	89	(Fig. 59)
<b>シ</b>			チゴザサ	50	(Fig. 28)
シグナルグラス	142		チヂミザサ	102	
シナダレスズメガヤ	32	(Fig. 14)	チャボウシノシッペイ	81	(Fig. 51)
シバ	45	(Fig. 24)	<b>ツ</b>		
シマオガルカヤ	66	(Fig. 41)	ツキイゲ	133	(Fig. 95)
シマヒゲシバ	26	(Fig. 8)	ツクスズメノカタビラ	22	(Fig. 4)
ジャイアントスターグラス			ツノアイアシ	119	(Fig. 85)
→ オニギョウギシバ	28	(Fig. 10)	ツルメヒシバ	55	(Fig. 33)
ジュズダマ	65	(Fig. 40)	ツルヨシ	49	(Fig. 27)
シラゲオニササガヤ	68		<b>テ</b>		
シンクリノイガ	62	(Fig. 38)	ディジットグラス	70,72	(Fig. 44)
<b>ス</b>			テフ	33	
スイショウガヤ	37	(Fig. 18)	<b>ト</b>		
スーダングラス	130	(Fig. 94)	トキウススキ	98	(Fig. 67)
ススキ	98		トランスバーラ	70,72	
ススキメヒシバ	74	(Fig. 47)	<b>ナ</b>		
スズメガヤ	32	(Fig. 14)	ナガバスズメノヒエ	113	(Fig. 79)
スズメノカタビラ	22	(Fig. 4)	ナガヒゲシバ	24	(Fig. 6)
スズメノコビエ	114	(Fig. 80)	ナピアグラス	117	(Fig. 83)
スリナムグラス	142	(Fig. 102)	ナルコビエ	82	(Fig. 52)
<b>セ</b>			ナンゴクワセオバナ	120	(Fig. 86)
セイコノヨシ			<b>ニ</b>		
→ セイタカヨシ	49	(Fig. 27)	ニクキビ	139	(Fig. 101)
セイタカヨシ	49	(Fig. 27)	ニクキビモドキ	139	(Fig. 100)
セイバンモロコシ	130	(Fig. 94)	ニクキビモドキ属の1種	139	
セタリアグラス			ニセアゼガヤ	38	(Fig. 20)
→ アフリカキンエノコロ	124	(Fig. 90)	ニワホコリ	33	(Fig. 15)
センチピードグラス			<b>ヌ</b>		
→ チャボウシノシッペイ	81	(Fig. 51)	ヌカカゼクサ	31	(Fig. 13)
<b>ソ</b>			ヌカキビ	104	(Fig. 74)
ソナレシバ	42	(Fig. 23)	ヌメリグサ	122	
<b>タ</b>			<b>ネ</b>		
ダイサンチク	130		ネズミノオ	42	
ダイトンチゴザサ	51	(Fig. 29)	<b>ノ</b>		
ダイトンチヂミザサ	102	(Fig. 71)	ノゲタイヌビエ	78	(Fig. 50)
タイヌビエ	78		<b>ハ</b>		
タイミンチク	130		ハイキビ	104	(Fig. 75)
タイワンアイアシ	90	(Fig. 60)	ハイシバ	41	(Fig. 21)
タイワンアシカキ	20	(Fig. 2)	ハイチゴザサ	51	
タイワンカモノハシ	94	(Fig. 63)	ハイヌメリ	122	(Fig. 87)
タイワンササキビ	88	(Fig. 58)	ハチジョウススキ	98	(Fig. 68)
タチスズメノヒエ	112	(Fig. 78)	ハナカモノハシ	90	(Fig. 62)

ハハキメヒシバ					
→ ヒトタバメヒシバ	72	(Fig. 45)			
ハマエノコロ	127	(Fig. 91)			
ハマガヤ	38	(Fig. 20)			
ハマヒエガエリ	23	(Fig. 5)			
パラグラス	136	(Fig. 98)			
<b>ヒ</b>					
ヒエガエリ	23	(Fig. 5)			
ヒツバリガヤ	88				
ヒツバリガヤ属の1種	88	(Fig. 58)			
ヒトタバメヒシバ	72	(Fig. 45)			
ヒナヨシ	47	(Fig. 25)			
ヒメアブラススキ	61	(Fig. 37)			
ヒメイヌビエ	78	(Fig. 50)			
ヒメウシノシッペイ	100	(Fig. 69)			
ヒメオニササガヤ	68	(Fig. 43)			
ヒメカモノハシ	90	(Fig. 61)			
ヒメキビ	139	(Fig. 100)			
ヒメクリノイガ	62				
ヒメズズメノヒエ	101	(Fig. 70)			
ヒメタイヌビエ	78				
ヒメチゴザサ	68	(Fig. 42)			
ヒメヒゲシバ	25	(Fig. 7)			
ピロードキビ	136				
ピロードメヒシバ	74				
ヒロハヒメチゴザサ	68				
<b>フ</b>					
フシネケンエノコロ	124	(Fig. 90)			
フタシベネズミノオ	42	(Fig. 22)			
フタマタメヒシバ	70	(Fig. 44)			
<b>へ</b>					
ベチベルソウ	63	(Fig. 39)			
ヘンリーメヒシバ	74	(Fig. 46)			
<b>ホ</b>					
ホウライチク	130				
ホソバチヂミザサ	102	(Fig. 71)			
ホソバツルメヒシバ	55	(Fig. 33)			
ホテイチク	130				
<b>マ</b>					
マキバチカラシバ	116	(Fig. 82)			
マコモ	20	(Fig. 2)			
マルミスズメノヒエ	114				
<b>ミ</b>					
ミヤマササガヤ	96				
<b>ム</b>					
ムラサキオヒゲシバ	30	(Fig. 12)			
ムラサキネズミノオ	42				
ムラサキノキビ	83	(Fig. 53)			
			ムラサキヒゲシバ		
			→ シマヒゲシバ	26	(Fig. 8)
			<b>メ</b>		
			メヒシバ	72	(Fig. 45)
			メヒシバ属の1種	74	(Fig. 48)
			メリケンニクキビ	142	(Fig. 102)
			メンテンササガヤ	96	(Fig. 66)
			<b>モ</b>		
			モロコシ	127	
			モロコシガヤ	130	
			モンツキガヤ	58	(Fig. 35)
			<b>ヤ</b>		
			ヤエガヤ	86	(Fig. 56)
			ヤエヤマカモノハシ	95	(Fig. 64)
			ヤダケ	130	
			<b>ヨ</b>		
			ヨシ	48	(Fig. 26)
			ヨシススキ	120	
			<b>ラ</b>		
			ラシャキビ	136	(Fig. 99)
			<b>リ</b>		
			リュウキュウチク	130	
			リュウキュウネズミノオ	42	(Fig. 23)
			リュウキュウヒメアブラススキ	61	(Fig. 37)
			リョクチク	130	
			<b>ル</b>		
			ルビーガヤ	96	(Fig. 65)
			<b>ロ</b>		
			ローズグラス		
			→ アフリカヒゲシバ	26	(Fig. 8)
			<b>ワ</b>		
			ワセオバナ	120	
			ワセビエ	78	(Fig. 49)

## 執筆者 Authors

南嶋自然誌研究会 Nanto Natural History Research Group

森脇大樹 Hiroki Moriwaki (自然環境研究センター, 統括編集・図版編集・本文執筆)  
駒田夏生 Natsuki Komada (広島大学, 図版編集・図版作成・本文執筆)  
中島一豪 Kazuhide Nakajima (中央大学, 図版編集・図版作成・本文執筆)  
岡野武琉 Takeru Okano (東京農業大学, 図版作成)  
岡本鮎樹 Ayuki Okamoto (京都大学, 図版作成)  
武生雅明 Masaaki Takyu (東京農業大学, 本文編集)

## 編集委員 Editorial board

森脇大樹 Hiroki Moriwaki  
駒田夏生 Natsuki Komada  
中島一豪 Kazuhide Nakajima

## 謝辞 Acknowledgement

本書の執筆と編集にあたり、鹿児島大学総合研究博物館の田金秀一郎氏、徳島県立博物館の茨木靖氏、大阪公立大学の仲摩駿佑氏、自然環境研究センターの山崎海都氏ならびに大原佑太氏、熊本森林管理署の塩崎暢彦氏にご協力いただきました。標本調査および資料閲覧に際して、植物標本庫 (HNU, KAG, KPM, KYO, OCF, OKAY, OPM, RYU, SAR, TI, TKPM, TNS, URO) の学芸員およびスタッフの皆様にご助力いただきました。本書の出版にあたり、第34期および第36期自然保護助成基金 (プロ・ナトゥーラ・ファン ド)、2024年度広島大学スタートアップ経費の助成を受けました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

The authors gratefully acknowledge the assistance and support of Shuichiro Tagane (Kagoshima University Museum), Yasushi Ibaragi (Tokushima Prefectural Museum), Shunsuke Nakama (Osaka Metropolitan University), Kaito Yamazaki and Yuta Ohara (Japan Wildlife Research Center), and Nobuhiko Shiozaki (Kumamoto District Forest Office) in the writing and compilation of this book. The authors also thank the staff of herbarium of HNU, KAG, KPM, KYO, OCF, OKAY, OPM, RYU, SAR, TI, TKPM, TNS, and URO for reference of specimens. The publication of this book was financially supported by the 34th and 36th Pro Natura Fund of the Pro Natura Foundation, and the 'Start-up Funding for Young Researchers' from Hiroshima University to Natsuki Komada (HU-SFYR\_NK).

## 八重山諸島のイネ科検索ハンドブック 石垣島・西表島編

### Illustrated Guide to the Poaceae of the Yaeyama Islands: Ishigaki and Iriomote

2026年3月28日 初版 第2刷発行  
First edition and first printing, March 28, 2026

編者 Editor: 南嶋自然誌研究会 Nanto Natural History Research Group

発行者 Publisher: 鹿児島大学総合研究博物館 Kagoshima University Museum  
〒890-0065 鹿児島県 鹿児島市 郡元1-21-30  
1-21-30, Korimoto, Kagoshima City, 890-0065, Japan

印刷・製本所 Printing and binding: 株式会社ポプルス Popls Co., Ltd.



ISBN 978-4-9050464-25-9

